

様式第三十七號

未監置精神病者名簿	病性病性		發病年月	日原年	月轉系	上書建白	請願要路	顯官訪問	等相及特	徵人相及特	宗教並信	政治思想	教育程度	動行及歷經	
	病狀	性質												好長所並嗜	資生活狀態
大正 年 月 日 調査	本籍身分	職業氏名	現住居	及來住	年月日	看護義務	者氏名生	年月日	保者トノ	家族ノ	名及庭	ノ狀況	資生活狀態	好長所並嗜	

〔神奈川警〕

様式第三十九號

罪名	犯法刑				大正 年 月 犯罪事件捜査成績表	當署ニテ檢舉	所轄内ノ犯罪テ檢	時效	消滅	未済	所轄外ノ犯罪檢舉
	強盜	窃盜	何々	何々							
計	計	計	計	計							

〔神奈川警〕

様式第四十號

罪名	令法別特				大正 年 月 拘留科料事件即決處分表	拘留科料	正式裁判請求	有無	罪免	訴
	森林法違反	狩獵法違反	何々	何々						
計	計	計	計	計						

(面裏)

相人ハ又眞寫	撮影年月日				本人ノ本籍	住居職業通	生年月日	身長特微及	好樂又ハ嗜	立廻地並ニ	知人其ノ他	ノ参考
	撮影場所	撮影官署名	犯行爲ノ大	要行爲ノ大								

様式第三十八號 (人相識別簿)







警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ區長ヲ置ク地ニ於ケル犯罪ニ付テハ司法警察吏ノ職務ハ區長之ヲ行フ

第七條 海船(沿海航路以上ノ航路ヲ航路定限トスル總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノモノ)ノ船長ハ其ノ船内ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ  
前項ノ海船内ニ於ケル司法警察吏ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ

附則

本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十四年十月十日  
司法省達丙第十三號

警視廳 府縣 東京府  
ヲ除ク

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦候條此旨相達候事

但代理ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ハ豫シメ其地方「輕罪」或「違警罪」裁判所へ通牒致置候儀ト心得ヘシ

●警部代理巡查裁判上取扱方

明治十六年二月二十四日  
司法省達丁第九號

大審院 裁判所

明治十四年十月當省甲第五號布達ニ據リ巡查ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件ニ付テハ裁判上渾テ警部同様ノ取扱ヲ爲スヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ概觸スル條件ハ取消候事

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

●犯人證人等拇印ノ件

明治十四年十二月五日  
司法省達丙第十六號

大審院 裁判所 警視廳 府縣 東京ヲ  
除ク

〔治罪法〕中犯人證人等押印ノ條々實印無之者ニ限リ從來ノ慣例ニ依リ拇印爲致候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

●司法事務取扱ニ關スル件

大正三年十二月九日  
寅警保收第七二七五號保安課長通牒

司法事務取扱注意ニ關シ檢事ニ對シ別紙ノ通り通牒アリシ旨ヲ以テ横濱地方裁判所檢事正ヨリ警察部長へ來示ノ次第モ有之候條該通牒ノ趣旨ニヨリ御取扱相成度依命此段及通牒候也

〔別紙寫〕

司法省 刑乙第六一〇七號(大正三年十二月三日司法省法務局長)

犯罪ノ手段新奇ナル爲メ傳播性ヲ存シ容易ニ他人ノ模倣スルコトアルヘキ虞アル場合ニアリテハ捜査並ニ訴追ノ手續ニ際シ嚴ニ之ヲ秘密ニシ殊ニ新聞紙其ノ他ノ公刊物ニ掲載セシメサル様御留意有之度此段及通牒候也

●刑法第二編第一章皇室ニ對スル犯罪事件取扱ニ付通

達

大正十一年五月十二日  
秘發第九〇號横濱地方裁判所檢事正南谷知悌

警察部長 警察署 同分署長 憲兵隊 同分遣所長宛

首題犯罪ノ嫌疑アルコトヲ認知シタル場合猶豫スヘカラサル事項ノ外ハ捜査ニ著手前内密當職ニ急報シ指揮ヲ待テ後取扱可有之其ノ筋ヨリ内示ノ次第モ有之此段及通達候也

●通信業務ニ關スル犯罪處理ノ件

大正九年一月二十六日  
内務省秘第三一五二號警保局長通牒



通信業務及其附帶業務ニ關スル犯罪處理ニ關シ司法省刑事局ヨリ要望ノ次第モ有之事件認知ノ上ハ直ニ告發ヲ爲シ一層捜査ノ著手ヲ迅速ナラシムル様相互協定ノ上實行ノコトト相成候趣通信省通信局長ヨリ照會有之就テハ是ニ件ヒ警察官署ニ於テ捜査上郵便官署ニ臨檢ヲ要スル場合ハ執行官吏ヲシテ通信ノ秘密ヲ保持セシムルハ勿論業務ノ進行上支障ノ有無ヲ考慮シ執行ニ當ラシメラレ候様致度尙犯罪ノ手段ヲ新聞紙上ニ公表スルハ往往犯罪増加ノ誘因ト可相成候ニ付可成掲載見合方ノ義ニ關シテハ去ル大正五年三月八日秘第六二〇號ヲ以テ依命通牒致置候次第モ有之平素ニ於テ相當御配慮相成居候義ト被存候得共犯罪ノ増加ニ伴ヒ近來新聞紙上ニ掲載セラレルモノ多多有之事業ノ信用上看過スヘカラサルヲ以テ旁々如上ニ關シ司法通信兩省ニ於テ左記ノ通り勸行方協定相成候趣ニ候間本件ノ趣旨警察官署長ニ對シ周到御示達ノ上之レカ處理ヲ慎重ニセシメラレ候様御取計相煩度候

記

- 一、犯罪捜査上通信ノ秘密ヲ侵ス虞レアルモノニ付テハ司法警察官等ニ捜査ノ指揮ヲ爲スコトヲ避ケ必ス檢事直接捜査ノ任ニ當ルコト
- 二、事業上ノ犯罪手段ハ嚴重ニ秘密ヲ守リ之ヲ公表セサルハ勿論外間ニ漏レサル様注意ヲ爲スコト
- 三、犯罪捜査ノ爲メ或事業運行上支障ヲ來スノ虞アルニ付特ニ左ノ點ニ留意スヘキコト
  - (イ) 一時ニ多數ノ關係人ヲ呼ビ出スコトハ可成之ヲ避ケヘキコト尤モ捜査ノ狀況ニ因リ其ノ必要アル場合ニ於テハ豫メ通信官署ト打合テ遂ケ事業ノ運行ニ支障ヲ來ササル様相當ノ處置ヲ講スルコト
  - (ロ) 帳簿ノ檢閱其ノ他郵便物ノ現狀ヲ調査スルカ如キ場合ニ於テハ可成通信官署ト打合テ爲シ通信事務ニ支障ヲ來ササル様注意スルコト
  - (ハ) 被告人ノ拘束又ハ釋放其ノ他事案ノ措置ニ付必要アル場合ニ於テハ通信官署ノ意見ヲモ參酌シ機宜ノ措置ヲ爲シ以テ通信事務ノ支障ヲ來ササル様注意スルコト

### 郵便配達夫同集配人犯罪及郵便物處分

明治十八年十二月 巳第四八號

郵便物遞送人並ニ集配人犯罪ノ廉アリ其ノ服務中司法警察官又ハ巡査ニ於テ逮捕若クハ引致シタル場合アルトキハ〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

同官又ハ巡査ニ於テ速カニ代夫ヲ使用シ其遞送人ノ携帶セル郵便物ハ最寄郵便局又ハ其集配人ノ携帶セル郵便物ハ所轄郵便局ヘ送達方可取計此旨相達候事但該送達方ニ係ル費用ハ驛遞局ヨリ下渡スヘク答ニ付其都度本人ノ請求書ヲ添ヘ受取方申出ツ可シ

### 鐵道事故二件ノ業務上過失傷害事件ニ關スル件

大正九年七月三日 官現第三五號鐵道大臣

司法大臣宛

從來當省所管鐵道ノ運轉ニ際シ事故ヲ惹起シ業務上ノ過失傷害事件ヲ伴ヒタル時ハ檢事又ハ司法警察官ニ於テ當該列車ノ乗務員又ハ驛員ヲ直ニ現場ヨリ引致シ甚シキニ至リテハ數日間拘留スル事例往々有之候處

- 一、右等職員中ニハ判任官タル者モ少カラス其他ノ雇傭人ニ在リテモ何レモ公職ヲ奉スル者ニシテ當省亦當ニ公務員トシテ待遇シツツアルノミナラス各自力責任ヲ以テ其ノ職務ヲ執行スルニ至ル迄ニハ相當年月ノ教育ヲ施シ從テ技術上相當ノ技術ト經驗トヲ有スル次第ニシテ彼等職員ニ於テモ各自其ノ責任ヲ自覺シ居ルモノニ付キ審理中逃亡シ又ハ進ンテ證據湮滅ヲ爲スカキコト無シト確信致居候
- 二、且ツ鐵道ノ業務ハ今日ノ科學ノ程度ニテハ多少ノ危險ヲ伴フモノナルヲ以テ當省ニ於テハ鐵道業務本來ノ性質上運轉ノ安全ヲ期スルヲ要スルハ勿論ニシテ右運轉事故ノ防止ノ爲メニ常ニ鋭意研究ヲ盡シ著々實行シ居候モ職員ニシテ事故ニ遭遇シ生命ヲ損スルモノ往々有之是等殉職者ニ對シテハ年々官費ヲ以テ壯嚴ナル祭典ヲ舉行シ遺族ヲ招待シ自ラ祭主トナリテ其ノ靈ヲ弔フ等殉職ノ精神ヲ鼓吹罷在候處偶々事故公衆ノ傷害ヲ伴フ場合ニ於テハ普通ノ犯罪人ト同様拘引又ハ拘留セラレルカ如キハ當省ニ關係職ノ不名譽トスル處ナル已ナラス彼等ノ同僚間ニ於テ激昂ノ結果不穩ノ行動ニ出テントスルカ如キ事懸テ生シ當局ニ於テ辛ク鎮撫シタル事例モ有之機關車乗務員ノ如キハ大日本機關車乘務員會ナルモノヲ組織シテ斯ノ問題ヲ劇シク論議スルカ如キ形勢ナルヲ以テ此ノ儘ニ打過クル時ハ忌ハシキ事件ヲ惹起スルノ虞モ有之候
- 三、運轉事故ニ伴フ過失殺傷事件ノ審理ニハ必スシモ關係者ヲ拘引又ハ拘留セラレストモ既ニ逃亡又ハ證據湮滅ノ虞ナシトモ審理ノ必要ノ日時ヲ指定シテ警察署又ハ檢事局ニ呼出サル時ハ應召出頭セシムルコトトモハ審理上別段ノ支障モ有之間敷被認候間此ノ際至急各裁判所檢事ニ對シ鐵道事故二件ノ業務上ノ過失傷害事件ノ場



合ニハ關係職員ノ拘引又ハ拘留ヲ爲ササル様御調令相成様致度

追テ本件ハ當省官房現業調査課長ト貴省刑事局長ト合議濟ニ有之候ニ付爲念

●未成年犯罪者生年月日記載方ノ件

大正十年十二月七日  
檢發第三九六九號橫濱區裁判所檢事局

各警察官署長宛

未成年者ノ犯罪ニ付テハ特殊ノ取扱ヲ爲ス必要有之候條自今總テ送致記録意見書ニ其ノ生年月日ヲ明記有之度候

●刑事被告人身元調査ニ關スル件

明治三十一年二月一日  
調令第一號

郡役所 市役所

刑事被告人ノ身元調査ニ關シ檢事局及司法警察官ヨリ別記第一第二書式ニ依リ照會アリタルトキハ特ニ迅速ノ調査ヲ遂ケ市長ハ直ニ指定ノ檢事局ニ回送シ郡長ハ町村長ヲシテ同様ノ手續ヲ爲サシムヘシ

檢發第何號

何府縣何市郡區町村番地身分職業

何 某

右犯罪事件取調上必要ニ付左ノ廉々御取調各項記入ノ上全紙ノ儘至急御返戻相成度此段及照會候也

但右名籍ニ少異アルモ此者ニ適合セリト推考セラル、モノアレハ其者ノ事項御取調記入有之度候

明治何年何月何日 橫濱地方裁判所檢事局

何縣何市町村役場御中

何月何日領收 市町村長ノ本紙ヲ受取タル月日ナリ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

氏名	本字	姓	三枝	名	啓
	假名				
生年月日	明治元年一月一日				
身分職業	平民 農業 縣會議員 何村長				
住所	何府縣何市郡區町村何番地				
出生地	何府縣何市郡區町村何番地				
本籍	何府縣何市郡區町村何番地				
軍籍位					
勳恩給之有無	何々				
右記入ノ事項相違無之候也	明治何年何月何日 橫濱地方裁判所檢事局御中				
戸主同人父 某 何年何月何日生					
母 何年何月何日生					
兄 某 何年何月何日生					
妹 何年何月何日生					
前科年月日及罪名刑名					
明治何年何月何日 何月監視何月					
何年何月何日何廳ニテ何々罪重禁錮					
テ何々罪重禁錮何月					
監視何月					
本人ノ在否					
目下在宅シ居レリ					
目下逃亡シテ所在不明					

第二書式

何府縣何市郡區町村番地身分職業

何 某

右犯罪事件取調上必要ニ付左ノ廉々御取調各項記入ノ上全紙ノ儘至急何々地方裁判所檢事局ヘ回送有之度候也

但右名籍ニ少異アルモ此者ニ適合セリト推考セラル、モノアレハ其者ノ事項御取調記入有之度候

第二編 保安 第九章 司法

一九五七







### 人訊問ヲ爲ス場合ニ於ケル立會人ニ關スル件通牒

大正十四年四月十五日  
檢發第一〇九五號

勅令第五百二十八號第四條第四號ノ司法警察官ノ職務ヲ行フ者カ現行犯處分ヲ爲シ被疑者若ハ證人ヲ訊問スルニ當リ法定ノ立會人ナク而モ急速ヲ要シ檢事ノ指揮ヲ受ケル邊ナキノ故ヲ以テ直接林區出張所所在駐在巡查ニ對シ立會ヲ求メ來リタルトキハ便宜其ノ請求ニ應スル様豫メ各地駐在巡查ニ通牒方御取計相成度此段得貴意候也  
追テ林區署ニ對シテハ別紙寫ノ通り通知致置候條爲念申添候也  
別紙寫

司法警察官ノ職務ヲ行フ者カ現行犯處分被疑者若ハ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於ケル立會人ニ關スル件同  
答 (大正十四年四月十五日檢發第一〇九四號)

一、司法警察官ノ職務ヲ行フ者カ被疑者若ハ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テ下條ニ司法警察吏ノ職務ヲ行フヘキ者ナキトキハ同僚タル司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニシテ代リテ立會ヲ爲サシムルチ一般ノ例トスレトモ司法警察官ノ職務ヲ行フ者一名駐在スルノミニテ他ニ適格者ナキカ又ハ二名駐在スルモ一名カ林區巡視等ノ爲メ出張シ他ニ同僚ナク事實上立會ヲ求ムルコト不可能ナル場合ニ於テ急速ヲ要シ檢事ノ指揮ヲ受ケル邊ナキトキハ司法警察官執務規範第二十八條ノ規定ニ拘ラス直接林區出張所所在駐在巡查ニ援助ヲ求メ立會ヲ爲サシムルコトヲ得ル義ト了知可有之候

### 犯罪捜査ニ關スル件

大正八年八月八日  
秘訓示甲第一一九號

近時世運ノ進展ニ伴ヒ犯罪捜査愈々困難ニ益々複雑トナリ其ノ實績ヲ擧グル亦容易ニアラサルニ至レリ爰ニ於テ今同犯罪捜査ノ事務ヲ保安課ヨリ分離セシメ新タニ刑事課ヲ増設シ以テ現今ノ趨勢ニ對應シ捜査能率ヲ向上シ依テ以テ犯罪捜査ノ效果ヲ完カラシメントス  
然ト雖モ新設刑事課ハ特種ノ場合ヲ除クノ外獨立シテ捜査ニ從事スルコトナク各警察官署ノ捜査ヲ援助シ其ノ連絡

(神奈川警)

(神奈川警)

ヲ採リ統一ナ期スルヲ以テ主眼ト爲スカ故ニ常ニ發生スル犯罪事件ノ捜査ハ主トシテ當該警察官署ノ努力ニ俟タサル可カラサルハ勿論其ノ責任モ亦擧テ警察官署ニ歸スルモノナルヲ以テ部下各員ニ對シ右趣旨ヲ徹底セシメ捜査上遺漏ナカラシムルト同時ニ各警察官署ニ於テモ此際司法主任者ヲ定メ以テ捜査事務ノ進歩發達ヲ圖リ一層ノ效果ヲ擧ケシコトニ努力セラレヘシ

### 犯罪捜査規程

大正八年八月二十日  
神奈川縣內訓第五號

改正 大正十一年六月內訓第一號、一〇月第二號

- 第一條 本規程ハ犯罪捜査ノ敏活ト事務ノ統一ナ期シ其ノ進歩發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 犯罪捜査ハ須ク周密ナル注意ト明敏ナル觀察トニ依リ一定ノ方針ヲ樹テ且ツ持續的ニ檢舉ノ遂行ナ期スヘシ
- 第三條 犯罪捜査ニ從事スル者ハ協力一致熱誠以テ事ニ當リ且ツ互ニ連絡ヲ保チ共助ナシ一己ノ功名ヲ得シコトヲ避ケ全局ノ成績ヲ擧ケンコトニ留意スヘシ  
又特ニ秘密ヲ嚴守シ上官ニ申告スルノ外置ニ之ヲ漏洩スヘカラス
- 第四條 警察部刑事課長ハ上官ノ命ヲ受ケ縣下全般ニ於ケル捜査事務ヲ監督シ部下ノ警部警部補、刑事巡查ヲ指揮監督ス
- 第五條 警察部刑事課勤務ノ警部警部補ハ上官ノ命ヲ受ケ警察部ニ屬スル刑事巡查及警察部ニ應接シタル刑事巡查ヲ指揮監督シ縣下犯罪事件捜査ヲ監査スヘシ
- 第六條 警察部刑事巡查ハ警察官署ノ刑事巡查ト協力シ其擔當ニ屬スル重要犯罪事件ノ捜査ニ從事スヘシ但シ警察官署ニ應接シタルトキハ所轄警察署長ノ指揮監督ヲ受クヘシ
- 第七條 各警察官署刑事巡查ハ所屬上官ノ指揮監督ヲ受ケ捜査ニ從事スヘシ但シ他ニ應接シタルトキハ其ノ所轄警察官署長ノ指揮監督ヲ受クヘシ
- 第八條 警察部刑事課長ハ豫メ縣下各警察官署及警察部刑事課勤務ノ刑事巡查ヲ以テ捜査班ヲ組織シ警察部長ノ指揮ヲ受ケ隨時其ノ全部若ハ其ノ一部ヲ召集シテ各警察署管内ニ於テ發生シタル事件ノ犯人檢舉ニ當ラシメ又ハ必



要ニ應シ各警察官署勤務ノ刑事巡查ヲ警察部ニ應接セシムルコトヲ得

第九條 警察部刑事課長ハ警察官署長ノ要求ナキ場合ト雖捜査上必要ト認メタルキハ警察部長ノ指揮ヲ受ケ其ノ課在勤若ハ警察部ニ應接シタル刑事巡查ヲ犯罪地ニ派遣スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨所轄警察官署長ニ通報スヘシ

第十條 前條ニ依リ派遣ノ命ヲ受ケタル刑事巡查ハ捜査ニ關シ事件ノ繁屬スル警察官署長ノ指揮ニ從フヘキハ勿論捜査進行ノ狀況ハ隨時刑事課長ニ報告スヘシ

第十一條 警察官署長ハ必要ナル場合ニ於テハ互ニ協商シテ其ノ所屬ニ非サル刑事巡查ヲ直接指揮スルコトヲ得

第十二條 警察官署長ハ殺人強盜放火其ノ他重要事件アリタルトキハ速カニ現場ニ臨檢シ其ノ方針ヲ樹テ捜査ニ著手スヘシ但シ署長自ラ臨檢スルコト能ハサル事由アルトキハ警部警部補(警部警部補ノ配置ナキ警察署ニアリテハ巡查部長)ヲシテ臨檢セシムヘシ

第十三條 犯罪ヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速カニ犯罪ノ動機手段方法供用物件狀況犯人ト被害者トノ關係證憑若ハ犯人ノ相貌著衣遺留品筆蹟指紋及寫眞其他捜査ノ端緒トナルヘキモノヲ精査蒐集スルコトニ努ムヘシ

第十四條 左ニ掲グル犯罪發生シタルトキハ速カニ警察部長ヘ報告シ捜査上必要ト認メタルトキハ縣下各警察官署ニ通報スヘシ(報告又ハ通報ハ電信電話ヲ以テシタル後書面ヲ以テスヘシ)犯人ヲ檢擧シタルトキ亦同シ但シ通報ハ犯罪ノ狀況又ハ犯人其他ノ關係ニヨリ縣下各警察官署ノ幾部ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ省略シタル官署名ヲ報告書ニ記載スヘシ

- 一、逃走ニ關スル犯罪
- 二、放火ニ關スル犯罪
- 三、通貨及有價證券偽造ニ關スル犯罪
- 四、文書及印章偽造ニ關スル犯罪(輕微ナルモノヲ除ク)
- 五、殺人ニ關スル犯罪
- 六、傷害ニ關スル犯罪(輕微ナルモノヲ除ク)

(神奈川警)

(神奈川警)

七、遺棄ニ關スル犯罪

八、窃盜ノ犯罪ニシテ左ニ該當スルモノ

(イ)被害金額二百圓以上ノモノ

(ロ)拘摸部師

(ハ)刀劍銃砲火藥又ハ社寺ノ寶物類ノ被害ニ關スルモノ

(ニ)土藏、破石切、土臺堀

九、強盜ニ關スル犯罪

十、強姦ニ關スル犯罪

十一、詐欺及恐喝ニ關スル罪但シ被害金額三百圓以上ノモノ

十二、横領ニ關スル犯罪但シ被害金額三百圓以上ノモノ

十三、阿片煙ニ關スル犯罪

十四、交通機關ニ關スル犯罪

十五、手段ノ巧妙嶄新特殊ナル犯罪

十六、前各號ノ外重要ト認ムル犯罪

第十五條 前條ニ依リ犯罪手配ノ通報ヲ受ケタル警察官署ハ直ニ捜査手配ヲ爲スヘシ

第十六條 事件發生地ノ警察官署ハ第十四條各號ノ犯罪發生後七日以内ニ檢擧スルコト能ハサルトキハ附錄第一號様式ノ犯罪捜査繼續簿ニ記載シ引續キ捜査スヘシ

第十七條 他ノ警察官署ヨリ通報ヲ受ケタル事件ニシテ重要ト認メラレ若ハ隣接地ニテ發生シ其ノ他特殊ノ事件ニシテ特ニ捜査手配ノ必要アリト認ムルモノハ總テ前條ノ犯罪繼續簿ニ記載シ捜査ヲ爲スヘシ縣外ニ於テ發生シタル犯罪事件ニシテ其ノ管内ニ捜査上ノ關係ヲ有スルモノ亦同シ

第十八條 警察部ニ於テ犯罪發生ノ報告ヲ受ケ繼續捜査ノ必要アリト認メタルトキハ附錄第二號様式ノ犯罪捜査監督簿ニ記載スヘシ

他廳府縣ヨリ通報ヲ受ケタル犯罪ニシテ本縣内ニ捜査上ノ關係ヲ有スルモノ亦同シ



第十九條 事件發生地ノ警察官署ハ第十四條各號ノ犯罪ニ對シ概ネ左ノ例ニ依リ捜査ノ狀況ヲ警察部長ニ報告スヘシ  
但シ緊急ノ必要アルトキハ其ノ時時報告スヘシ

犯 罪 種 別	報 告 期 間		
	一ヶ月未滿	一ヶ月以上 三ヶ月未滿	三ヶ月以上 六ヶ月未滿
殺 人	五日毎	十五日毎	二十日毎
強 盜	五日毎	十五日毎	二十日毎
放 火	十日毎	二十日毎	三十日毎

右以外ノ犯罪ハ捜査上參考トナルヘキ資料ヲ得タル際ニ報告スヘシ

第二十條 報告及通報ニ必要ナル事項概ネ左ノ如シ

イ、犯罪ノ日時場所

ロ、被害者ノ住所氏名年齢職業

ハ、被害金品數量、模様、價格

ニ、犯罪ノ手段及事實ノ概要

ホ、遺留品其他證據トナルヘキ事項

ヘ、犯人ノ數竝ニ犯人又ハ被疑者ノ氏名年齢職業、變名轉名人相著衣ノ概要

ト、其ノ他參考トナルヘキ事項

第二十一條 警察部刑事課勤務ノ警部警部補及其ノ所屬刑事巡查ノ檢舉シタル犯罪事件ハ所轄警察官署ニ移牒スヘシ  
但シ警察部長ノ特命アリタルトキハ此ノ限リニ在ラス

第二十二條 殺人強盜其他重大犯罪ノ現行犯アリテ犯人逃走シタルトキハ事件發生地ノ警察官署長ハ直チニ緊急配備ヲ爲シ犯人ヲ包圍スルハ勿論速ニ隣接警察官署ヘ電話電信ヲ以テ緊急配備ノ通報ヲ爲スヘシ警戒ヲ解クトキ亦同シ

第二十三條 緊急配備ノ通報ヲ受ケタル警察官署ハ直ニ警察官吏ヲ適當ノ場所ニ配置シ必要ト認ムル時間警戒シ監

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

督者ハ其ノ線内ヲ巡視監督スルモノトス

第二十四條 緊急配備ニ際シ警察官吏ヲ配置スヘキ所概ネ左ノ如シ

イ、樞要道路ノ交叉點

ロ、市町村ノ入口

ハ、展望シ得ヘキ位置

ニ、停車場又ハ停留場

ホ、汽船發着場及渡船場

其他警察官署長ニ於テ必要ト認メタル場所

第二十五條 緊急配備ノ配置ハ豫メ計畫シ置キ圖面ヲ添ヘテ警察部長ヘ報告スヘシ其ノ配置ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十六條 緊急配備ノ命令ハ電話ヲ以テ示達シ電話ノ設備ナキ所ハ附録第三號様式ニヨリ緊急配備令書所定ノ事項ヲ記載シ急使ヲシテ送達スヘシ

第二十七條 緊急配備ヲ爲シタル警察官署長ハ配備終リタルトキ左ノ事項ヲ警察部長ニ報告スヘシ

一、緊急配備ノ種類

二、發令ノ日時及全部配置ヲ終リタル日時

三、緊急配備中ノ狀況及結果

第二十八條 犯罪捜査ノ連絡ヲ保持シ其ノ進歩發達ヲ計ラシカ爲メ各警察署管内ヲ通シ左ノ組合ヲ設ク

第一組合、川崎、高津、都田、鶴見

第二組合、市内各警察署及八幡、保土ヶ谷分署

第三組合、横須賀、三崎、浦賀、葉山

第四組合、鎌倉、戸塚、藤澤

第五組合、厚木、溝、中野

第六組合、大磯、伊勢原、秦野、松田、小田原







罪名	犯罪ノ 方法 被害 状況	犯人ノ 住所 職業 年氏 名齡	犯人ノ 相衣 著衣 特徵	遺留 品	犯時		被害 者 年氏 名齡	被害 物 格數	發見 ノ 員數 及 格	時 効 ニ 關 ス ル 事	捜 査 ノ 結 果	備 考
					日	時						
						大正						
						大正						

犯罪捜査監督簿

〔神奈川警〕

神奈川縣

警察署

〔神奈川警〕

年月日	捜査ノ經過
大正 年 月 日	
大正 年 月 日	
大正 年 月 日	
大正 年 月 日	
大正 年 月 日	
大正 年 月 日	
大正 年 月 日	
大正 年 月 日	
大正 年 月 日	
大正 年 月 日	

記載例

- 一、本簿冊ハ所轄内ト所轄外トニ區別シ耳札ヲ附シ整理スルコト
- 二、犯人ノ本籍住所身分職業氏名年齢欄ニハ事件發生ト同時ニ犯人ノ判明セルモノハ墨書シ不明ノモノハ空欄ノ儘トシ檢舉ノ際朱書スルコト
- 三、捜査終結事由欄ニハ大正何年何月何日何署ニ於テ檢舉又ハ時効完成若ハ死亡等ト記載スルコト
- 四、犯人ノ人相著衣特徵欄ニハ犯人檢舉以前ニ於テ知り得タルモノヲ記載スルコト
- 五、捜査ノ經過欄ニハ凡ソ左ノ例ニヨリ當該事件捜査ノ顛末ヲ記載スルコト
  - 一 何年何月何日何處ヨリ買求メタルモノ云々
  - 一 何年何月何日何處ニヨリ現場遺留品何何ハ何年何月何日何處ヨリ買求メタルモノ云々
  - 一 何年何月何日何處ニ何々ノ捜査ヲ命ス復命アリ



























凡テ犯罪ノ發生ニ當リテハ基礎ヲ犯罪現象ノ研究ニ置キ以テ捜査ノ方針ヲ確立シ合理的系統的ニ捜査ヲ進捗セシメ  
 犯人檢舉ノ實效ヲ期スヘキハ固ヨリ其處ナルモノ近時犯罪ノ方法益々新奇巧妙ヲ極メ千態萬樣端倪スヘカラサルモ  
 ノアリ且ツ交通機關ノ發達及ヒ社會狀態ノ變遷ニ伴ヘ證據湮滅又ハ逃走潛伏ノ手段愈々複雜多岐ニ互リ大ニ舊來ト  
 其ノ趣ヲ異ニシ往々ニシテ捜査手配ノ意表ニ出ツルモノ妙カラサルヲ見ル是レ捜査ノ局ニ當ルモノノ捜査ノ方法及  
 檢舉ノ結果ニ關シ不斷ノ研究ヲ閉却スヘカラサル所以ニシテ而カモ現今捜査ノ實際ヲ見ルニ犯人檢舉ニ當リ僅カニ  
 其ノ犯罪事實及贓品ノ處分等ヲ糺明シ以テ捜査事務ヲ完了シタルモノト思惟スルカ如キモノ妙カラサル傾向アリ又  
 克ク檢舉後ノ調査ニ欠クル所無キモノニ在テモ關係書類ハ總テ他處ニ送致セラレルヲ以テ何等詳密ナル記録ノ存ス  
 ルモノナキノミナラス是等ノ事項ニ關シテハ一ニ取扱者ノ胸中ニ秘藏セラレ他ニ之ヲ開示指導スル機會ナキ狀況ナ  
 ルハ頗ル遺憾ノ義ニ有之檢舉後ニ於ケル精密ナル調査ハ證據手續ノ確固ヲ期スル上ニ於テ極メテ緊要事ニ屬シ且ツ  
 檢舉ノ結果ト犯罪現象ニ對スル觀察捜査方針及其ノ經過等ヲ對照比較シ以テ捜査ノ是非得失ヲ考査シ探長補短將來  
 ニ於ケル捜査活動ノ參考ニ資シ捜査ニ從事スルモノノ智識ノ向上ヲ圖ルハ刑事警察ノ改善進歩上最モ有意義ノ舉措  
 ト被存候ニ就テハ自今強盜殺人其他重要特殊犯人ノ檢舉ニ當リテハ尙該捜査主任ヲシテ概テ左記事項ニ留意調査セ  
 シメ且ツ之ヲ捜査關係員ニ說示シ以テ捜査上ノ得失ニ關シ會得スル處アラシメ相率ヒテ捜査ノ發達及刑事手續ノ完  
 整ヲ期スルニ努メラルルト共ニ大正十年十二月十五日付百警刑收第六四七三號刑事課長依命通牒犯罪報告用紙(白  
 紙)中新タニ參考事項欄ヲ設ケタルヲ似テ該調査事項ヲ同欄ニ記載報告相成度依命此段及通牒候也

追テ

參考事項ノ調査竝ニ之カ記載ニ就テハ嚴正確實ヲ旨トシ苟モ虛飾ニ流レ事實ノ真相ヲ誤リ彼上ノ趣旨ニ悖ル  
 カ如キコトナキ様嚴密御配慮相成度尙同報告用紙各欄事項ノ記載ニ就テハ從來簡略ニ失シ事實ヲ盡ササル向  
 アリ處理上支障不尠候ニ付自今可出來文具體の精密ニ記載シ且ツ參考事項ノ調査ハ對照シ捜査得失ニ分明ナ  
 ラシメ得ル様御留意相成度申添候

左記

- 一、犯罪前ノ立廻(犯行直前ノ飲食「探リ」等ヲ含ム)
- 一、數鑑、土地鑑ノ有無及其ノ事情

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 一、犯行當時ノ服裝(兇器其他犯罪供用物件變裝用具等)品質特徵
- 一、犯行前及犯行後ノ服裝
- 一、犯行後ノ逃走經路(飲食場所等ヲ含ム)及立廻先潛伏場所
- 一、犯行後兇器著衣變裝用具犯罪供用物件其他携帶品ノ處置又ハ證據湮滅ノ手段
- 一、兇器犯罪供用物件變裝用具遺留品等出所詮索購入年月日時
- 一、犯行當時負傷シタルモノナルトキハ其ノ部位、程度及醫師ノ受療藥品ノ購入等詳細
- 一、逃走當時通行人其ノ他ノ者ニ邂逅又ハ發見セラレタル事實
- 一、犯行前後宿屋貸座敷其ノ他ノ場所ニ於テ偽名シタル事實
- 一、犯行後ノ動靜詳細
- 一、犯行時刻ノ糺明
- 一、共犯未檢舉ノ場合ハ檢舉ニ關シ必要ナル事項詳細
- 一、犯行前後警察官ヨリ舉動不審其ノ他ノ原因ニ依リ取調ヲ受ケタル事實
- 一、警察官ノ捜査活動ヲ察知シ居タル事實
- 一、犯罪現象ニ對スル觀察ト相違ノ事實
- 一、其ノ他參考事項

### ●犯罪手配ニ關スル件

大正十年一月三十一日 西警刑發第九號

犯罪ニシテ一地方又ハ數地方ニ互リ連續的ニ發生ノ虞アルモノニ對シテハ事件發生地ノ警察官署ハ勿論其ノ通報ヲ  
 受ケタル警察官署ハ當該犯人ノ立廻ルヘキ業態者等ニ對シ別紙様式ノ如キ記載例ニ準據シ手配ニ必要ナル事項ヲ簡  
 單明瞭ニ記入セル際寫印刷物ヲ作製シ急速之ヲ配布手配ヲナシ置クニ於テハ犯人檢舉竝ニ犯罪防止上奏效大ナルモ  
 ノト被認候條爾今右ニ依リ御手配相成度依命此段及通牒候也

別紙様式

注 意 ○本書ハ秘密ノ取扱ヲシテ下サイ



犯 罪	近頃料理屋等ニ行キ不渡手形ヲ出シ多數人カ宴會ヲ開クト稱シ料理ヲ豫約シ金ノ借 用ヲ申込ミ金錢ヲ詐欺スル者アリ犯人ハ次ノ如シ
犯 人	年齢何歳位、丈何尺、中肉、色白、或ハ淺黒頭髪何々 著衣何々何々、其他何々 何會社員何某ト稱ス、一見何々風
備 考	犯人ハ何縣何會社何某ト稱スルヤモ計リ難ク言語ハ東京辯或ハ何々云々 右犯人又ハ似寄リノ者ヲ御認メノ際ハ直ニ警察ニ知ラシテ下サイ 迷惑ハ掛ケマセン 警察電話ハ何番テス

(用紙ハ半紙四ツ切又ハ半圓トス)

### ● 犯罪人捜査手配方ニ關スル件

大正十年十月二十八日  
西警刑收第五六六四號

具體的犯罪人捜査手配ノ場合ニ於テ其ノ犯人ノ寫眞ヲ關係ノ向ヘ送付候ニ於テハ發見上利便少カラサルヘク本件ハ從來重要ナル事件ニ付テハ實行相成居候向モ少カラス候得共往々ニシテ寫眞ニ利得ヘキ狀態ニアリツツ而カモ此ノ取扱ヒニ出テス單ニ人相書ヲ以テ之ニ代ユル事例モ有之候被存候ニ付將來ハ捜査手配ヲ一層有效確實ナラシメル爲メ出來得ル限リ重要犯人又ハ職業的旅行の犯人捜査手配ニハ寫眞ヲ(撮影年月日記入)添付致候様取扱ハレタキ旨内務省警保局長ヨリ通牒有之候條自今右趣旨ニ依リ御配慮相煩度依命此段及通牒候也

### ● 犯罪現場臨檢ニ關スル件

大正十一年一月九日  
戊警刑發第三號

自今窃盜其ノ他ノ犯罪事件發生ノ場合ニ於テ檢證又ハ實況見分ヲ爲ササルトキハ刑事巡査管區巡査又ハ其ノ他ノ巡査ヲシテ必ス現場ニ臨檢セシメ左記様式ニ據リ復命書ヲ發シ届書其ノ他ノ原本ニ添付シ以テ捜査經過ヲ明瞭ナラシムルト共ニ犯人捜査資料ニ供スル様御實行相成度依命此段及通牒候也

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

左記

(何々)事件現場臨檢復命書		署長	月	日	警 部 一 警 部 補 刑 事 主 任 受 附
復 命 年 月 日	年 月 日	收 第	號	官 職	氏 名 印
被害年月日時同場所及被害者ノ住所職業氏名年齢					
犯人ノ侵入場所及其ノ手段					
犯罪場所及其ノ手段方法					
逃走ノ場所及其ノ手段					
指紋足跡其ノ他犯罪ノ痕跡					
遺 留 品 及 其 所 在					
犯人ノ言語及言葉使ノ特徴					
届出事實ニ相違ノ點ナキト					
被疑者ノ本籍住所職業氏名年齢人相服装特徴					
捜 査 上 ノ 意 考					

### ● 犯罪捜査上取調方囑託ニ際シ要點指示方ノ件

大正十四年六月一日  
十四刑收第七一三九號刑事課長

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通り京都府警察部長ヨリ通牒有之候ニ就テハ從來ヨリ御實行ノ事ト被存候ヘ共御參考迄ニ此段及通牒候也

犯罪捜査上取調方囑託ニ際シ要點指示方ノ件

(大正十四年五月二十五日  
第二九七二號京都府警察部長通牒)

犯罪捜査上取調又ハ内偵方囑託ニ際シ要點ヲ指示セス只「別紙關係書類ニ基キ相當書類ヲ作成アリ度キ」旨記載スルニ止マル向アリ爲ニ之ヲ受ケタル方ニ於テハ關係書類ノ全部ヲ通覽セサル可ラス其趣大ナル書類ニ至リテ之方煩果



抄ヲス自然取調要點ニ相違テ來シ囑託者ノ期待ニ副ヒ得サルノ事例アルニ鑑ミ客月二十八日當府ニ開催シタル當府及大阪、兵庫、和歌山、奈良、滋賀ノ二府四縣聯合司法事務協議會ニ於テ聽取書又ハ始末書ノ作成徵收ヲ囑託スル場合ハ取調要點ヲ具體的ニ指示スルコトニ協定實行スルコト、ナリタルヲ以テ此際貴廳府縣及貴管下各警察官署對右聯合府縣及其管下各警察官署ニ於テモ同様實行相成候様致度此段得貴意候也

● 犯罪寫眞撮影ノ場合資料報告方ノ件

大正十一年十月十九日  
戊警刑發第二七號刑事課長

犯罪捜査上記錄竝ニ寫眞保存ノ必要有之候ニ付自今犯罪事件ノ性質犯人ノ性格又ハ犯行手段ノ狀態ニ徴シ寫眞ノ撮影ヲ必要ト認メタル場合ハ撮影ト同時ニ左記各項ヲ調査シ速カニ報告相成様致度此段及通牒候也

左記

犯罪現場ノ場合

- 一、事件名
- 二、撮影年月日
- 三、撮影ノ場所
- 四、犯罪ノ大要
- 五、被害者ノ本籍住所職業氏名年齢
- 六、備考
- 七、犯人ノ場合
- 一、罪名
- 二、撮影年月日
- 三、撮影ノ場所
- 四、犯罪ノ大要
- 五、處分ノ結果
- 六、犯人ノ本籍住所職業姓名氏名年齢
- 七、人相體尺特徴足袋ノ文數
- 八、其ノ他參考事項

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

● 不良者寫眞撮影ニ關スル件

大正十三年一月十四日  
十三刑發第四號刑事課長

犯罪捜査上必要有之候條爾今左記該當ノ犯人檢舉又ハ同行ノ際ハ寫眞撮影方當課ニ申報相成度依命此段及通牒候也  
追テ當分那部僻障ノ地ニ於テハ押送又ハ課員出張ノ際撮影スヘク御配慮相成度申添候

左記

- 一、殺傷、放火犯者又ハ主ナル賭博常習者
- 二、強窃盜詐欺犯者ニシテ反覆性ヲ有スト認ムル者
- 三、性欲的犯罪者
- 四、不良青少年ニシテ再犯取行ノ虞アル者
- 五、其他従前ノ通牒ニ依リ又ハ不良行爲ヲナシ寫眞ノ撮影ヲ必要トスル者

● 盜難届出方ノ件

明治十五年三月  
甲第三六號

盜難届ノ儀ハ行政警察上必要ノモノニ付盜難ニ罹リタルトキハ速ニ物品ノ模様及ヒ其ノ事由ヲ記シ該地所管ノ警察署又ハ分署ヘ可届出若書面ヲ差出ス暇ナキトキハ口上ヲ以テ届出ルモ苦シカラス此旨布達候事但シ明治九年十二月第三百三十九號布達ハ廢止トス

● 盜難聽取書ニ關スル件

大正十四年八月十九日  
十四刑發第六六號

盜難聽取ノ取扱ハ明治三十九年十月三日保發第一八五號保安課長通牒ニ依リ實行相成居候處今後別表様式ニヨリ御取扱相成度依命此段及通牒候也

(様式)







### ● 盜難事件報告取扱ニ關スル件

大正十四年八月十九日  
十四刑發第六七號

盜難事件報告方ニ關シテハ犯罪搜查規定第十四條ニヨルノ外大正十二年三月七日秘訓示第十三號ヲ以テ事件受理ト同時ニ盜難聽取書又ハ届書ノ一部作成報告相成様御指示相成居候處之レカ事務ノ取扱ハ近來甚遲延ノ向アリ爲メニ隨所ニ發生スル盜難事件ノ犯罪定型ニヨリ相互竝ニ重要犯ノ牽連關係ヲ調査研究スル機ヲ逸シ該犯ノ豫防警戒檢舉ニ關スル計劃樹立ノ統一ヲ計ル上ニ支障尠カラス候ニ付今同様式改正ト共ニ事務ノ簡捷ヲ期セムカ爲メ紙質ヲ撰良シ復寫紙ヲ利用セシメ一枚ハ警察署ニ一枚ハ警察部ニ廻送ノ方法ヲ採用スルコトニ相成様就テハ右取扱ニ關シ過誤無之様御部下ヘ注意方御配慮ト共ニ報告ノ遅延無之様致度依命此段及通牒候也  
追テ盜難聽取書用紙、復寫原紙器具等ハ當課ニ於テ取纏別途送付候ニ付申添候

### ● 忍込窃盜被害事件報告ニ關スル件

大正十四年一月二十六日  
十四刑發第一號

近時經濟界ノ不振ハ多數失業者ヲ出シ之カ救済ノ聲喧敷情勢ノ折柄最近盜難被害ハ愈々増加ノ傾向アリ之カ豫防警戒竝ニ犯人檢舉ニ付テハ各署夫々御留意計劃實施セラレ居ルコトトハ存シ候得共本年一月一日以降市内及川崎署管内ニ於ケル強盜難事件六件同未遂事件ニ及ヒ然モ其内犯人ノ檢舉ヲ見タルハ僅カニ一件ニ過キサレ狀況ニ有之誠ニ刑事警察ノ威信ニ關スルノミナラス延ヒテハ社會ノ公安保持上甚遺憾ノ次第ニ有之候就テハ是等犯罪ノ捜査上必要ニ付爾今當分ノ間ハ忍込ノ手段ニヨル盜難事件アリタル時ハ其都度被害ノ多寡ヲ不論電話御報告相成度依命此段及通牒候也

### ● 告訴事件月報ニ關スル件

大正十二年十二月五日  
十二刑發第三〇號

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

爾今受理シタル告訴事件ニ關シテハ毎月左記様式ニヨリ翌月三日迄ニ御報告相成度依命此段及通牒候也  
追テ本年十一月分ハ本月十日迄ニ提出ノコト  
〔左記様式〕

受理月日	告訴人住所氏名	被告住所氏名	告訴事實ノ罪名	事件取扱者官氏名	處分ノ結果

〔記載例〕

- 一、處分ノ結果欄ニハ檢事局ニ送致年月日若シ取調中ノモノハ其旨記入スルコト
- 二、前月中ニ報告シタル事件ニシテ處理未済ノモノハ翌月ノ月報ニ記入スルコト

### ● 犯罪統計ニ關スル件

大正十四年六月十二日  
十四刑發第四六號

各種犯罪ノ發生竝檢舉ノ狀勢ヲ早知スル必要有之候ニ付爾今左記ニ依リ統計日、月表作成シ遲滞ナク御提出相成度依命此段及通牒候也

左記

- 一、横濱市内、保土ヶ谷、鶴見、川崎ノ各署ハ舊表ヲ作成シ翌日提出シ尙翌月五日迄ニ月表ヲ提出スルコト
  - 二、其ノ他ノ各署ニ於テハ月表ヲ作成シ翌月五日迄ニ提出ノコト
  - 三、様式(別紙ニ據ルコト)
- (別紙)  
第一表







指紋取扱規程左ノ通り定ム

指紋取扱規程

警察署 警察分署

- 第一條 警察官署ニ於テ指紋押捺ノ必要アリト認メタル者ニ對シテハ指紋原紙ニ指紋ヲ押捺セシムヘシ
- 第二條 指紋ハ一人毎ニ指紋原紙一枚押捺セシメ指紋索引票ト共ニ各相當欄ニ所要ノ事項ヲ記載シ指紋ノ價ヲ附セ警察部ニ送付スヘシ
- 第三條 指紋ヲ押捺セシムヘキ者ニシテ疾病負傷其他ノ事故ニ依リ押捺セシムルコト能ハサルトキハ原紙ノ各欄ニ所要事項ノミヲ記載スヘシ
- 第四條 警察官署ニ於テ會テ指紋ヲ押捺セシメタル者ナルトキハ其指紋原紙氏名上欄ニ偽ノ字ヲ朱書スヘシ
- 第五條 指紋ヲ押捺セシムヘキ者ニシテ犯罪ノ種類犯行ノ模様其他ニ依リ寫眞撮影ヲ必要トスルトキハ之ヲ撮影シ指紋原紙ト共ニ送付スヘシ
- 第六條 指紋番號ハ右手指頭隆線ニ依リ算出シタル數トス
- 第七條 犯罪現場ニ於テ犯人ノ印象シタル指紋ト認ムルモノアルヲ發見シタルトキハ左ノ方法ニ依リ處理スヘシ
  - 一、他人ヲシテ其物件ニ接觸セシメサル様注意シ保存スルコト
  - 二、物體ノ色彩ニ應シ適當ノ藥品ヲ使用シ印象ヲ採取スルコト
  - 三、採取ニ困難ナルトキハ之ヲ撮影シ又ハ摸寫スルコト
  - 四、前各條ニ依リ指紋ハ印象ノ位置周圍ノ狀況等ヲ示シタル圖面ト共ニ警察部ニ送附スルコト
- 第八條 警察報登載事項中押捺指紋ニ關スル部分ハ之ヲ別綴トシテ永久保存スヘシ

●指紋原紙及指紋索引票取扱内規

大正六年七月二十三日  
秘訓示甲第一三號

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 一、指紋原紙ハ編綴スヘカラス
- 二、廻轉押捺ハ出來得ル限り指頭ヲ廻轉シテ押捺セシムルモノトス
- 三、印象不鮮明ナルトキハ更ニ上部ノ餘白ニ押捺セシムルモノトス
- 四、平面押捺ハ拇指ヲ除キ他人四指ニ同時ニ押捺セシムルモノトス
- 五、原紙裏面右手示指ノ欄ハ廻轉押捺セシムルモノトス
- 六、指紋押捺ノ順序ハ原紙裏面右手示指欄ヨリ始マリ原紙表面右手廻轉押捺左手廻轉押捺左手平面押捺ヲ經テ右手平面押捺ニ終ルモノトス
- 七、廻轉押捺ハ左手右手ヲ間ハス示指ヨリ始マリ中指環指小指ヲ經テ拇指ニ終ルモノトス
- 八、原紙表面氏名欄ニハ令狀送致書又ハ言渡書ノ氏名ヲ記入スヘシ
- 九、同姓名又ハ異名欄ニハ本名以外ノ通稱又ハ俗稱若クハ偽名ノ全部ヲ記入スヘシ
- 一〇、同男女ノ別欄ニハ男又ハ女ト記入スヘシ
- 一一、同作成欄ニハ指紋原紙作成ノ年月日及其場所ヲ記入シ作成者ニ於テ自署又ハ認印ヲ爲スヘシ
- 一二、同備考欄ニハ創傷其他指紋ニ關スルコトヲ記入スヘシ
- 一三、原紙裏面氏名自署欄ニハ本人自稱ノ氏名ヲ記入セシムヘシ
- 一四、同犯罪慣行手段竝ニ特技欄ニハ犯行中最モ多ク行ヒタル方法手口及特ニ長シタル點ヲ記入スヘシ
- 一五、同本籍欄ニハ道府縣郡市町村字番地ヲ記入スヘシ
- 一六、同身分欄ニハ華士族ノ別ヲ記入スヘシ
- 一七、同住所欄ニハ居住地ノ道府縣郡市町村字番地何某方ヲ記入スヘシ
- 一八、同出生地欄ニハ道府縣郡市町村字番地何某方ヲ記入シ航海中又ハ旅行中ニ出生シタル者ハ其旨及其届出地若クハ届出地不明ナルトキハ最後ノ到著ヲ記入スヘシ
- 一九、同生年月日欄ニハ出生ノ年月日ヲ記入スヘシ



- 二〇、同保存滿限欄ニハ指紋取扱規程ノ年齡滿七十年ニ至ル迄計算シ其年月ヲ記入スヘシ
- 二一、同外見年齡欄ニハ實際ノ年齡ト外見年齡ト著シク差異アル場合ニ外見年齡ヲ記入スヘシ
- 二二、同職業欄ニハ逮捕當時ノ職業名ヲ記入スヘシ若クハ職業數種アルトキハ其主ナルモノヨリ順次記入スヘシ
- 二三、父ノ名母ノ名欄ニハ實父、實母、養父、養母ノ名ヲ記入スヘシ
- 二四、同特徵欄ニハ文身、痘痕、不具、瘡啞等異徵タルヘキモノヲ記入スヘシ
- 二五、同備考欄ニハ前科ノ數又ハ司法警察事項ニ關スルモノヲ記入スヘシ
- 二六、指紋索引票記載例モ前各項ニ準ス但シ人相ノ記載ハ塗抹法ニ依ルヘシ

●對照指紋押捺ニ關スル件

大正七年七月六日  
午警保收第一二九九〇號

司法省指紋部ヨリ別紙寫ノ通り通報アリタルニ付爾今對照指紋送付ノ際ニハ同省通報ニ基キ御取計相成度依命此段及通牒候也

(別紙寫)

近來貴管内各警察署ヨリ指紋ノ對照ヲ求メタル場合ニ使用セラルヘキ原紙中一般ノ例ニ倣ヘ上欄ニ右手、下欄ニ左手同轉印寫シタルモノ有之對照上差支不謬候條爾今對照ノ爲メ御送附相成ルヘキ指紋ノ原紙ノ同轉印寫ハ左手上欄、右手下欄ニ押捺致スヘキ様(活字ヲ訂正スヘキハ勿論)各署ヘ御指示相成度候也

●指紋ニ關スル件

大正十年四月一日  
刑事課長通牒

自今種別索引票(各指一枚宛調製ノモノ)ハ左ニ掲ケル罪質ニ該當スル者ノミニ限リ作成指紋原紙ト共ニ(同索引票ヲ含ム)御送付相成度候也

左記

- 一、竊盜ノ罪
- 一、強盜ノ罪
- 一、殺人ノ罪

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 一、放火ノ罪

●指紋對照ニ關スル件

大正十三年六月  
十三刑收第六六〇〇號

別紙寫ノ通り司法省行刑局長ヨリ内務省警保局長宛照會アリタル趣ヲ以テ注意方違有之候條爾今指紋押捺及所要欄記入ニ關シテハ深甚ノ注意相成度又押捺對象ニ關シテハ其ノ價ヲ附記スルコトト相成候得共各署ニ於テ價ヲ附記スルコトハ至難且ツ過誤ヲ生スル點ナキヲ保セサルヲ以テ此際之カ講習ヲ受ケタルモノニ對シ斯道ノ智識開發ニ努ムルト共ニ當分前科照會ノ爲發スル指紋原紙ハ從前通り其ノ價ヲ附セス必ス當課ヲ經由ノ上照會相成度依命此段及通牒候也

(別紙寫)

指紋對照方照會ニ關スル件(大正十三年六月六日  
内務省警發乙第八七二號警保局長通牒)

本件ニ付司法省ヨリ別紙ノ通り申越候條委細右ニテ御諒知ノ上貴管下各警察官署ヘ御示達相成候條致度右申進候(別紙)

指紋事務ニ關スル照會ノ件(大正十三年四月二十九日  
司法省行刑局行甲第五四五號行刑局長警保局長宛)

全國各警察官署ヨリ犯人前科ノ有無調ノ爲メ當省指紋部ニ對シ指紋對照方照會ニ來ル件數日夥カラサル處右照會ノ警察官署作製ノ指紋ハ押捺シタル儘ニシテ其ノ分類ヲ施サス當省ニ於テ分類ヲ爲スモ印寫不十分ノ向モ有之鮮明ヲ缺キ從テ多クノ手數ト時間トヲ要シ自然遲延スルヲ免レズ敏速ヲ必要トスル犯人調査ニ至大ノ影響ヲ來スコトトモ相成候間自今對照照會ノ指紋原紙ニハ所定記載ノ外左ノ要件ヲ具備致候條全國當局ヘ御通達相成度候

左記

- 一 各指ノ同轉印寫ヲ努メテ鮮明ナラシムルコト
- 二 同轉印寫ノ各指ノ指紋ノ分類ヲナシ其ノ下部ノ原紙指定欄ニ價ヲ記入スルコト
- 三 警察官署名ヲ明記スルコト
- 四 指紋原紙表面氏名欄ノ上部ニ「要對照」ト朱書スルコト



### ●指紋對照方照會ニ關スル件

大正十四年二月二十七日  
十四刑收第二五一〇號

本件ニ付キ別紙寫ノ通り司法省行刑局長内務省警保局長宛照會アリタル趣ニテ注意方通達有之候條爾今指紋事務ニ關シテハ尙ホ別紙各項ニ御注意相成様致度依命此段及通牒候也

(別紙)

指紋對照方照會ニ關スル件 (大正十四年二月二十三日警保局長宛發甲第二五號)

各廳府縣長官宛内務省警保局長

本件ニ付司法省ヨリ申越ノ趣キ客年六月六日警發乙第八七二號ヲ以テ通牒及置候處今般更ニ同省ヨリ別紙ノ通り申越候條委曲右ニテ御諒知ノ上貴管下各警察官署へ御示達相成候様致度右申通候也

(別紙)

指紋事務ニ關シ照會ノ件 (大正十四年二月五日司法省行刑局行甲第一二一號)

内務省警保局長宛司法省行刑局長

全國各警察官署ヨリ犯人前科ノ有無調査ノ爲メ當省指紋部ニ對シ指紋對照方照會シ來ルモノノ内指紋ノ缺損不具若ハ負傷等ノ理由ヲ備考欄ニ記入セサルモノ有之候斯クテハ往復照查ノ爲メ事務滯滞スルノミナラス被疑者又ハ被告人ノ爲メ事務ノ進行ヲ遲延スルノ不利ヲ來シ候ニ付爾今必ス其理由ヲ明記セシメラレ候様全國各當局へ御通達相成候

追テ左記ノ事項勵行方併テ御配慮相成度候

- 一、各指ノ回轉印寫ヲ努メテ鮮明ナラシムル事
- 二、回轉印寫ノ各指ノ指紋ノ分類ヲ爲シ其下部ノ原紙指定欄ニ價ヲ記入スルコト
- 三、警察官署ハ明記スルコト

(終)

### ●身元不明變死者指紋採取ノ件

大正十四年四月二十四日  
十四刑發第一八號刑事課長

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

近來溺死糞死殺死其他ノ變死者漸々増加ノ傾向アリ(大正十三年中ニ於ケル變死者數別表ノ通)然モ之カ屍體ノ檢視ヲ遂クルモ身元判明ニ至ラサル者其數多キヲ見ルハ捜査上寔ニ遺憾トスル所ナリ

變死者又ハ變死ノ疑アル屍體ノ檢視ハ元ヨリ一ノ捜査方法ニシテ是ニ依ツテ以テ其死ノ犯罪關係ヲ探究スヘキ處ナルニ死者ノ身元不明ナルニ於テハ例令他害の行爲ナク死因既ニ自殺ニアリトスルモ茲ニ至ルヘキ過程ニ於テ或ハ他ノ犯罪ニ牽連ナ有スル場合有之哉モ難計其事由ヲ發見シ得サル方爲メ永久ニ捜査ノ終結ヲ告ケル能ハス徒ニ多數ノ日時ト努力ヲ費シ延ヒテハ他ノ捜査ニ多大ノ障礙ヲ及スヲ以テ向後如斯身元不明ノ變死者ニ對シテハ指紋ヲ採取シ以テ捜査ノ方途ヲ講スルニ於テハ會テ刑罰ヲ受ケタル家出人又ハ犯罪手配中ノ者ニ屬スル場合ハ容易ニ之ヲ發見シ得ラレ捜査事務ノ終結ヲ告ケルノミナラス一面ニ於テハ屍體ノ措置並ニ死者ノ遺族ノ關係等ヲモ考慮スルトキハ其效果尠カラスト思料セラレ、ナ以テ爾今身元不明ノ變死者ニシテ荷モ指紋ヲ採取シ得ル狀態ニアリ且ツ滿十四歲以上ニ達シ居ルモノト認ムルモノニ對シテハ男女ヲ不問必ス指紋ヲ採取シ之ヲ添付御報告相成様致度依命此段及通牒候也

追テ身元不明變死者ニ對シテハ管外ニ對スル手配ノ都合モ有之必可成速ニ御報告相成度申添候

### ●主要鐵道省線上ニ於ケル鐵道關係警察事項取扱ニ關スル件

大正十一年二月四日  
内務省認第一一〇號警保局長依命通牒

(以下本件關係事項ハ移動警察ナル用語ヲ使用ス)

停車場及列車内ニ於ケル犯罪ノ警防並ニ其ノ檢舉ハ旅客ノ身體ノ保護、財産ノ保障上極メテ大切ノ事ニ有之候殊ニ近時鐵道利用ノ顯著ナル發達ニ連レ犯罪ノ遂行ヲ常習トスルノ徒又ハ奸猾ノ輩巧ニ此ノ種運輸機關ヲ利用シテ或ハ犯罪ヲ遂行シ或ハ罪證ノ湮滅ヲ計リ或ハ各地ニ出沒シテ犯行ヲ逞フシ或ハ犯罪後直ニ其ノ地ヲ去リテ踪跡ヲ晦マシ警察活動ノ發展ヲ阻害シツツ後圖ヲ策スル等ノ事實顯出スルノミナラス最近ニ至リテハ各種過激思想ヲ抱持スル者亦列車内等ヲ利用シテ宣傳ヲ行ハントスルノ傾向アリ寔ニ公安保持上放任スヘカラサル狀況ナルヲ以テ之レカ對策ヲ攻究シ實行スルノ必要相生シ候若シ經費ノ之ヲ許スアラハ全國ニ互リ隨時隨所ニ其ノ權限ノ行使ヲナシ得ル内務省直屬警察官ヲ設ケ之ヲ全國ノ要衝ニ配置シ一面地方警察官トノ連絡協調ヲ遂ケ他面各地分駐内務省警察官相呼應シ



テ敏速ニ確實ニ此ノ種警察事項ノ警防處理ヲナサシムルニ於テハ其ノ成績見ルヘキモノアルヘシト思料致サレ候モ如斯ハ諸種ノ關係上直ニ實現スルコト能ハサル次第ニ候間不取敢應急策トシテ鐵道線中主要ナル幹線ヲ選ヒ沿線上ノ廳府縣中重要ナル鐵道交叉分岐點ヲ有シ又ハ警察事項ノ頻出シ若クハ不逞輩ノ逸出ヲ阻止スヘキ對外交通上ノ重要地點ヲ管轄スル左記十九廳府縣ヲ移動警察關係廳府縣トシ各若干名ノ鐵道關係警察事項取扱者ヲ置キ相互ニ密接ナル連絡ヲ採リ或ハ特定ノ列車ヲ目標トシテ順次繼承シテ視察取締ヲ行ヘ或ハ固有ノ管轄區域ヲ超ヘテ便宜ノ地點迄ノ視察取締ヲナサシムルニ於テハ在來ノ廳府縣ヲ異ニスル度毎ニ生スル受繼上ノ不便ヲ除去シ警防上ノ連絡活動ヲ一層確實容易ナラシムル事ヲ得ヘク其ノ結果列車等利用ノ惡漢ニ對シテハ甚大ノ脅威ヲ感セシムヘク旅客ニ對シテハ一般ノ安全ヲ加フル事ト可相成思料致サレ候ニ付キ過般來數次鐵道當局トモ連絡上ノ協議ヲ重ネ左記ノ協定ヲ爲シタル次第ニ候間彼上ノ趣旨ヲ充分ニ御諒承ノ上地方鐵道當局並ニ移動警察關係廳府縣間ニ介在スル縣當局ニ對シテモ留意ナキ熱議ヲ遂ク本件ノ目的達成ニ努力セラルル様御配慮相煩度候

第一、移動警察關係廳府縣

警視廳、北海道廳、青森縣、宮城縣、福島縣、新潟縣、長野縣、神奈川縣、靜岡縣、愛知縣、福井縣、京都府、大阪府、兵庫縣、廣島縣、山口縣、福岡縣、熊本縣、長崎縣

第二、內務省及鐵道省間ノ協定並ニ客年十二月二十三日關係廳府縣警察部長會同ノ結果ニ基ク決定事項

- 一、內務省及鐵道省ニ於テ鐵道ニ關スル警察事項取扱上ノ連絡ヲ圓滑ナラシムル爲メ主任者ヲ置ク事  
內務省ニ在リテハ警保局長(出版物ノ關係ニ付テハ圖書課長)鐵道省ニ在リテハ運輸局旅客課長ヲ以テ主任者トス
- 二、移動警察關係廳府縣ニ於テハ鐵道關係警察事項處理ノ爲メ取扱主任者副主任者及執行擔任者ヲ定メ其ノ所屬官職氏名ヲ內務省警保局長ニ通報スル事  
取扱主任者ハ鐵道局運輸事務所ニ於ケル主任者トノ權衡上警察部長(警視廳ニ在リテハ關係部長又ハ主事)副主任者ハ課長以上トスル事
- 三、鐵道省ハ地方ニ於ケル警察事項取扱ノ爲メ鐵道局運輸課旅客掛長及關係廳府縣ノ地域ヲ管轄區トスル運輸事務所長ヲ以テ主任者ト定メタルニ付廳府縣ハ該取扱主任者及副主任者ノ官職氏名ヲ鐵道省地方主任者ニ通報スルト共ニ本件實施上ノ協議ヲ遂ク密接ナル連絡ヲ保ツ事

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

鐵道局並ニ運輸事務所ノ所在地ニ在リテハ其ノ兩者ノ主任者ニ、單ニ運輸事務所ノミ存在スル府縣ニ在リテハ運輸事務所主任者又運輸事務所ノ存在セサル府縣ニ在リテハ直近鐵道局又ハ運輸事務所主任者ト連絡ヲ執ル事

四、擔任者ハ主任者及副主任者ノ指揮ヲ受ケ時々鐵道構内ニ入り又ハ列車ニ乗込ミ職務上ノ活動ヲナシ其ノ結果ヲ左記様式ニ依リ上司ニ報告スル事

- イ、活動年、月、日、時
- ロ、活動區間
- ハ、列車番號(番號不明ノ際ハ發車番號並ニ發車時間記入ノコト)
- ニ、乗込等級
- ホ、視察並ニ取扱事項
- ヘ、其ノ他參考事項

五、副主任者モ亦時々鐵道構内又ハ列車ニ入り職務上ノ視察ヲ遂ケ四ノ様式ニ從ヒ上司ニ報告スル事

六、警察部長ハ(警視廳ニ在リテハ關係部長又ハ主事以下做之)部下ノ活動ニ關シ參考トナルヘキ事項ヲ其他管轄鐵道側主任者ニ通報スル事

七、警察部長ハ副主任者並ニ擔任者ノ報告ニ基キ急ヲ要スルモノハ其ノ都度其ノ他ハ一ヶ月分宛取纏メ廳府縣長官ヨリ內務省警保局長ニ通報スル事

八、內務省主任者ハ七ノ報告ニ基キ全國分テ取纏メ參考トナルヘキ事項ヲ鐵道者主任者ニ通報スル事

九、鐵道局主任者ハ列車内ニ發生セル警察事項ニ付左記様式ニ依リ急ヲ要スルモノハ其ノ都度其ノ他ハ一ヶ月分宛取纏メ關係廳府縣主任者ニ通報スル事

- 一、發生日、時
- 二、發生場所
- 三、列車番號、發生車輛並等級
- 四、被害者住所、氏名、(住所、氏名不詳ノ際ニハ外見、職業、年齢、服裝其ノ他ノ特徴ヲ記ス)



- 五、被害事實大要
- 六、心當リノ者ノ有無(有ルトキハ其ノ人相、特徴)
- 七、其ノ他ノ參考事項
- 八、取扱鐵道係員所屬、氏名

備考 以上ハ犯罪被害報告様式ナルモ犯罪以外ノ事實ニ付テハ之ニ準シ作成ス

- 十、歩廊及列車内ニ於ケル警察事項發生ノ際ニ於ケル措置ニ付テハ廳府縣主任者ハ其ノ地所轄鐵道側主任者ト熟議テ遂ケ其ノ結果ヲ副主任者及擔任者ニ徹底セシメ事故發生ノ場合ニ於テ取扱上遺算ナキヲ期スヘキ事
- 十一、副主任者、擔任者ハ乘車又ハ降車ノ際鐵道係員ニ其ノ旨ヲ告ケテ連絡ヲ取ル事
- 十二、列車内乗込ハ其ノ乘車等級相應ノ私服ヲ着用シ警察官ノ體面ヲ耻シメサル様ニ心掛ケルト共ニ身分證明ノ爲メ警察手帳(警部以上トモ齊一ニスルコト)ヲ携帶シ鐵道係員ノ求メアルトキハ乘車券ト共ニ提示スル事
- 十三、移動警察關係廳府縣ハ相互ニ隣接廳府縣ト當憲的活動區間ノ協定ヲ遂ケ密接ナル連絡ヲ取り共同一致ノ活動ヲナス事

右協定ハ内務省警保局長ニ通報スル事

- 十四、移動警察關係廳府縣以外ナル縣ノ管轄區域内ニ於テ列車内警察事項發生取扱ノ際ニハ其ノ地ノ警察官ト連絡ヲ採リ必要且適切ノ處理ヲ爲ス事
- 十五、前項ノ目的ヲ達スル爲メ移動警察關係廳府縣ハ其ノ關係外ナル隣接縣當局ト充分ナル諒解ヲ遂ケ意思ノ疏通ヲ圖ル事
- 十六、列車利用常習犯人出獄ノ際ニハ其ノ氏名、年齢、特徴、常習犯罪手段、寫眞、(又ハ人相畫)等ヲ廳府縣並鐵道省ニ通報交付スルノ豫定ヲ以テ一般ノ該資料ノ供與方ヲ司法省ニ交渉スヘキモ其實現ヲ見ル迄便宜ノ處理トシテ廳府縣ハ管轄地域所在ノ監獄ト協議シ上記ノ材料ヲ得内務省並關係府縣ニ報告通報スル事
- 十七、内務省ハ前記報告ヲ取據メ鐵道省ニ通報シ鐵道職員ニ對シ豫防上ノ注意ヲ喚起スル事
- 十八、停車場並列車内ニ於ケル置引拘摸被害ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テハ曩ニ内務省警保局長依命通牒(大正十年十二月九日發警第九七號)ニ基キ赤色用紙ヲ用ヒ被害事實、發生日時、被害驛又ハ被害地域、被害事實

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

發生列車番號、乘車等級、被害者住所氏名、被害金品概要、被害模様大要、容疑者ノ人相、年齢、服装、其他參考事項、届出受理警察官署ヲ記入シ報告スル事

- 十九、停車場及列車内ニ於ケル置引、拘摸犯人檢舉ノ際ニハ上記依命通牒所定ノ白紙用紙ヲ使用シ其ノ所定欄ニ夫々記入ノ上撮影年月日付寫眞添付報告スル事
- 二十、列車關係警察事項トシテ取扱ヲ要スル主要ナルモノハ

(一) 鐵道利用犯罪ノ豫防並ニ犯人逮捕

(二) 各種過激思想抱持者其他要注意人ノ視察取締

ニ存スルモ視察取締ニ付テハ常ニ慎重ナル注意ヲ要シ一般旅客ニ不快ノ感ヲ惹起セシムルカ如キコトナキ様充分ノ注意ヲ要シ殊ニ(一)ニ掲ケルモノニ付テハ其ノ視察取締ハ外部ニ表示セラルヘキ限リニ非サルヲ以テ外部ニ對シテハ本計畫ノ實行ハ常ニ列車内ニ於ケル犯罪ノ豫防、旅客ノ保護即チ其ノ身體財產ニ對スル安全ヲ保障スルノ措施ナルコトヲ標榜シ乗客ヲシテ無用ノ疑懼ヲ懷カシメサル様慎重周到ノ注意ヲ要スル事

(別紙) 二十一、列車輸送中ノ禁止出版物差押ニ關シテハ別紙ニ依ルコト

列車輸送中ノ禁止出版物差押ニ關スル件(大正十一年二月内務部第一〇號警保局長依命通牒) (明治四十二年五月訓第二四〇號) (新聞紙法取扱心得第一六條)

從來列車輸送中ノ禁止出版物差押ハ目的驛ニ致達スルヲ待テ執行シ來リタルモ

將來左ノ心得ニテ處理セラレタシ

- 一、記事指定ナキ禁止出版物若ハ特ニ重要ニシテ全部遺漏ナク差押ノ必要アル出版物ニ就テハ目的驛ニ到達スル前ト雖モ便宜途中驛ニ於テ其ノ警察官タル證及差押命令書ヲ提示シテ鐵道當局ヨリ全部ノ引渡ヲ受ケ得ル事
- 二、記事指定アル場合ハ目的驛ニ到達スルヲ待チテ差押執行スルヲ原則トス

但シ鐵道作業ニ差阻ナキ限リ鐵道當局ノ承諾ヲ得テ列車内若クハ連絡船内ニ於テ禁止物ノ選別等ヲナスモ差阻ナキ事

前記(一)ノ場合ニ於テハ列車ノ發着時間ニ支障ヲ來ササル様比較的停車時間ノ長キ主要驛ニ於テ之ヲナシ可成其ノ執行驛ハ豫メ鐵道當局ト協定シ置ク様セラレタシ



尙ホ場合ニ依リテハ鐵道當局ハ鐵道特設ノ通信機關ニヨリ輸送中ノ出版物ニ對シ差押命令ノ發セラレタル事ヲ列車  
乗務員ニ通報シ差押執行上ニ便宜ヲ計ルト共ニ或ハ是等出版物ヲ一括シテ之カ引取方ヲ警察官ニ求ムル場合モアル  
ヘキニ付差押命令ノ到達セル場合ハ迅速ニ停車場派出所ノ警察官ニ通報シ差押執行上齟齬ナキヲ期スルト共ニ若シ差  
押命令到達前鐵道當局ヨリ禁止出版物ノ引取ヲ請求セラレタル場合不取敢之ヲ引取リテ後上司ノ命ヲ受クル様セシ  
メラレタシ

### ●主要鐵道省線上ニ於ケル鐵道關係警察事項取扱ニ關スル施設ノ件依命通牒

大正十一年二月四日  
内務省第一〇號ノ内務省警保局長

停車場及列車内ニ於ケル犯罪ノ警防並ニ其ノ檢舉ハ旅客ノ身體ノ保護ニ財產ノ保全上極メテ注意ヲ要スル義ニ有之  
候殊ニ近時鐵道利用ノ顯著ナル發達ニ連レ犯罪ノ遂行ヲ常習トスルノ徒又ハ奸猾ノ輩巧ニ此ノ種運輸機關ヲ利用シテ  
或ハ犯罪ヲ遂行シ或ハ罪證ノ隠滅ヲ計リ或ハ各地ニ出沒シテ犯行ヲ逞フシ或ハ犯罪後直チニ其ノ地ヲ去リテ其ノ踪  
跡ヲ晦マシ警察活動ノ發展ヲ觀望シツツ後圖ヲ策スル等ノ事實頻出セルノミナラス最近ニ至リテハ各種過激思想ヲ  
抱持スル者亦列車内等ヲ利用シテ宣傳ヲ行ハントスルノ傾向アリ定ニ公安保持上放任スヘカラサル狀況ナルヲ以テ  
之カ對策ヲ攻究シ實行スルノ必要相生シ候若シ經費ノ之ヲ許スアラハ全國ニ互リ隨時隨所ニ其ノ權限ノ行使ヲナシ  
得ル内務省直屬警察官ヲ設ケ之ヲ全國ノ要衝ニ配置シ一面各地分駐警察官ノ相呼應シテノ活動ヲナサシムルト共ニ  
他面地方警察官トノ連絡ヲ密接ニシ敏速ニ確實ニ此ノ種警察事項ノ警防處置ヲナサシムルニ於テハ其ノ成績見ルヘ  
キモノアルヘシト思料致サレ候モ如斯ハ諸種ノ關係上直ニ實現スルコト能ハサルカ故ニ差向キ鐵道省線中主要路上  
ニ於ケル此ノ種不逞行爲ノ視察取締ニ當ラシムル爲メ沿線上ノ廳府縣中主要鐵道ノ交叉、分歧點ヲ有シ又ハ警察事項  
ノ頻出シ若ハ兇徒ノ逸出ヲ阻止スヘキ對外交通上ノ重要地點ヲ管轄スル十九廳府縣(警視廳、北海道廳、青森縣、  
野縣、神奈川縣、靜岡縣、愛知縣、福井縣、京都府、大阪府)ヲ選ヒ各若干名ノ當該事項取扱者ヲ置キ相互ニ密接  
兵庫縣、廣島縣、山口縣、福岡縣、熊本縣、長崎縣)ヲ選ヒ各若干名ノ當該事項取扱者ヲ置キ相互ニ密接  
ナル連絡ヲ探リ幹線上ニ於ケル特定ノ列車ヲ目標トスル受繼取締ニ當ラシメ或ハ其ノ固有ノ管轄地域ヲ超ヘテ便宜  
ノ地點迄ノ視察取締ヲ續行セシムルコトト致シ候ニ付テハ自然關係廳府縣警察官ノ連絡活動ノ際貴管内ヲ往還スル

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

ノ必要相生シ可申又時々貴管内ニ於テ警察事項ニ違著致ス事モ可有之候ニ付其ノ際ニ於テハ貴管下警察官ニ通報シ  
適宜ノ處置ヲ求メ又ハ協力處置致ス事モ可有之候間彼上廳府縣ノ協議ニ應シ協調的態度ヲ以テ充分共助候様鐵道沿  
線警察官憲ニ御示達方相煩度候

尙貴管内ニ於ケル鐵道關係警察事項ノ警防並ニ處置ニ付テハ便宜勸合證等ヲ利用シ適宜ノ活動ヲ相煩度候尙又本件  
實行上ノ成績ニ鑑ミ改善上ノ考究ヲ充分遂ケル管ニ御座候間御承知置相成度候  
追テ別紙廳府縣ニ對スル通牒寫中十六、十八、十九項ニ付テテ貴縣ニ於テモ御配慮相煩度候

### ●移動警察關係廳府縣警察官ノ活動區間

大正十一年二月  
内務省第一〇號警保局長依命通牒

改正 大正一二年五月内務省警保第五九號  
移動警察關係廳府縣ハ其ノ固有ノ管轄區域内ニ於テ職務ノ執行ニ當ルハ勿論隣接移動警察關係廳府縣ト常態的活動  
區間ニ付キ協議ヲ遂ケ密接ナル連絡ヲ保チテ視察取締ニ當ルヲ要スルト共ニ其ノ活動區間内ニ在スル移動警察關  
係廳府郡外ナル縣當局トモ十分ナル諒解ヲ遂ケ其ノ地域内通過ノ際逢會セル警察事項ノ取扱ニ付其地警察官ト協同  
シテ適宜ノ處理ヲナスコトニ努ムヘシ又任務遂行上ノ必要ニヨリテハ臨機常態的區間ヲ超エテ活動スルコトヲ妨  
ス

常態的活動區間

廳府縣名

活動區間

北海道廳  
青森縣  
宮城縣  
福島縣  
警視廳

函館驛…青森驛間  
青森驛…函館、仙臺、福島(奥羽本線)、各驛間  
仙臺驛…青森、福島、上野(常磐線經由)、各驛間  
福島驛…仙臺、青森(奥羽本線)、上野、新潟(磐越西線經由)、各驛間  
上野驛…福島、仙臺(常磐線經由)、長野各驛間



神奈川縣  
 靜岡縣  
 愛知縣  
 長野縣  
 新潟縣  
 福井縣  
 京都府  
 大阪府  
 廣島縣  
 福岡縣  
 長崎縣  
 熊本縣  
 鹿兒島縣  
 三重縣  
 奈良縣  
 栃木縣  
 茨城縣  
 千葉縣  
 群馬縣  
 埼玉縣  
 熊谷縣  
 滋賀縣  
 岐阜縣  
 岩手縣  
 秋田縣  
 山形縣  
 石川縣  
 富山縣  
 鳥取縣  
 島根縣  
 岡山縣  
 大分縣  
 佐賀縣  
 宮崎縣  
 鹿兒島縣

東京驛……靜岡驛間  
 飯田町驛……長野驛間  
 橫濱驛……東京、八王寺、名古屋各驛間  
 靜岡驛……東京、名古屋各驛間  
 名古屋驛……長野、靜岡、福井(北陸本線經由)、港町(關西本線)、京都(東海道本線)、各驛間  
 海道本線、各驛間  
 長野驛……福井、上野、飯田町、新潟、名古屋各驛間  
 新潟驛……長野、福井、福島各驛間  
 福井驛……新潟、長野、京都、名古屋各驛間  
 京都驛……福井、名古屋(東海道本線及關西本線經由)、大阪各驛間  
 大阪驛……下關、名古屋各驛間  
 港町驛……名古屋、和歌山各驛間  
 廣島驛……神戶、下關各驛間  
 福岡驛……下關、長崎、熊本、大分各驛間  
 長崎驛……門司驛間  
 熊本驛……福岡、南九州各驛間  
 浦和驛……上野、宇都宮、千葉、水戸、高崎各驛間  
 前橋驛……上野、宇都宮、水戸、長野各驛間  
 千葉驛……上野、兩國、水戸各驛間  
 水戸驛……上野、兩國、仙臺、小山(水戸線)、各驛間  
 宇都宮驛……上野、福島、水戸、前橋各驛間  
 奈良驛……京都、津(參宮線)、大阪、和歌山各驛間  
 津驛……京都(草津線)、名古屋、奈良各驛間

〔神奈川管〕

山梨縣  
 滋賀縣  
 岐阜縣  
 岩手縣  
 秋田縣  
 山形縣  
 石川縣  
 富山縣  
 鳥取縣  
 島根縣  
 岡山縣  
 大分縣  
 佐賀縣  
 宮崎縣  
 鹿兒島縣

〔神奈川管〕  
 甲府驛……飯田町、長野、名古屋各驛間  
 大津驛……名古屋、京都、敦賀、津(草津、參宮、關西各線)各驛間  
 岐阜驛……京都、敦賀、名古屋各驛間  
 盛岡驛……青森、仙臺各驛間  
 秋田驛……山形、青森各驛間  
 山形驛……福島、仙臺(陸羽東線)、秋田各驛間  
 金澤驛……新潟、福井各驛間  
 富山驛……新潟、金澤各驛間  
 鳥取驛……京都、姫路、松江各驛間  
 松江驛……鳥取驛間  
 岡山驛……神戶、廣島各驛間  
 大分驛……福岡、門司各驛間  
 佐賀驛……福岡、熊本、長崎各驛間  
 宮崎驛……鹿兒島、熊本各驛間  
 鹿兒島驛……宮崎、熊本各驛間

●鐵道又ハ軌道ニ關スル犯罪告發方ノ件

本文(本編第四章第二節鐵道、軌道)ニ輯ス

明治四十四年九月十六日  
監甲第一二五〇號鐵道院管理部長通牒

●鐵道營業法第二十九條及第三十條違反者取扱ニ關ス



ル件

大正五年五月十六日 辰警保收第四〇三四號保安課長通牒

鐵道營業法ニ關シ中部鐵道管理局ヨリ別紙ノ通り通報アリタル旨横濱地方裁判所檢事正ヨリ照會有之候條右御了知相成度依命此段及通牒候也

(別紙)

鐵道營業法第二十九條及第三十條違反者取扱ニ關スル件(大正五年五月十日中管庶第八六三號)

鐵道營業法第二十九條及同第三十條ノ違反者アリタルキハ關係課長チシテ其ノ名義ヲ以テ區裁判所檢事又ハ司法警察官ニ告訴ヲ提起セシムルコトニ致候間右御承知ノ上關係ノ向ニ對シテハ可然御傳達相煩度此段及御依頼候也

參考 (法規參照)

第二十九條 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ左ノ所爲チ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一、有效ノ乘車券ナクシテ乘車シタル時

二、乘車券ニ指示シタルモノヨリ優等車ニ乘リタル時

三、乘車券ニ指示シタル停車場ニ下車セサル時

第三十條 運送品ノ種類若クハ性質ヲ詐稱シ又ハ運賃ヲ免レル目的チ以テ詐偽ノ所爲チ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

●無賃乘車勸合證

明治三十一年六月 示令第五五號

官設鐵道列車内拘摸犯取締ニ從事スル警察官ハ左ノ様式ニ依リ調製シタル鐵道乘車勸合證ヲ受取り課長ニ差出シ無賃乘車證ノ交付ヲ受ケヘシ

前項ノ鐵道乘車勸合證ハ警察部刑事課長ヨリ交付スルニ付署長ハ之レカ受授チ明ニシ濫用セサル様取締ヲ爲スヘシ

本令ハ明治三十一年七月一日ヨリ施行ス

明治二十八年五月示令第三十八號鐵道取締警察官ノ乘車手續ハ之ヲ廢止ス

(雛形) 表面

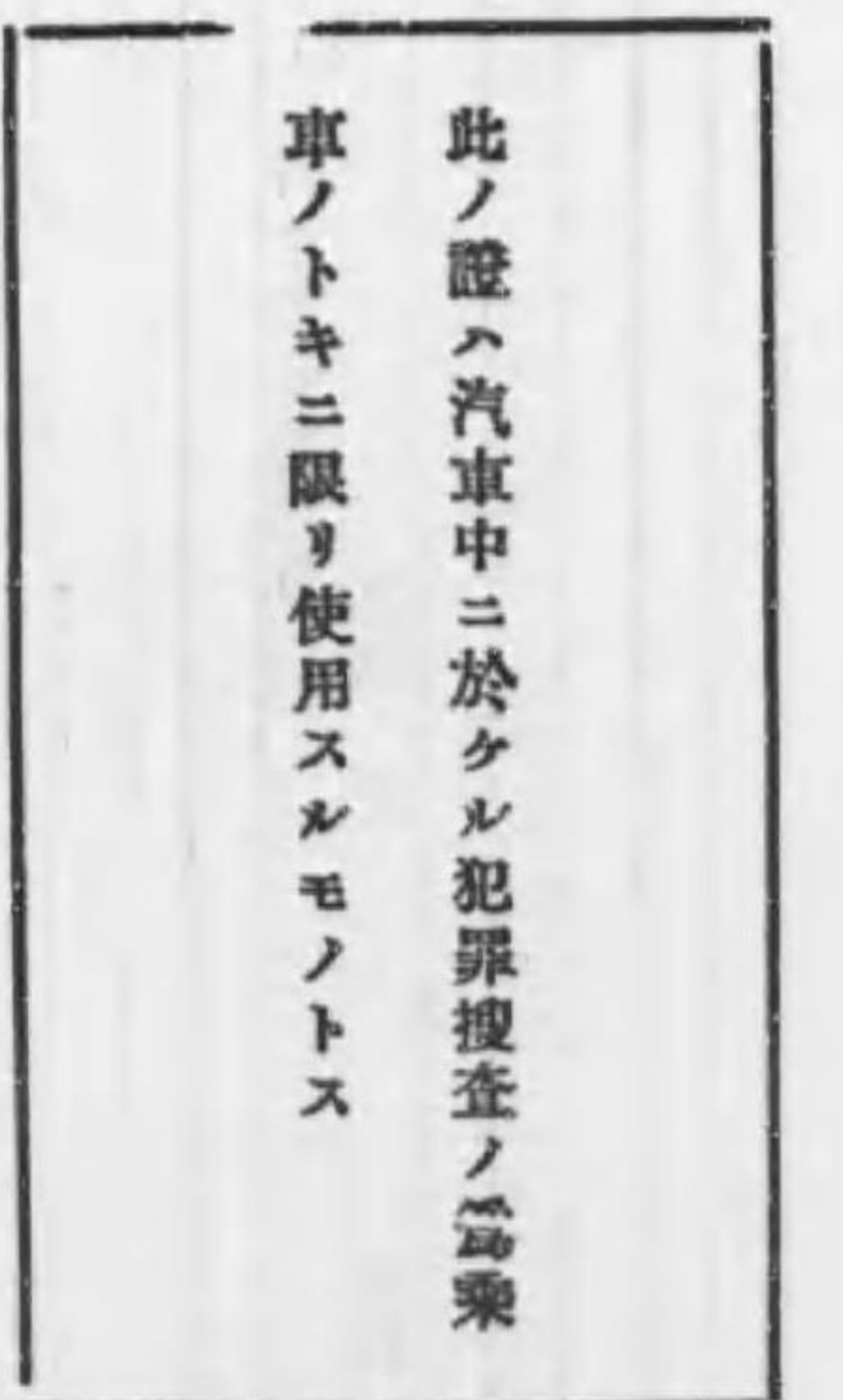
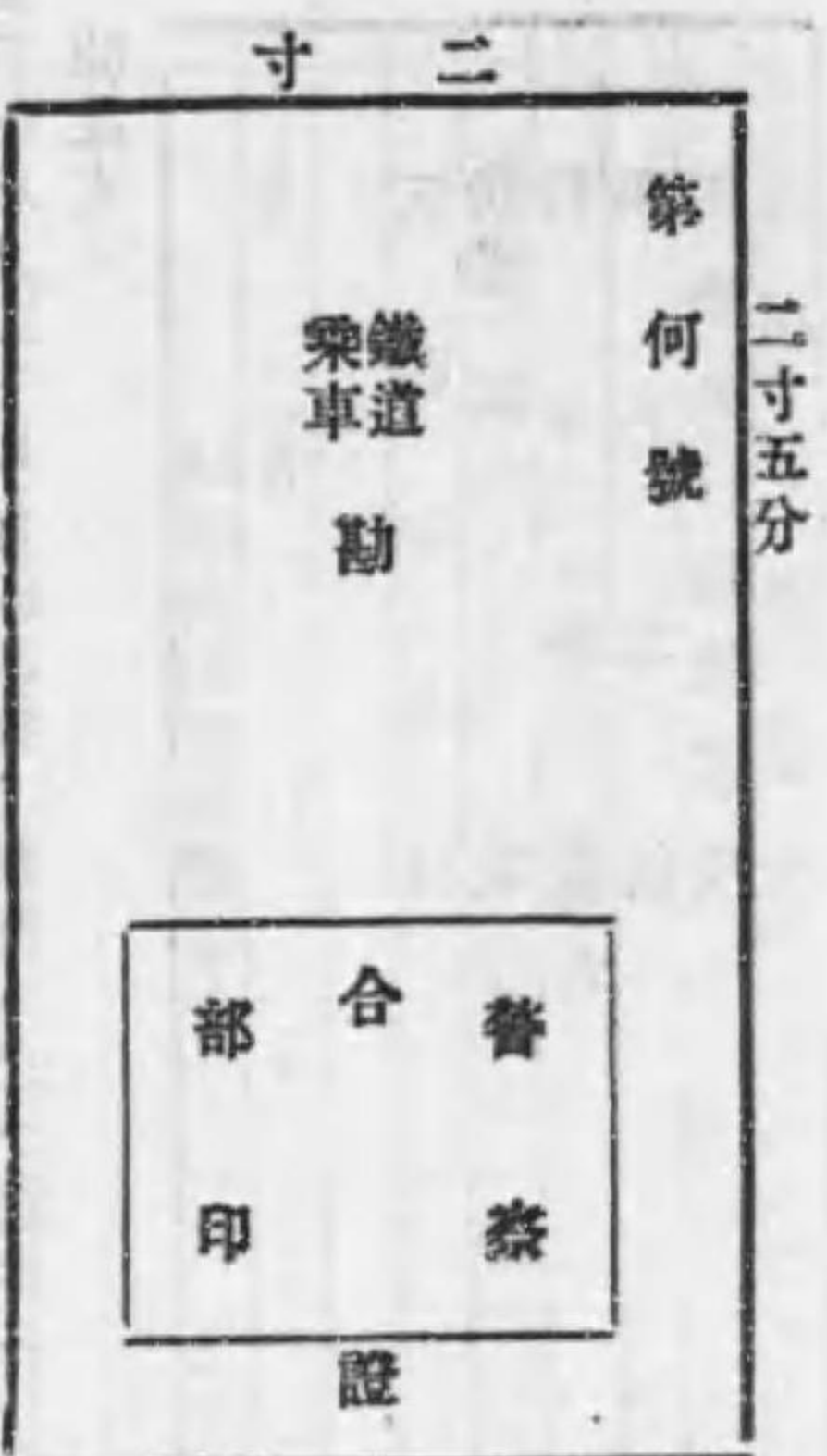
裏面

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

二寸五分

第何號



●列車内拘摸取締及勸合證取扱心得

大正十一年二月二十七日 訓示甲第四號

列車内拘摸取締及勸合證取扱心得別冊ノ通り定ム

第一條 列車内拘摸取締ト東海道線及横須賀線ヲ通シ別表日割表ニ依リ指定セラレタル警察官署ニ於テ各其日割ニ從事スヘシ

東海道線ハ川崎、小田原間横須賀間ヲ取締區域トス臨時取締ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ都度之ヲ命ス警察官署長ニ於テ臨時取締ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シ申告スヘシ

第二條 取締ニ從事スルトキハ勸合證ヲ課長ニ提出スルト同時ニ警察手帖ノ官氏名又ハ名刺ヲ示シ警察官吏タル事ヲ明ニシタル上無賃乘車證ト引換テ受ケ該乘車證ヲ携帶乘車シ取締ヲ終リタルトキハ直ニ該證ヲ同課長ニ返還スヘシ

第三條 取締員ノ乘車スヘキ列車ハ三等トス但シ特ニ必要アルトキハ其ノ理由ヲ鐵道係員ニ告ケ各等ニ乘車スルコトヲ得乗込列車ハ可成長距離ニ往復スルモノヲ撰ヒ必要ニ應シ途中轉車スヘシ







各署長宛

鐵道關係犯罪取扱ニ關シテハ客年十二月十五日西警刑收第六四七三號通牒ノ通り其被害ノ輕重多寡ニ拘ラス一般重要犯罪ト均シク總テ赤色重異例犯罪報告用紙(檢舉ノ際ハ同白色用紙ニテ本人寫眞添付)ニテ報告セラルヘキニ之ヲ怠ル向キモ有之處理上支障不尠候條爾今鐵道關係犯罪ニ對シテハ細大洩サス前記用紙ニテ報告相成度依命此段及通牒候也

追テ停車場待合室及鐵道構内ニ於ケル被害ハ勿論同一ニ取扱フヘキモノニ有之候條爲念申添候也

●列車内取締員服務心得

大正十一年二月二十日  
秘調示第二一號

改正 大正十二年八月六月秘調示第六六號

列車内取締員服務心得左ノ通り定ム

- 第一條 列車内取締員ハ左ノ事務ニ從事スルモノトス
  - 一、犯罪ノ豫防並ニ犯人逮捕
  - 二、要注意人ノ觀察取締
  - 三、各種過激思想抱持者ノ觀察取締
  - 四、其他上司ヨリ特ニ命セラレタル事項
- 第二條 取締員ニ主任者一名、副主任者四名及擔任者若干名ヲ置ク
  - 主任者ハ警察部長之ニ當リ副主任ハ刑事、特別高等、外事、高等ノ各課長ヲ以テ之ニ充ツ
  - 主任者、副主任者ハ擔任者ノ職務執行ノ當否、勤怠等ヲ監督シ擔任者ハ警察部ノ直屬トシ主任者又ハ副主任者ノ指揮ヲ受ケ其職務ニ從事スヘシ
- 第三條 取締員ノ活動區域ハ横濱驛、東京驛、横須賀驛、沼津驛間、横濱驛、眞鶴驛間トス
  - ハシ職務執行上ノ都合ニヨリ該區間ニ依ラス活動ヲ命スルコトアルヘシ
- 第四條 取締員ハ時々鐵道構内ニ入り又ハ乗込ミ其ノ結果ハ左ノ様式ニ依リ報告スヘシ
  - 一、活動年月日時
  - 二、活動區域

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 三、列車番號
  - 四、乗込等級
  - 五、觀察並取扱事項
  - 六、其他參考事項
- 第五條 擔任者ハ指定シタル列車ニ乗車シ絶エス車内ヲ查察スヘシ
- 第六條 擔任者ハ取締上必要ナル者ノ寫眞ヲ携帯シ該當者ノ乗車シタルヲ認知シタルトキハ特ニ其行動ニ注意シ列車ノ進行スヘキ地ノ廳府縣ト連絡ヲ探ルヘシ
- 第七條 擔任者乗車ノ際ハ沼津驛前、東京驛前、横須賀驛前各巡查派出所及眞鶴村巡查駐在所ニ備付アル日誌ニ官職氏名並ニ到着及出發日時ヲ記載スヘシ
- 但シ職務執行上ノ都合ニヨリ記載シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ報告スヘシ
- 第八條 擔任者ハ各自ニ日誌ヲ備ヘ概ネ左ノ例ニ依リ記載シ毎月主任者ノ檢閲ヲ受クヘシ
  - 一、活動月日時
  - 二、活動ノ狀況
  - 三、取扱觀察事項
  - 四、其他參考事項
- 第九條 列車内ニ於テ事故認知ノ際ハ速ニ乗務車掌ト協力シ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ
  - 一、犯罪アリタルトキハ直ニ之カ取調ヲ行ヒ證據其ノ他捜査ノ資料ヲ蒐集保全シ事件ノ大小輕重ニ鑑ミ事件發生地ノ警察官署又ハ最初列車ノ停車スヘキ驛警察官署ニ通報スル等適當ナル處理ヲ探ルヘシ
  - 二、犯人ヲ逮捕シタルトキハ身柄ヲ最初列車ノ到着シタル驛管轄警察官署ニ引渡シ之カ處置ヲ求ムヘシ
  - 三、要注意人及各種過激思想抱持者ナルヲ認知シタルトキハ之カ行動ヲ觀察シ列車ノ進行スヘキ地ノ廳府縣ニ通報スヘシ
  - 四、前各號以外ノ事故ヲ認知シタルトキハ隨機適宜ノ處置ヲ爲スヘシ



第十條 取締員ハ隣接地ノ廳府縣擔任者並ニ鐵道關係者ト密接ナル連絡ヲ保チ且ツ互ニ援助スヘシ

第十一條 擔任者ノ乘車ノトキハ當該列車ノ停車スヘキ際ノ警察官吏ト職務上ノ連絡ヲ探ルヘシ

第十二條 取締員乘車シタルトキハ當該車掌ニ對シテ手續ヲナスヘシ

一、警察手帳ヲ提示スルカ若クハ官職氏名ノ記載アル名刺ヲ交付スルコト

二、乘車區間ヲ通告スルコト但シ乘車後區間ヲ變更シタルトキ亦同シ

三、乘車券ヲ提示スルコト

第十三條 取締員驛構内ニ入りタルトキハ當該驛長ニ警察手帳ヲ提示スルカ若クハ官職氏名ノ記載アル名刺ヲ交付

シ且其ノ事由ヲ通告スヘシ

第十四條 取締員勤務中ハ其ノ乘車等級相應ノ私服ヲ着用シ警察官吏ノ體面ヲ耻カシメサルニ注意スヘシ

第十五條 取締員ハ特ニ言語動作ヲ慎ミ公衆ノ取扱ハ極メテ懇切丁寧ヲ旨トシ苟クモ粗暴野卑ノ舉動ニ出テ事端ヲ

醸ス方如キコトナキニ留意シ且ツ公衆ヲシテ不感ヲ惹起セシメサルニ注意スヘシ

第十六條 列車内ニ於テ旅客ノ取調ヲ爲サムトスルトキハ當該車掌ヲシテ適當ノ個所ニ同行セシムル等努メテ人目

ヲ惹カサル様注意スヘシ

第十七條 乘車券ハ濫用又ハ他人ニ貸與スヘカラス

第十八條 列車利用常習犯人ノ出獄ハ監獄ト協商シ豫メ其ノ通告ヲ受ケ寫眞其ノ他捜査ノ資料ヲ蒐集スヘシ

第十九條 擔任者ノ勤務時間割並ニ乘込列車ハ別ニ之ヲ定ム

刑事巡查服務心得

大正九年九月九日 訓示甲第二一號

刑事巡查服務心得左ノ通定ム

第一條 刑事巡查ハ官吏服務規律及巡查心得細則ヲ遵守スル外尙本心得ヲ恪守スヘシ

第二條 言語動作ヲ慎ミ常ニ品性ノ陶冶ニ力ムルト同時ニ職務上必要ナル諸般ノ研究ヲ爲スヘシ

第三條 犯罪捜査ノ際ニハ他人ニ迷惑ヲ及ササル様注意スヘシ

第四條 自宅ニ於テ告訴人被告人被疑者其地利害關係人等ト會談スヘカラス

〔神奈川警一〕

〔神奈川警一〕

第五條 告訴發覺ヲ受ケ又ハ之カ取次ナシ若クハ強テ告訴ヲ勤メ或ハ取扱事件ノ示談ニ關與スヘカラス

第六條 職務上必要ナル場合ノ外置リニ諸興行場ニ立入ルヘカラス

第七條 上官ノ承認ヲ得スシテ人民ノ召喚ヲナスヘカラス但シ豫メ承認ヲ得ル暇ナキ時ハ召喚後速ニ其旨報告スヘシ

第八條 何等ノ名義ヲ以テスルモ職務ニ關シ金品其他ノ利益ヲ收受シ又ハ響應ヲ受ケヘカラス若シ金品ヲ提供セバ

モノアリタル時ハ其願末ヲ即時課署長ニ報告スヘシ

第九條 課署長ノ承認ヲ得スシテ課署又ハ之レニ類スル者ヲ使用スヘカラス

第十條 現行犯ノ場合ニ於テ保全ヲ爲ス外贓物ノ領置及還付ノ取扱ヲ爲ス時ハ必ス上官ノ指揮ヲ受ケヘシ

第十一條 職務ニ關シ名刺ヲ交付スルトキハ其用件ヲ裏面ニ明記スヘシ

第十二條 上官ノ許諾ナクシテ其職務上取扱タル事項ヲ濫リニ他ニ漏洩スヘカラス

第十三條 各自別冊ニ捜査日誌ヲ備ヘ取扱ヒタル事項等ヲ概ネ左ノ例ニ依リ記載シ毎日司法主任ヲ經テ課署長ニ提

出シ査閱ヲ受ケヘシ

イ 出勤退勤ノ時

ロ 課署内勤務ハ其從事セシ時間及用務

ハ 課署外勤務ニ從事スル時ハ用務ノ大要行先

ニ 歸署ノ時間及捜査願末ノ概要

第十條 常ニ敏活ノ行動ヲ要スルヲ以テ毎朝出勤ノ際ハ成ルヘク辨當ヲ携帯シ時間徒費或ハ食事ニ附隨スル諸種

ノ弊因ヲ避ケルコトニ心懸クヘシ

第十五條 本心得ハ刑事事務ヲ補助スル者ニ之レヲ準用ス

刑事巡查特別手當支給内規

大正八年四月五日 訓示甲第二六號

一、刑事巡查ノ特別手當ハ四箇月毎ニ其ノ成績ヲ審査シ支給額ヲ定ム



- 二、新に任命せられたる刑事巡査ノ特別手當ハ月額三圓ノ額ヲ特別ノ事情アルトキハ之ニ據ラサルコトアルヘシ
- 三、刑事巡査二名以上配置ノ警察署長ニハ査定前各刑事巡査ニ對スル手當ノ總額ヲ通知ス
- 四、前項ヲ通知シ受ケタル警察署長ハ各刑事巡査ニ支給スルキ金額ニ付意見ヲ上申スヘシ
- 五、警察署長ハ其ノ所轄内ニ於ケル罰金以上ニ該ルヘキ犯罪事件及檢舉成績並刑事巡査ノ成績ヲ調査シ別記甲乙二表ニ於テ毎月前月分ヲ翌月五日迄ニ報告スヘシ

大正三年五月總訓示甲第四號ハ之ヲ廢止ス

(甲) 大正 年 月 日

犯罪事件及檢舉成績取調表 (何月分)

何警察署長

罪名	區別	被害件數		同上價額		檢舉件數		同上人員		同上價額		同上發見價額	
		管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外
強盜													
竊盜													
詐欺													
恐喝													
横領													
何々													
計													

記載心得

- 一、被害ハ所轄内ニ起リタル事件ノミヲ記載スヘシ
- 二、檢舉ハ所轄内外ノ事件ヲ間ハス總テ記載スヘシ
- 三、檢舉價額ニハ檢舉犯罪ノ被害數ヲ記載スヘシ
- 四、本表ノ金額ハ圓位ヲ單位トスヘシ

(乙) 大正 年 月 日

刑事巡査何某成績調査表 (何月分)

何々警察署長

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

罪名	區別	檢舉件數		同上人員		同上價額		同上發見價額		備考
		管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	
強盜										
竊盜										
詐欺										
恐喝										
横領										
何々										
計										

記載心得

- 一、本表ハ刑事巡査一人毎ニ別表トス
- 二、本表ハ犯罪地所轄内外ヲ間ハス總テ記載スヘシ
- 三、本表ノ金額ハ圓位ヲ單位トスヘシ
- 四、檢舉件數中一人ニテ數件ヲ犯シタルモノハ犯罪一件ヲ屬書他ハ左側ニ朱書スヘシ
- 五、檢舉價額前表ニ同シ
- 六、檢舉發見額ニハ裁判所送致又ハ被害者ニ假下保管ヲ命ジタルモノ等被害者ニ還付シ得ヘキモノノミヲ記スヘシ
- 七、檢舉犯罪中特ニ著大ナルモノアルトキハ其ノ概要ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第二編 保安 第九章 司法







- 六、發覺動機欄ニハ告訴、告發、傳聞、實見其他犯罪ヲ知ルニ足リタル原因ヲ記スヘシ
- 七、共助者トノ關係並共助者氏名欄ニハ共助者ト刑事巡査トノ當該事件ニ關スル檢舉ノ模様功勞ノ割合及ヒ共助者氏名ヲ記スヘシ
- 八、裏面空欄ハ本票ニ關スル照會回答ニ用ユルモノトス

● 犯罪事件及檢舉成績取調表並刑事巡査成績取調表ニ  
關スル件

大正九年四月一日  
甲警刑發第八號

本件月表作成ニ關シ其ノ記載方區々ニ互リ事務整理上支障有之候ニ就テハ爾今該表作整ニ際シ左記事項ニ則シ整表致サルル様御留意相成度右依命及通牒候也

左記

- 一、罪名欄ニハ殺人、放火、強盜、竊盜、擄掠、詐欺、橫領、傷害ノ順序ニ記入シ此ノ八種ニ限り必ス其順位ヲ變セサルコト
- 二、未遂罪ハ必ス既遂罪ノ次位ニ記入スルコト
- 三、業務橫領ト單純橫領ト區別スルコトナク合記スルコト
- 四、刑事巡査成績取調表中單獨、協力、管内、管外欄ハ必ス其ノ様式ヲ變セサルコト
- 五、用紙ハ半紙判ヲ用フルコト
- 六、數字ハ四位ニ止メ千位ニハ必スコンマヲ附スルコト

第二節 違警罪

● 違警罪即決例

明治十八年九月二十四日  
太政官布告第三十一號

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

明治十四年九月第四拾四號布告及ヒ同年十二月第八拾號布告ヲ廢止シ〔違警罪〕即決例別紙ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事

〔別紙〕

第一條 〔違警罪〕即決例

警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル〔違警罪〕ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ  
又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ〔違警罪裁判所〕ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ〔違警罪裁判所〕檢察官ニ送致スヘシ

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ〔一圓チ一日〕ニ折算シテ之ヲ留置ス

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ〔一日チ一圓〕ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第五條ニ定メタル期限内ニ之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過ケルコトヲ得ス



第十一條 保證金を差出シタル者ハ刑ノ旨確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受ケヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金を没入シテ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

●違警罪即決處分手續

明治二十六年十一月二十八日 廳訓第百二十六號

警察部 警察署 警察分署

違警罪即決處分手續別紙之通相定ム

但明治十八年九月三十日巳第四十號違警罪處分手續ハ廢止ス

右訓令ス

違警罪即決處分手續

第一條 警察官吏(違警罪)ノ犯人ヲ認知シタルトキハ被告人ノ住所、氏名、年齢、身分、職業、罪狀、犯罪ノ場所、日時及同一ノ區裁判所管轄内ニ於ケル(違警罪)前科ノ有無若シアレハ言渡ヲ聽取告發スヘシ但シ被告人ニハ告發スル旨ヲ示シ置クヘシ若シ住所氏名ニアルカ逃走又ハ證據湮滅ノ虞アリト思量スル場合ニ於テハ被告人ヲ警察官署ニ引致シテ告發スヘシ(第一號書式)

第二條 (違警罪)ノ告發ヲ受ケタルトキ事實ノ明瞭ナルモノハ可成被告人ヲ呼出スコトナク速ニ即決ノ言渡ヲ爲スヘシ(第二號書式)

第三條 被告人ノ呼出ヲ要スルトキハ出頭ノ日時並ニ代人ヲ以テ出頭セシメ得ヘキコト及被告事件ヲ記シタル書面ヲ以テ通知スヘシ但シ遠隔ノ地ニ在テハ郵便葉書ヲ用フヘシ若シ被告人他ノ管轄内ニ居住スルトキハ訊問スヘキ事項ヲ明示シテ其所管ノ警察官署ニ囑託スヘシ

第四條 被告人開席ノ儘即決言渡ヲナシタルトキハ其言渡書ヲ所屬使丁又ハ便宜ノ方法ヲ以テ住所若クハ所在地ニ送致スヘシ被告人所轄内ニ居住セサルトキハ其言渡書ヲ送達及執行方ヲ所管ノ警察官署ニ囑託スヘシ

第五條 即決言渡ノ確定シタルモノ拘留ニ係ルトキハ監獄署アラサル地ハ所屬留置所ニ於テ執行スヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第六條 科料、假納科料、拘留保證金ハ會計上ノ規定ニ依リ取扱フヘシ

第七條 正式裁判請求ノ申立ヲ受ケタルトキハ一件書類ニ送致目錄ヲ附シ區裁判所檢事ヘ送致スヘシ但シ即決例第九條科料金ノ假納若クハ第十條保證金ヲ差出サシメ又ハ留置ヲ命ジタルトキハ送致書ニ其旨ヲ附記スヘシ(第三號書式)

第八條 即決例第九條第十條ニ依リ留置ハ命令書ヲ發シ直ニ執行スヘシ(第四號書式)

第九條 科料ハ即決例第九條ニ依リ假納セシムルノ外ハ(刑法第三十條)ニ準スルモノトス(第四號書式)

第十條 當事者ヨリ即決言渡書ノ謄本ヲ請求スルトキハ直ニ下付スヘシ但シ謄本ニハ正本ニ依リ謄寫シタルコトヲ記シ署名捺印スヘシ

第十一條 (刑法第四百二十七條第十及明治十九年内務省令第十九號第一條乃至第四條)ノ違犯者ヲ即決シ其裁判確定シタルトキハ其都度犯人本籍地ノ市町村役場ヘ通知スヘシ

第十二條 陸軍現役下士兵卒豫備後備兵ニシテ對シ即決處分ヲ爲シタルトキハ其言渡書ニ謄本ヲ以テ本人所管長ハ該隊長ヘ速ニ通報スヘシ

(第一號)

告發書

某警察署長(又ハ分署長)

官 氏 名宛

住所身分職業(旅行先等ニテ宿所アル者ハ其宿泊所)

氏 名

年 齡

(第二號)

即決言渡書

住所身分職業

氏 名

右之者 年 月 日 時何處ニ於テ何々ノ現行ヲ認知ス此所爲ハ何々ノ(違警罪)ナルヲ以テ(又ハ何々ニ付本人引致ノ上)及告發候也

年 月 日

詰 所

官 氏

名 印

右者 年 月 日 時何處ニ於テ何々ヲ爲シタルモノトス其證據ハ何々ナリ(又ハ認定ス)此所爲ハ何々(法律規則ノ明文及加減ノ情狀ヲ掲ク)ニ依リ處斷スヘキモノナリ



右ノ理由ナルヲ以テ被告某ヲ何日ノ拘留(又ハ何程ノ科料)ニ處ス

但シ此言渡ニ對シ正式裁判ヲ請求スルハ三日内(又ハ言渡ノ送達アリタルヨリ五日内)トス

年 月 日 印

某警察署長(又ハ分署長)

官 氏 名 印

(免訴、無罪、管轄違ヒ等ノ言渡モ右ノ書式(但書)ニ依リモノトス)

(第三號)

送致書

住所身分職業

氏 名 年齢

右ハ當署(違警罪)即決言渡ニ對シ正式裁判ノ請求アリタルニ付左ノ書類及送致候也(但シ本人ハ違警罪即決例第何條ニ依リ科料金何程假納(又ハ保證金)ヲ徴(又ハ何々ニ付何日間留置中)(又ハ留置何日ヲ命シ何日解放)シタル者ニ候也)

年 月 日 印

某警察署長(分署長)

官 氏 名 印

某區裁判所 官 氏 名

檢事氏 名宛

一 正式裁判ノ請求書 一 通

一 巡査某ノ告發書 一 通

一 即決言渡書 一 通

一 何々 何 通

以上

(第四號)

命令書

住所身分職業

氏 名 年齢

右 年 月 日 科料何圓錢ニ(又ハ拘留何日ニ)處シタル處科料ヲ假納セサル(又ハ保證金ヲ差出サ、ル)ニ付違警罪即決例第九條(第十條)ニ依リ何日間留置ヲ命ス(又ハ右 年 月 日 科料何圓錢ニ處シタル處限内納完セサルニ付(刑法第三十條)ニ依リ拘留何日ニ換フ)

年 月 日 印

某警察署長(分署長)

官 氏 名 印

(神奈川警)

● 違警罪裁判言渡書ノ謄本又ハ抄本下附ノ費用徴收其即決ニ係ルモノハ舊ニ仍ル

明治十八年十二月九日 司法省達丙第十號

裁判所 警視廳 府縣(東京府) (ヲ除ク)

明治十五年三月當省丙第十號ヲ以テ(違警罪)裁判言渡書ノ謄本又ハ其抄書ヲ下付ス可キ費用ハ當分徴收ス可カラサル旨相達置候處本年九月第三十號ヲ以テ(違警罪)即決例公布相成候付テハ自今該裁判ノ正式ニ係ルモノハ該費用ヲ徴收シ其即決ニ係ルモノハ従前ノ通取計可シ此旨相達候事

● 陸軍軍人軍屬違警罪處分例

明治十九年五月二十四日 勅令第四十四號

朕陸軍軍人軍屬違警罪處分例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

- 第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ
- 第二條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知ス可シ
- 第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ
- 第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限内ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ
- 第五條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致ス可シ
- 第六條 軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得



第八條 軍法會議ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

### ●陸軍軍人違警罪處分通報ノ件

明治十六年八月  
司法省連丙第六號

陸軍常備下士服役中ノ者違警罪ヲ犯シ其處分ヲ爲シタル節ハ其人名冊科ヲ詳記シ其都度本人所管四隊付ナレハ該隊長ニ速ニ通報可致此旨相達候事

### ●海軍軍人軍屬違警罪處分例

明治二十二年十月二日  
法律第二十五號

朕海軍軍人軍屬違警罪處分例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍人軍屬違警罪處分例

- 第一條 海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲スコシ
- 第二條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其所屬ノ長官若クハ艦船團長ニ通知ス可シ
- 第三條 即決ノ旨渡ニ對シテハ海軍常設軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ海軍治罪法ニ從フ
- 第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限内ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ旨渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出スコシ
- 第五條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ長官ニ送致スコシ
- 第六條 海軍軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 即決ノ旨渡確定シ若クハ正式裁判ノ旨渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署海軍軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ艦船團長又ハ被告人所在ノ地ノ軍法會議主理ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得
- 第八條 海軍軍法會議ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

### ●海軍軍人軍屬ヲ違警罪即決例ニ依リ處分シタルトキ所屬長官ニ通知ノ件

明治三十年五月二十六日  
海軍省訓令第一號

警視廳 北海道廳 府縣 東京府 憲兵司令部  
ヲ除ク

海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ヲ憲兵隊若クハ警察署ニ於テ違警罪即決例ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其所屬ノ長官若クハ艦船團長ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

### ●違警罪目ニ關スル件

明治十四年八月三十一日  
太政官達第七十七號

刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルトキハ之ヲ主務ノ省ヘ届出ヘシ此旨相達候事

### ●各地方違警罪目設定公達心得方ノ件

明治十四年十一月二十一日  
內務省達番外

本年八月第七號公達中主務ノ省トアルハ內務司法兩省ヲ指稱シタル儀ニ候條爲心得此旨相達候事

### ●勞役場留置ノ旨渡其ノ他ニ關スル件

明治四十一年十月二日  
警保局長通牒

勞役場留置ノ旨渡其ノ他ニ付司法省ニ及協議候處今同別紙ノ通り民利局長ヨリ回答有之候條爲念此段及通牒候也

(別紙)

司法省民利甲第二一二號

第二編 保安 第九章 司法



本月二十四日警山第三七號ノ内ヲ以テ違警罪即決例ニ依リ科料ヲ言渡ス場合ニ於テ勞役場留置ノ言渡ヲモ爲シ得ル  
ト否等其ノ件ニ關シ御照會ノ趣領承右ノ場合ニ於テモ勞役場留置ノ期間ヲ定メ同時ニ之ヲ言渡スヘク而シテ若シ科  
料ヲ假納セサルトキハ同例第九條ニ依リ刑法第十八條第五項ニ定ムル期間内ハ勿論言渡シタル科料ノ金額ニ達スル  
マテ引續キ留置スヘキモノト致思考候又刑法執行前ニ於テ警察官署カ言渡シタル科料處分ニ付テハ刑法施行法第十  
三條ニ準シ警察官署ニ於テ其ノ決定ヲ爲スヘキモノト致思考候將又留置スヘキ勞役場ハ監獄法第一條第八條及七第  
九條ニ依リ警察官署ノ留置場ヲ以テ代用シ得ヘキモノト被思量候此段及同答候也(明治四十一年九月三十日司  
法省民刑局長警保局長宛)

●警察官署ニ於テ即決シタル科料ヲ納付セサル場合ノ

取扱方ニ關スル件 明治四十一年十一月二十七日 警保收第九六一二號

別紙ノ通り秋田縣知事ノ照會ニ對シ警保局長ヨリ同答有之候條依命此段及通謀候也

(別紙) (明治四十一年十一月十一日 警秋第七五號ノ内警保局長知事宛)

甲號照會ニ對シ乙號ノ通り同答候條御參考迄及通謀候也

(甲號) (明治四十一年十月二十三日秋發保第四一五三號) 秋田縣知事警保局長宛

警察官署ニ於テ即決シタル科料ノ徵收ニ際シ犯人相當ノ財產ヲ有スルモ任意ニ之ヲ納付セサル場合ニハ刑法第十八  
條第二項刑事訴訟法第三百二十條第三項等ノ主旨ニ依レハ直ニ勞役場留置ノ執行ヲ爲スヲ得スシテ強制徵收ヲ爲サ  
サルヘカラサルコトト被存候處右場合ニハ如何ナル順序手續ニ依リ執行致スヘキ儀ニ有之候哉至急御意見承知致度  
此段及照會候也

(乙號) (明治四十一年十一月十一日 警秋第七五號警保局長同答)

客月二十三日付秋發保第四一五三號ヲ以テ警察官署ニ於テ即決言渡シタル科料徵收方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ警  
察官ニ於テ刑法施行法第五十條及刑事訴訟法第三百二十條第三項ニ依リ強制徵收スルヲ得サルニ付違警罪即決例第  
九條又ハ刑法第十八條ニヨリ留置ヲ爲スヘキモノト存候此段及同答候也

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

●少年法第十三條ノ勞役場留置ト違警罪即決例ニ依ル

科料金納付ヲ爲ス能ハサル場合勞役場留置ニ關スル

件 大正十二年十月二十四日 警發乙第二五號警保局長通謀

本文(本章第一節刑事ニ輯ム)

●少年ニ對シ即決處分ヲ爲シタルトキハ其ノ事件關係

住所氏名年齢等少年審判所へ通知

大正十二年一月六日 檢發第七號橫濱地方裁判所檢事正通謀

本文(本章第一節刑事ニ輯ム)

●勞役場留置言渡ニ關スル件

明治四十二年一月十四日 都發第二四號都田警察署長稟請

同一犯人ニシテ科料ニ處スヘキ罪三罪アリ甲所爲ニ一圓乙所爲ニ三十錢丙所爲ニ二十錢ト併科シタル場合勞役場留  
置期間ヲ定ムルニハ其ノ三罪中ノ一罪ニ付正式裁判ノ請求アリ結果其ノ一罪ノ即決言渡ノ破棄アリタル場合不都合  
ヲ生スルニ由リ併科シタル勞役場留置言渡ハ甲科料ニ付何日乙科料ニ付何日丙科料ニ付何日ト各別ニ言渡スヘキモ  
ノナリト心得可然哉

又科料ト共ニ言渡スヘキ勞役場留置期間定メ方ニ付テハ別ニ一定ノ標準ナキヲ以テ刑法第十八條第二項及同第三項  
ノ期間ノ範圍内ニ於テ自由ニ裁量シ適宜期間ヲ定メ言渡スヘキモノト心得實施後右ニ取扱居候ヘ共此ノ見解ニ依レ  
ハ科料ヲ完納セサル場合ノ勞役場留置期間ト違警罪即決例第九條ノ科料假納ヲ爲ササルモノニ對スル留置期間ト二  
者同シカラサル結果ヲ生ス例之前段ノ見解ニ依レハ科料二圓ニ處シタルモノニ對シ一日間勞役場留置ヲナシ得ルモ  
即決例第九條ノ留置ヲナス必要生スレハ其ノ留置ハ二日ノ期間トナル二者孰レニ據リ期間ヲ定ムヘキカ疑義相生シ



候條何分ノ御垂示相成度此段稟請候也

警保收第三二七號 (明治四十二年二月五日)

明治四十二年一月十四日付都發第二四號勞役場留置言渡ニ關スル稟請ノ件左ノ通り心得ヘシ

左記

前段其ノ意見ノ通り

後段ハ必スシモ二者一致スルヲ要セス

### ●勞役場留置者取扱ニ關スル件

明治四十一年十二月十八日  
警保收第一〇一五三號保安課長通牒

別紙寫ノ通り照應有之候條爲念此段及通牒候也

(別紙)

警官第七九號ノ内 (明治四十一年十二月十五日警保局長神奈川縣知事宛)

甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答條爲念此段及通牒候也

甲號 (明治四十一年十一月十三日)

乙號 (保祕發第二一〇號宮城縣知事)

違警罪即決例ニ依リ言渡シタル拘留ニ付警察官署留置場ニ於テ刑ノ執行中刑事訴訟法第三百十九條第二項各號中ノ事故アル場合合同第三百二十條ニ準シ即決權者ヲシテ執行停止セシムルモ差支ナキ件ニ關シ本月五日警保第八八號付御通牒ノ處刑法第十八條第二項ニ依リ言渡シタル勞役場留置者ニシテ警察官署留置場ニ留置スル者ニ對シテハ特ニ之ヲ準用スヘキ法條ナキ限リハ即決權者ニ於テ執行停止ヲ爲スコト能ハサル儀ト思料候ヘ共兩者同一ノ事故アリト假定シ一ハ執行停止ヲ爲シ一ハ之ヲ爲シ得サル結果ヲ生スル等聊カ疑義相生シ候ニ付何分ノ御同報煩度及照會候也

乙號 (明治四十一年十二月十五日)

客月十三日付保祕發第二一〇號勞役場留置取扱方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ勞役場留置者ニシテ刑事訴訟法第三百

(神奈川警)

(神奈川警)

十九條第二項ノ原由アル場合ト雖之レカ執行停止ヲ爲スコトヲ得サル義存候此段及回答候也

### ●勞役場留置ノ言渡シヲ爲シタル者ノ取扱方ニ關スル件

明治四十一年十月十二日  
警保收第七四三四號保安課長通牒

別紙ノ通り司法省監獄局長内務省警保局長ヨリ通牒有之候條右ノ趣旨ニ依リ御取計相成度候

(別紙) (明治四十一年十月六日司法省監甲第六二號監獄局長警保局長知事宛)

監獄法第一條末項ニ依リ警察官署ニ附屬スル留置場ハ監獄ニ代用シ得ルコトト相成候處右留置場ハ概シテ諸般ノ設備完全ナラス且ツ常ニ狹隘ヲ感シ居候ニ付懲役禁錮若ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ハ監獄ニ押送前又ハ押送後間モナク其ノ刑期又ハ留置期限ノ終了スルモノ若ハ身體ノ狀況ニ依リ監獄ニ押送シ得サル場合ノ外總テ監獄ニ押送セシメ警察官署ニ附屬スル留置場ニハ拘禁留置セサル様御取計相成度此段及通牒候也

### ●違警罪即決例ニ依リ言渡シタル拘留刑執行ノ爲監獄ニ收容中ノ者ノ刑ノ執行停止ニ關スル件

明治四十二年十月四日  
警保收第五五二一號保安課長

違警罪即決例ニ依リ言渡シタル拘留刑執行ノ爲メ監獄ニ收容中ノ者ノ刑ノ執行停止ニ關シ別紙ノ通り警保局長ヨリ通牒有之候條御參考迄及通牒候也

(別紙)

警視第三九號ノ内 (明治四十二年九月三十日)

警保局長神奈川縣知事宛

違警罪即決例ニ依リ言渡シタル拘留刑執行ノ爲メ監獄ニ收容中ノ者刑ノ執行停止ヲ爲スノ事由生シタルトキハ刑事訴訟法第三百二十條及監獄法施行規則第十六條ニ準シ即決處分ヲ爲シタル警察官ノ指揮ニ基キ其ノ刑ノ執行ヲ停止シ得ル義ト思料候司法省ト協議ノ上御參考迄此段及通牒候也



### ● 拘留刑ノ執行停止取扱方ニ關スル件

明治四十一年十一月六日  
警保收第八一六〇號保安課長通牒

拘留刑ニ處セラレタル者ニ對スル刑ノ執行停止取扱ニ關シ別紙ノ通り警保局長ヨリ通牒有之候條右ニ依リ御取扱相成度候

(別紙)

警保第八八號ノ内 (明治四十一年十一月五日)  
警保局長通牒

拘留刑ニ處セラレタル者ニ對スル刑ノ執行停止取扱方ニ關シ甲號照會有之乙號ノ通り回答候條爲念此段及通牒候也

(甲號)

保第二七七號 (明治四十一年十月二十二日)  
茨城縣知事照會

拘留刑ニ處セラレタル者ニ對シテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ヘキ場合ハ刑事訴訟法第三百十九條第二項ニ規定スル所ニ有之候處右停止ハ同法第三百二十條ニ依リ檢事ニ於テ爲スヘキモノニシテ何等除外の規定ヲ認メス然ルニ違警罪即決例ニ依リ警察官署ニ於テ處分セル拘留ニ付テハ警察官署留置場ニ於テ刑ノ執行ヲナスコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於テ刑ノ執行ヲ停止スルノ必要アルトキハ刑事訴訟法第三百二十條ニ準シ即決權者ヲシテ執行ヲ停止セシムルモ差支ナキ儀ト存候得共爲念一應及照會候也

(乙號)

警保第八八號ノ内 (明治四十一年十一月五日)  
警保局長回答

客月二十二日付保第二七七號拘留刑ニ處セラレタル者ニ對スル刑ノ執行停止取扱方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ御見込ノ通り御取計相成可然存候此段及回答候也

### ● 勞役場留置ノ言渡シ其ノ他ニ關スル件

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

明治四十二年四月十二日  
警保收第二〇八九號保安課長

違警罪即決例ニ關スル質疑ノ件ニ付内務省警保局長ヨリ左記ノ通り通牒有之候ニ付御參考ニ供シ候也

(左記)

内務省四一警甲第四六號ノ内 (明治四十二年四月五日)  
警保局長神奈川縣知事宛

甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答候條御參考迄及通牒候也

甲號 (明治四十一年十一月四日)  
警二第六〇二八號靜岡縣知事照會

一、明治四十一年七月十八日大阪區裁判所監督判事ノ質疑ニ對スル同年八月一日司法省民刑甲第五一七號ノ回答ニヨレハ刑法施行後第十三條ハ刑法執行後ト雖モ舊刑法ノ刑ニ處スルモノニ對シテハ罰金科料ノ言渡ト同時ニ勞役場留置ノ言渡ヲナスコトヲ得サルモノト解スヘシト有之是レ所犯刑法執行以前ニ係ル刑法ノ總則ヲ適用スル能ハサル場合ニ起ルヘキ問題ニシテ所犯刑法施行後ニ係ルトキハ假令舊刑法ノ條文ニ依リ處分セラレハシト明記セル縣令ノ違反行爲ナリト雖罰金科料ト言渡ト同時ニ勞役場留置ノ言渡ヲ爲スヘキモノト思考ス警ハ本縣縣令(明治三十六年二)飲料水販賣營業取締規則第十七條ニ本則ニ違反シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分セラルヘシト有之刑法執行後該規則ニ違反セル者ニ對シ科料ノ言渡ヲナストキノ場合ノ如シ

二、勞役場留置ノ言渡ニ付司法省民刑甲第二一二號ヲ以テ民刑局長ヨリ警保局長ヘ回答セラレタル趣旨ニヨレハ違警罪即決例ニ依リ科料ヲ言渡ス場合ハ勞役場留置ノ期間ヲ定メ同時ニ之ヲ言渡スヘク而シテ若シ科料ヲ假納セサルトキハ同例第九條ニ刑法第十八條第五項ニ定ムル期間内ハ勿論言渡シタル科料ノ金額ニ達スル迄引續キ留置スヘキモノト有之其ノ勞役場留置ノ期間ヲ定ムルハ即決處分權者カ刑法ノ趣旨ニ依リ自己ノ裁量ヲ以テ自由ニ之ヲ定メ得ヘク且假納セサル場合ノ留置日數ハ科料金額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ留置スヘク警ハハ科料金一圓ニ對シ勞役場留置二日ヲ言渡シタルトキハ五十錢ヲ一日ニ計算シ科料金四圓ニ對シ二日ノ拘留ヲ言渡シタルトキハ二圓ヲ一日ニ計算シテ留置スヘキカ如シ斯ノ如クセハ即決例ノ九條ニ定ムル一圓ヲ一日ニ計算シテ留置スヘシトノ明文ハ死文ニ屬シ同條ニヨリ假納セサルモノヲ留置セルニ拘ラス同條ノ計算法ニ依ラサルハ之レ即決例ハ訴訟法



ノ性質ヲ有スルモノナルニヨリ刑法ヲ左右スル能力ナキモノトノ見解ニ出ルモノナラシカ  
 或ハ即決例ハ特別法ニシテ何等刑法ト關係アルモノニ非ス故ニ即決例ニヨリ處分シタル場合ハ同例第九條ヲ全部  
 適用ス可ク決シテ分割的適用ヲ許ササルモノナリ故ニ科料金一圓ニ對シ勞役場留置二日ノ言渡ヲナシタルトキ假  
 納セサルニヨリ留置スル場合ハ一圓チ一日ニ計算シ一日間留置シ釋放セサルヘカラス又之ニ反シ科料金四圓ニ對  
 シ二日ノ拘留ヲ言渡シタル場合ハ必ス四日間留置スヘク言渡日數ニ對シ二日間超過スルモ之レ法ノ命スル所ニシ  
 テ止ムヲ得サルモノトス強チ之レカ調和ヲ圖ラントセハ勞役場留置ノ言渡チ一日一圓ニ制限スルニ在リト如此セ  
 ハ全然刑法ノ趣旨ヲ没却スルニ至ルヘク以上ノ數點ニ付法ノ執行上疑義有之候ニ付至急何分ノ御回示相成度候  
 乙號 (明治四十二年四月五日)  
 (警甲第四六號警保局長同答)

一、大垣區裁判所監督判事質疑ニ對スル民刑局長同答ハ處犯刑法施行前ニ係ル新舊法ヲ對照シ舊刑法ヲ輕シト認メ  
 之ヲ適用シタル場合ニシテ刑法施行後ノ罪ニハ關係無之即チ處犯刑法施行前ナルトキハ同法施行後ニ於テ其ノ言  
 渡ヲ爲ストキモ刑法第十八條ニ依リ罰金科料ノ言渡ト同時ニ勞役場留置ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ無之刑法施行法  
 第十三條ニヨリ檢事ノ請求ヲ待チ裁判所決定ヲ以テ之ヲ爲スヘキ次第ニ付即決言渡ノ科料ニ關シテハ右ニ準シ即  
 決官ニ於テ相當御取扱相成ヘキ義ト存候去引例ニ係ル貴縣令飲料水販賣營業取締規則第十七條ニ於テ刑法第四  
 百二十六條第四項ニ據リ處分セラルヘシトノ規定ハ元來注意的ノ規定ニシテ本年勅令第二百十七號ノ適用ナキヲ  
 以テ舊刑法ノ廢止ト同時ニ刑法ノ刑名ニ依ル新ナル罰則ヲ設ケサルニ於テハ同規則ハ制裁ナキノ規定ト可相成存  
 候

二、勞役場留置ト即決例ニ依ル留置處分トノ關係ハ第二說ノ前段又ハ後段ニ依リ便宜御取扱相成可然存候

●勞役場留置及囚人竝刑事被告人押送取扱ニ關スル件

明治四十一年十月二日  
 警保機收第三四七號保安課長通牒

別紙ノ通り内務省警保局長司法省監獄局長間ニ於テ同答及通牒有之タル趣ニ付右ニ依リ御取扱相成度候

(別紙)

(神奈川警)

警發第三八號 (明治四十一年九月三十日)  
 (警保局長知事宛)

別紙ノ通り司法省監獄局長ヨリ同答及通牒有之候條爲念此段及通牒候也

(別紙)

司法省監丙第一〇七八號 (明治四十一年九月二十八日)  
 (監獄局長同答警保局長)

九月十二日附警甲第二五號並ニ二十二日附司乙第二五〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承懲役囚禁錮囚竝勞役場留置ノ言渡  
 ヲ受ケタル者ハ何レモ原則トシテ監獄ニ拘禁シ若ハ留置スヘキコト勿論ノ義ニ候ヘ共已ムコトヲ得サル場合ニ於テ  
 ハ一時警察官署附屬ノ留置場ヘ拘禁シ若ハ留置スル豫定ニ有之候殊ニ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ曩ニ  
 合議ニ及ヒ候通り護送ノ途中留置期限終了スヘキ場合ノ如キ又ハ移送後日ナラス滿期ニ至ル場合ノ如キハ警察官署  
 附屬ノ留置場ニ留置スルチ相當ト思考候尤警察官署附屬ノ留置場ニ懲役囚又ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘  
 禁若ハ留置スルニ於テハ實際作業ヲ課スルコト能ハサル場合多々有之候ヘ共斯ル場合ニ於テ作業ヲ課セサルハ事實  
 上已ムコトヲ得サルモノト謂フノ外ナカルヘシト思考致候次ニ警察官署所屬ノ留置場ニ於テ作業ヲ課シタル場合ノ  
 經費ハ固ヨリ國費ニ屬スヘク又勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ノ留置ニ關スル費用ハ明治三十五年法律第十一號同  
 年司法省令第四號ニ依リ支辨スル筈ニ有之候此段及同答候也

(別紙)

司法省監甲第六八五號 (明治四十一年九月三十日)  
 (監獄局長警保局長宛)

新刑法ニ依リ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ハ明治三十年勅令第四百十五號囚人及刑事被告人押送規則ニ所謂囚人  
 ニ該當スヘク從テ新刑法施行後勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ押送スル場合ハ都テ右勅令ノ規定ニ依ルヘキモノ  
 ト致思考候條爲念此段及通牒候也

●違警罪即決例ニ據リ處分シタル者ノ取扱ニ關スル件

明治四十四年十二月二十五日  
 示令第六二號



違警罪即決例ニ據リ處分シタル者ニ對スル取扱方ニ關シ別紙ノ通り通牒有之候ニ付右様心得フヘシ  
(別紙) (明治四十四年十二月二十一日内務省警第  
四三六九號ノ内警保局長神奈川縣知事宛)

違警罪即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲セシモ即日保證金ヲ差出セシニ依リ留置ヲ解キタル場合ニ於テ其ノ留置ハ縱令  
短時間ナリト雖モ即決例第十三條ノ適用ニ際シテハ之ヲ拘留一日ト計算シ從テ第十一條ニ依リ保證金ヲ以テ本刑ニ  
換フル場合ニ於テモ之ヲ一圓ニ換算スヘキ筋合ノモノニ有之候處往々以上ノ取扱ニ出テサル向有之哉ノ聞エ有之候  
間當該ノ向ヘ御注意置相成度依命此段及通牒候也  
追テ本件ハ司法省トモ打合濟ニ有之候ニ付爲念申添候也

### ● 違警罪即決例ニ依リ處分シタル者ノ取扱ニ關スル件

明治四十五年二月二十二日  
警保收第三四六號保安課長通牒

違警罪即決例ニ依リ處分シタルモノニ對スル取扱方ニ關シ伊勢佐木町警察署ヨリ別紙甲號何出ニ對シ乙號ノ通り指  
令相成候ニ付右御了知相成度候也

甲號 (明治四十五年一月十八日伊發第六一號伊勢佐木署長)

明治四十四年十二月示令第六二號ヲ以テ違警罪即決例ニ依リ處分シタルモノニ對スル取扱心得ヲ示達相成候處左ノ  
疑義ヲ生シ候

- 一、數日ノ拘留ヲ言渡シタル者保證金ヲ差出ササルニヨリ即決例第十條ニヨリ留置シタルニ留置ノ翌日ニ至リ保證  
金ヲ差出ス場合ニ於テ留置ノ初日及ヒ翌日分ニ對シ保證金ヲ控除シ第十三條ノ適用ニ就テハ拘留二日ト計算スヘ  
キヲ將タ留置ノ翌日ハ受刑ノ初日ニアラサルヲ以テ留置ノ即日ノミヲ拘留一日ニ計算シ翌日ハ放免日ト看做シ計  
算ニ加フヘキモノニアラスト解釋シ可然哉
- 二、拘留一日ニ處シタル者保證金ヲ差出ササルニヨリ即決例第十條ニヨリ留置シタルニ留置後即日保證金ヲ差出ス  
場合ニ於テハ示令ノ趣旨ニヨレハ短時間ト雖モ拘留一日ト打算スヘキヲ以テ保證金ヲ納メシメス單ニ申出ノミヲ  
以テ留置ヲ解キ可然哉
- 三、科料ヲ言渡シタル時其ノ金額ヲ假納セサルヲ以テ爲シタル留置及科料ヲ完納セサル爲メナシタル勞役場留置ノ  
場合ニ於テモ拘留保證金計算ノ例ニ準據スヘキモノト心得可然哉

(神奈川警)

(神奈川警)

右至急何分ノ御指示相成候様致度此段相伺候也

乙號 (明治四十五年二月十三日警保收第三四六號)

本月十八日伊發第六一號稟議違警罪即決例ニ依リ處分シタル者ニ對スル取扱疑義ノ件左ノ通り心得ラルヘシ  
一、前段見解ノ通り 二、見解ノ通り 三、見解ノ通り

### ● 違警罪即決處分ニ關スル件

大正四年十二月二十五日  
卯警保收第七一〇一號保安課長通牒

違警罪即決處分ニ關シ別紙ノ通り内務省警保局長ヨリ通牒有之候條右ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也  
別紙

違警罪即決處分ニ關スル件通牒 (大正四年十二月二十三日警保第二五四號ノ内警保局長知事宛)

警察官署ニ於テ違警罪即決例ヲ適用スル場合ハ「拘留若ハ科料」刑ニ該當スルモノノミニ限リ「禁錮若ハ拘留」又ハ  
「罰金若ハ科料」等ノ選擇刑ニ屬スルモノニ付テハ事件ヲ裁判所ニ送致スルノ取扱ニ相成居候コトト存候處多數ノ即  
決官中ニハ右等選擇刑ニ係ルモノニ對シ仍ホ違警罪即決例ヲ適用スル向往々有之失當ノ儀ト存候間周到御注意相成  
度致度候

### ● 違警罪即決例ニ依ル正式裁判申立期間計算方ニ關スル件

大正五年十月三日  
辰警保收第七三七四號

本件ニ關シ檢事局ヨリ別紙通牒寫參考トシテ送付有之候ニ付本通牒ノ趣旨御了知相成度依命此段及通牒候也  
(別紙寫)

檢發第一二九六號 (大正五年九月三十日  
橫濱地方裁判所檢事正)

違警罪即決例ニ關スル司法次官ノ通牒寫御參考トシテ及送付候也

司法省刑甲第七六五號 (大正五年九月二十九日  
司法次官檢事正宛)

違警罪即決例ニ依ル正式裁判ノ申立期間ノ最終日カ休暇ニ當ル場合ハ從來之ナ期間ニ算入スヘキ省議ニ有之候處今  
般右省議ヲ變更シ期間ニ算入セサルコトニ省議決定相成候但シ第十條但書ノ場合ニ於テ留置期間ヲ算入スルニハ留  
置ノ即日ヨリ起算シ其ノ最終日カ休暇ニ當ル場合ト雖モ之カ留置期間ニ算入スル儀ニ候條御承知相成度依命此段及



通牒候也

### ● 違警罪即決例ニ依ル正式裁判申立期間計算方ニ關スル件

大正五年十月二十七日 辰警保收第七八〇〇號  
違警罪即決例第五條ノ期間計算方ニ關シ別紙寫ノ通り通牒有之候條將來右ニ依リ御取扱ヒ相成度依命此段及通牒候也

追テ本件期間計算方ニ就テハ本月三日辰警保收第七三七四號依命通牒ノ次第モ有之候條爲念申添候  
(別紙寫)

違警罪即決例ニ依ル正式裁判申立期間計算方ニ關スル件 (大正五年十月二十四日 內務省警發第九二三號警保局長通牒)  
本件ニ付別紙甲號本縣知事照會ニ對シ乙號ノ通り回答取計置候間將來右ニ依リ御取扱相成様致度候

甲號 (大正五年七月十八日 保第五四二號本縣知事照會)  
違警罪即決例第五條ノ期間計算方ニ關シテハ明治二十九年十二月二日岐阜地方裁判所檢事正ノ請調ニ對スル明治三十年一月八日民刑甲第一號司法大臣訓令及明治四十二年七月七日室蘭區裁判所檢事ノ問合ニ對スル同年七月九日民刑甲第一二六號民刑局長ノ回答ニ依レハ「前者ハ警察署ハ無休暇ノ官署ナルヲ以テ刑事訴訟法第十五條中若シ最終ノ日云以下ノ規定ハ違警罪即決ニ關シテ準用スヘキ場合ナキモノトスト云へ後者ハ正式裁判申立期限ノ終日カ休暇日ト雖モ期限ニ算入スヘキモノトスト」アリテ從來本縣ニ於テハ右ノ趣旨ニ依リ取扱居候處大正五年(レ)第四七三號今年四月十九日宣告大審院ノ判決例ニ依レハ之ト反對ノ解釋ヲ取り須ク刑事訴訟法第十五條ノ規定ニ遵據シ期日ノ初日ヲ算入セサルト共ニ期間ノ末日カ休暇ニ相當スルトキモ亦之ヲ期間ニ算入スヘカラサルモノト解スルヲ正當トスト判決シタリ固ヨリ大審院ノ判決ヲ以テ大臣ノ訓令ヲ變更スヘカラサルハ勿論ノ義ナルモ苟モ最高ノ裁判所ニ於テ斯ル判決ヲ爲セル以上ハ警察官署ニ於ケル實際ノ取扱トシテハ何レニ從フヲ穩當トスヘキヲ豫メ貴官ノ御意見承知致度此段及照會候也

乙號 (大正五年十月二十七日 警發第一五七號 內務保局長回答)  
本年七月十八日付保第五四二號ヲ以テ本件ニ付御照會ノ趣モ有之司法省法務局長ニ對シ意見及問合候處本件期間計算方ノ義從來期間ニ算入スヘキ省議ニ有之候處今般之ヲ變更シ期間ニ算入セサルコトニ省議決定候旨回答有之候間右ニ依リ御取扱相成様致度右申進候也

(神奈川警)

(神奈川警)

### ● 違警罪即決事件ノ正式裁判執行ニ關スル件

大正七年十月十二日 午警保收第一八三七三號  
本件ニ關シ横濱地方裁判所檢事正ヨリ別紙通牒寫參考トシテ送付有之候ニ付本通牒ノ趣旨御了知相成度依命此段及通牒候也

(別紙寫) (大正七年十月七日司法省法務局刑乙第七二四五號司法省法務局長)

違警罪即決事件ノ正式裁判執行ニ付警察署ニ於ケル留置日數及保證金ハ違警罪即決例ノ精神ヲ酌ミ之ヲ本刑ニ換フヘキ先例ニ有之候處今般省議ヲ變更シ其ノ執行ニ付テハ通常裁判ト同様ニ取扱フヘク從ツテ警察署ニ於ケル留置日數及保證金ヲ以テ刑ニ換フルコトヲ得ヌ又受刑者ニ對シテ逮捕狀ヲ發スルコトニ決定相成候條此段及通牒候也

### ● 違警罪即決處分ニ關スル件

大正七年十月三十日 午警保收第一九二五二號  
違警罪即決處分ニ關シ別紙寫ノ通り內務省警保局長ヨリ通牒有之候ニ就テハ將來之カ處分上慎重御注意相成度依命此段及通牒候也

(別紙寫)

內務省司警第五號 (大正七年十月二十八日 警保局長知事宛)

過般各地方ニ起リタル米價暴騰ニ因ル騷擾事件ニ關シ騷擾恐喝ノ罪ノ首魁若クハ助勢者トシテ證據十分ナル事件ニ對シ別紙不起訴處分理由書ノ通り所轄警察官署ハ警察犯處罰令第一條第四號並ニ第二條第十一號ニ該當スルモノトシテ處分ヲ爲シタル結果公訴權消滅ニ歸シ起訴ノ手續ヲ爲ス能ハサルコトト相成タルモノ有之右ハ事案ノ調査徹底セサルノ致處ナルヲ認メラレ將來ニ於ケル即決處分上大ニ考慮ヲ要スヘキコトト思考致候本件ニ付テハ特ニ司法省法務局長ヨリ通牒ノ次第モ有之貴部下ニ對シ慎重處理候條御示達相成度候

追テ右ノ外客年中東京市下谷區西黒門前町二十二番地遠藤徳右衛門ナル者印刷セル誇大廣告ヲ全國ニ配布シ各地ノ購買者ニ對シ不當ノ粗惡品ヲ販賣シタル事件ニ付全國警察署ニ於テ前後百十數回警察犯處罰令第二條第六號ニ依リ即決ノ言渡ヲ受ケ何レモ正式裁判申立ノ結果水戸區裁判所ニ於テ内一件ニ付僅ニ科料五圓ニ處セラレ右判決確定シタル爲メ他ハ連續犯タルノ關係上全部免訴ノ判決相成タル事例モ有之尤モ這回ノ事件トハ相違フモノニ有之候得共如斯連續犯ノ場合ニ於テハ周密取調ノ上關係警察官署ト脈絡ヲ取り全部ヲ一罪トシテ之ニ相應セル科罰ヲ以テ臨ミ取締ノ目的ヲ達スル様併テ御示達相煩度爲御參考申添候  
(別紙寫)



嚴懲恐喝未遂罪(刑法一〇六條二四九條二項)大正七年九月六日不起訴處分  
被告兵庫縣津名郡富島村理髮業笠松富士太郎、同漁業濱口勝太郎、同田中辰藏、同長野寅藏、同物品販賣業南繁藏、  
同志田清吉、同坂部相藏

犯罪事實及理由

被告等ハ大正七年八月米價暴騰シタルヨリ之カ廉賣ヲ要求スル暴民ノ騷擾各地ニ湧起スルアリ又居村ノ對岸地タル  
播州明石ニモ同種ノ暴動發生シタル場合漁夫薄井信藏ハ同月十三日偶然同地ニ至リ一升十八錢ノ相場ニテ白米若干  
ヲ廉賣シ歸リタルヨリ此等一般ノ評判トナリ益々被告等ヲシテ廉賣強要運動ヲ起スヘク刺激セシメタル爲メニ被告  
等ハ他ノ多數ノ者ト共ニ同日午後七時頃ヨリ居村小宇西ノ町或神社附近ニ集合シ其ノ數約二百ニ達シ被告富士太郎  
ハ床机ノ上ニ立テテ現ニ播州明石ニハ一升十八錢ニテ廉賣セル由ナレハ當地ハ二十五錢ニテ廉賣セシメテハ如何就  
テハ交渉委員ヲ選定シ此ノ集會ノ人々ト共ニ米屋ニ押懸ケ廉賣ヲ交渉スルニ若カストノ旨ヲ演說シ會集之ニ和シ被  
告勝太郎ハ富士太郎ヲ交渉員タラシムヘク提議シ同人ヲ交渉員ニ推舉シ同日午後八時頃富士太郎勝太郎辰藏等ハ卒  
先シテ米商田路富士吉方ニ入り他ノ被告ハ群集ト共ニ附近ニ立テ若シ要求ヲ聽カスンハ何時暴行スルヤ圖ラレ  
サルノ氣勢ヲ示シ富士太郎ハ田路ニ對シテ白米一升二十五錢ノ相場ニテ廉賣スヘキ旨ヲ交渉シタルニ田路ハ言ヲ左  
右ニシ容易ニ之ヲ肯セサルヨリ屋外ノ群集ハ何チグツグズスルカ話カ早ク離ラネハヤレト叫ブ者アリ引キ  
出セト云フ者アリ漸ク喧嘩増大シ來リ或ハ電燈ヲ打チ消ス者アリ或ハ麥米油醬油等ノ商品ヲ地上ニ引キ撒ク等ノ暴  
行ヲ演スル者アルニ至リタリ先是田路ハ危害ノ身ニ及ハンコトヲ畏レテ遁去シタルヨリ被告等ハ遂ニ田路ヲシテ白  
米廉賣ノ承諾ヲ爲サシムルニ至ラスシテ其ノ目的ヲ達ケサルモノナリ

然ルニ所轄岩屋警察分署ハ前掲各被告ニ對スル事實ヲ目シテ警察犯處罰令第一條第四號(富士太郎拘留ニ)第二條第  
十一號(繁藏拘留十日)ニ該當スルモノナリト做シ大正七年八月十七日各被告ニ對シ即決處分ニ付シ其ノ處分確定シ  
タルモノニ係ルヲ以テ確定判決ニ因ル公訴權消滅ニ歸シタルモノト同一ナル故ニ起訴ノ手續ヲ爲ササル所以ナリ  
(洲本區裁判所檢事)(以下實例省略)

拘留刑(勞役場留置)ニ關スル件

大正九年六月十日  
申訴刑收第二三六八號刑事課長通牒

違警罪即決例ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シ其ノ刑未タ確定セサル者ヲ警察官署ヨリ監獄ニ押送スルトキハ正式裁判請求  
ノ場合ニ於テ彼此煩雜ヲ來シ不便尠カラサルモノト思料致サレ候條爾今刑ノ確定後監獄ハ押送相成候様致度横濱監  
獄典獄ヨリ照會ノ次第モ有之候ニ付依命此段及通牒候也  
追テ正式裁判申立期間ハ即決言渡ノ翌日ヨリ起算スヘキ義ニ有之候ニ付爲念申添候

〔神奈川警〕

拘留刑(勞役場留置)執行囑託書ニ關スル件

大正十四年八月二十二日  
十四刑收第一一七六三號

横濱刑務所ニ對シ拘留刑又ハ勞役場留置ノ執行方囑託ヲ爲ス場合ニ於ケル囑託書ニ關シ横濱刑務所長ヨリ照會ノ次  
第モ有之候ニ就テハ爾今左記様式ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也  
(左記様式)

發第		拘留刑(勞役場留置)執行囑託書	
執行スヘキ刑	拘留(勞役場留置)	何	日
刑名	刑	職業、氏名、年令	前
確定年月日	大正 年 月 日	科	考
刑期起算日	大正 年 月 日	備	考
通算期間	大正 年 月 日		

右者別紙謄本ノ通即決言渡確定(致候處完納致ササル者ニ有之)候條拘留(勞役場留置)執行相成度及囑託候也

大正 年 月 日

何刑務所長(支所長)殿

神奈川縣何警察(分)署長 官 氏 名

取扱例

- 一、違警罪即決例ニ依リ言渡シタル拘留並ニ科料不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置執行ノ際使用スルモノトス(即決言渡謄本ハ必ス添付スルコト)
  - 一、確定年月日ハ言渡後法定期間ヲ經過シタルモノ、又刑期起算日ハ普通確定年月日ト同日ナルヘキモノ
  - 一、通算期間ハ即決例第九、十條ニ依リ留置シタル日數ヲ第十三條後段ニ基キ記入スヘキモノ
- 以上



### ● 違警罪即決例適用ニ關スル件依命通牒

大正八年十月四日  
内務省警第一一九號警保局長通牒

違警罪即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ留置中保證金ヲ差出シタル者ニ對スル日數ノ計算方並ニ同條ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シタル時期ニ相當スル金額ヲ保證トシテ差出シタル者刑ノ言渡シ確定シタル後直ニ出廷シテ其ノ執行ヲ受ケサル場合ニ於ケル取扱方各府縣區々ニ涉ル點有之候處今後左記ニ依リ御處理相成度候  
追テ本件ハ司法省ト打合濟ニ付申添候

左記

- 一、 違警罪即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ翌日又ハ其ノ以後ニ保證金ヲ差出シタルトキハ假令差出シノ日カ一日ニ滿タサル場合ト雖モ之ヲ一日ニ計算スルコト
- 二、 同條ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シタル時期ニ相當スル金額ヲ保證トシテ差出シタル者刑ノ言渡シ確定シタル後直ニ出廷シテ其ノ執行ヲ受ケサルトキハ此等ノ者ニ對シ拘留執行ヲ強制スルノ方法ヲ講スルコトナク第十一條ニ依リ保證金ヲ没入シ本刑ニ換フルコト

### ● 違警罪事件申告書ニ關スル件

大正十四年九月十八日  
十四刑收第一二七一六號ノ内

警察部各課長 警察官署長 巡查教習所長宛

別紙甲號神奈川警察署長稟請ニ對スル照會ノ結果乙號ノ通ニ横濱地方裁判所檢事正ヨリ回答有之候條此段依命通牒候也

(甲號)

違警罪事件申告書ニ關スル件(大正十四年九月二日發第七八一號)

神奈川署長ヨリ警察部長宛

從來犯罪事件中罰金刑ニ該ルヘキ輕罪事件並違警罪事件ハ舊刑事訴訟法第五十八條ノ規定ニ基キ告發書ノ形式ヲ以テ

〔神奈川署〕

處理シ來レモ大正十三年一月ヨリ新刑事訴訟法實施セラレタル結果從來ノ如キ犯罪申告様式ニ依ル時ハ同法第二百七十四條並司法警察官職務規程第一百一十一條ニ依リ總テ之レヲ檢事ニ送致セサルヘカラサルモノノ如ク解セラル、モ明治十八年九月布告第三十一號違警罪即決例並明治二十六年十一月應訓第一二六號違警罪即決處分手續ハ未ダ改正ノ運ヒニ至ラサルノミナラス新舊法ノ經過時代ニ執ルヘキ何等ノ訓令モ發セラレサル今日直ニ新法ノ趣旨ニ則リ告發書ヲ報告書ト改ムルモ妥當ナラサル點アリ然ニ大正十三年三月二十六日秋田地方裁判所檢事正ノ問合ニ對スル司法省刑事局ノ回答(刑事局刑事第二四二一號ニ依レハ違警罪事件ノ申告ハ總テ報告書ト改ムヘキ旨回答アリタル點ヨリ精フルトキハ新法ハ舊法ニ優ルノ一般法理ニ基キ應訓一二六號ノ違警罪即決處分手續第一條ノ告發云々ノ文字モ自然其ノ意義消滅シタルモノト心得可然様ニモ被存候  
彼上ノ如キ見解ノ下ニ各署區々ノ取扱ニ出ツルハ取扱上考慮ヲ要スヘキ問題ト思料被致候處理方ニ關シ何分ノ御指  
示相煩度此段及稟請候也

(乙號)

違警罪事件申告書ニ關スル件回答(大正十四年九月十日檢發第三一〇一號)

横濱地方裁判所檢事正ヨリ警察部長宛

首題ニ關シ九月十日付刑收第一二七一六號ヲ以テ照會相成候處違警罪即決例ニ依リ處分スヘキ事件ニ付爲ス犯罪ノ申告ハ之ヲ報告書ノ形式ニ於テ爲サシムルヲ適當ト思料致候

### ● 拘留囚假出場ノ手續ニ關スル件

明治四十三年六月十五日  
警保發第八八號保安課長通牒

拘留囚ニ對シ警察官署ニ於テ改檢ノ情アリト認メ假出場ヲ許可シタル違法ノ事例有之候處右ハ刑法第三十條第一項ニ拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得トノ規定アルニ依リ新刑法實施ノ過度時代ニ際シ關係法規ノ講究ニ缺漏アツテ警察官署ノ行政處分ヲ以テ假出場ノ許可ヲ爲シ得ヘシトノ誤解ニ原由セルモノノ如クニ有之候然ルニ右ハ司法大臣ノ職權ニシテ監獄法施行規則第七十三條乃至第七十六條ヲ準用シ明治四十一年九月司法省訓令第七號假出獄及假出場ニ關スル取扱手續ニ準據スヘキモノニ候條御留



意ノ上御措置相成度候

追テ拘留刑ノ執行停止ハ刑事訴訟法第三百十九條及第三百二十條ニ據リ警察署長分署長ニ於テ之カ措置ヲ爲シ得  
ヘキモノニ候ヘ共同法第三百十九條第二項各號ノ事故ニ付テハ慎重ナル御審査ノ上御措置相成候様致度爲念申添  
候

●警察官署附屬ノ留置場ニ在ル受刑者又ハ勞役場留置者ニ對スル假出獄又ハ假出場ノ具申ニ關スル件

大正二年五月二十九日  
司法省監甲第四一〇號監獄局長

典獄宛

典獄ハ警察官署附屬ノ留置場ニ在ル受刑者又ハ勞役場留置者ニ付テモ情狀ニ因リ假出獄又ハ假出場ノ具申ヲ爲シ得  
ヘキ事勿論ナルモ自今右様ノ場合ニ於テハ當該警察官署ノ長亦直接司法大臣ニ對シ假出獄又ハ假出場ノ具申ヲ爲シ  
差支ナキ事ニ決定相成候條右様御承知相成度此段及通牒候也  
追テ右ノ次第貴官ヨリ關係警察官署ニ對シ御傳達相成度候也

●假出獄ヲ許ス場合ニ關スル件

大正二年六月六日  
訓示甲第二號

警察官署附屬ノ留置場ニ在ル受刑者又ハ勞役場留置者ニ對シ假出獄又ハ假出場ヲ許スヘキ事情アリト認ムルトキハ  
當該警察官署ノ長ヨリ直接司法大臣ニ對シ具申スルモ差支ナキ事ニ決定相成候旨ヲ以テ其筋ヨリ通牒有之候條自今  
該手續ヲ爲シタルトキハ其旨本官ニ報告スルト同時ニ橫濱監獄典獄ニ通報スヘシ

●拘留囚名籍様式ニ關スル件

明治三十八年六月三十日  
司法省監甲第五五五號監獄局長通牒

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

監獄ニ於テ執行スル拘留囚名籍ノ様式別紙ノ通り當省大臣ヨリ各監獄ヘ訓令相成候ニ付テハ貴管内警察官署ニ於テ  
執行スル拘留囚ノ名籍モ此ノ様式ニ準シ製作相成候様夫々御課達相成度此段及通牒候也  
(様式ハ留置場監守規則附錄様式ニ示スヲ以テ省略ス)

●拘留囚保證金取扱ニ關スル件

明治四十四年五月十日  
内務部長通牒

逸警罪即決例ニ依ル處分ニ關シ警察署ニ領置セシ拘留保證金ハ本犯正式裁判ヲ求メタル場合取扱方ニ關シ今回其筋  
ニ稟議ノ末實際ノ便宜上保證金ハ訴訟書類ト共ニ當該裁判所ニ移送スルコトニ決定致候條此段及通牒候也

●脚夫配達夫違警罪處分方

明治十三年九月  
布達第四五號

郵便脚夫及電信配達人違警罪ヲ犯セシトキハ該犯人ノ氏名住所ヲ留置其郵便並ニ電信配達濟ノ上追テ呼出シ處分ス  
ヘシ此旨相達候事

●警察犯處罰令

明治四十一年九月二十九日  
內務省令第十六號

改正 大正八年九月內務省令第一七號  
警察犯處罰令

警察犯處罰令

- 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス
- 一 故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅、建造物及船舶内ニ潛伏シタル者
  - 二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者
  - 三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
  - 四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者
- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス



- 一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者
- 二 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 三 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者
- 四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者
- 五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 六 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者
- 八 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者
- 九 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 十 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者
- 前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者
- 十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
- 十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ背セテ混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者
- 十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十 官職、位記、勳章、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ背セサル者
  - 二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
  - 二十三 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨ケヘキ行爲ヲ爲シタル者
  - 二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
  - 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
  - 二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚漬シ若ハ撤去シタル者
  - 二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ背セシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求テ受ケタルニ拘ラス傍聽シテ之ニ應セサル者
  - 二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、濱路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
  - 二十九 他人ノ田野、園圃ニ於テ菓實ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
  - 三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
  - 三十一 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
  - 三十二 他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ボスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者
  - 三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物件ヲ汚漬シタル者
  - 三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者
  - 三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
  - 三十六 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
  - 三十七 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス
- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レガ保存ヲ爲シタル者
  - 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸體シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
  - 三 街路ニ於テ屎尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者



- 四 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
  - 五 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
  - 六 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
  - 七 開業ノ產婆故ナク妊婦、產婦ノ招キニ應セサル者
  - 八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
  - 九 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
  - 十 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ怠リタル者
  - 十一 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
  - 十二 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ曠シ又ハ驚逸セシメタル者
  - 十三 狂犬、狂獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
  - 十四 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
  - 十五 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚漬シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貨家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚漬シ若ハ撤去シタル者
  - 十六 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
  - 十七 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者
- 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 警察犯處罰令第二條第四號中ノ入札ニ關スル件

明治四十二年一月十一日  
警保收第一〇三號保安課長通牒

別紙ノ通り警保局長ヨリ通牒有之候條御參考迄及通牒候也

〔神奈川警〕

別紙(明治四十二年一月六日)  
(内務省四一警甲第五二號)

甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答條御參考迄及通牒也

甲號(明治四十一年十二月十六日)  
(司法省民刑甲第二九六號)

明治四十一年内務省令第十六號警察犯處罰令第二條第四號中ノ「入札」中ニハ民事訴訟法及ヒ競賣法ニ於ケル動不動産ノ競賣ヲモ包含スヘキ義ナルヲ否ヤニ付別紙寫ノ如ク仙臺區裁判所監督判事ヨリ伺出候ニ付テハ一應貴見承知致度若シ同號ノ入札中ニハ前記競賣ハ之ヲ包含セサルモノトノ御意見ニ候ハハ右包含スヘキ様御配慮相成度此段及照會候也

乙號(明治四十二年一月六日)  
(内務省四一警甲第五二號)

客年十二月十六日付民刑甲第二九六號ヲ以テ警察犯處罰令第二條第四號入札ノ規定ニ關シ御照會ノ趣了承右競賣ノ場合ニ於ケル價格表示ハ投票方法ニ依ルトキハ其ノ投票ハ即チ入札ニ外ナラサルヘク隨テ口頭ヲ以テ價格ヲ表示スル場合ハ同令ニ依リ取締ルコト能ハサル見込ニ付御希望ノ點ハ將來機ヲ見テ相當取計ノヘク候條御了知相成度此段及回答候也

### 警察犯處罰令第三條第八號ノ官公署ニ關スル件

明治四十三年一月十九日  
警保收第二三二號保安課長通牒

警察犯處罰令ニ關シ別紙甲號千葉縣知事ノ照會ニ對シ乙號ノ通り回答相成候趣其筋ヨリ通牒有之候ニ付爲御參考別紙照會同覽致候也

別紙

甲號(四十二年十二月十一日)  
(保第七六五四號千葉縣知事)

警察犯處罰令第三條第八號ニ官公署ノ召喚ニ應セサルモノヲ處罰スルノ規定有之候處右公署中ニハ水利組合法ニ據



リ設置シタル普通水利組合ノ如キ公共團體ヲモ包含シ其管理者タル郡長又ハ市町村長カ職務上組合員ヲ召喚シタル場合ニ於テ故ナク之ニ應セサル者アルトキハ同號違反トシテ處罰シ得ル義ニ有之候哉差懸リタル義有之候ニ付至急御意見承知致度候

乙號(四十二年十二月二十四日)  
警甲第四一號警保局長)

本月十一日付保第七六五四號警察犯處罰令適用ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ御意見ノ通り第三條第八號ニ依リ處罰シ得ラルル義ト被存候此段及回答候也

### ●神奈川縣警察犯處罰令

大正八年九月一日  
縣令第七十五號

神奈川縣警察犯處罰令左ノ通定ム

神奈川縣警察犯處罰令

- 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
- 一、法令ノ規定ニ依リ業務トナス者ニ非スシテ利害ノ關係ナキ訴訟事件ニ關與シ若ハ此等ノ鑑定勸誘紹介和解仲裁其ノ他ノ干渉ヲナシ利ヲ圖リタル者
  - 二、故ナク他人ノ金取引紛議等ニ關與シ又ハ濫ニ訴訟其他ノ紛争ヲ惹起セシムヘキ行為ヲ爲シタル者
  - 三、事實ノ有無ヲ問ハス人ノ陰私ニ關シ財産上ノ利益ヲ收受シ若ハ其ノ給付ヲ促シ又ハ此等ノ周旋關與ヲ爲シタル者
  - 四、保險預金ノ加入又ハ債券ノ購買ニ關シ事實ヲ詐リ若ハ誇張シテ勸誘ヲ爲シ又ハ強テ購買加入ヲ求メタル者
  - 五、新聞紙雜誌ニ掲載セシムル目的ヲ以テ人ノ名譽信用ヲ毀損スヘキ不實ノ事項ヲ告知シタル者
  - 六、法令ノ規定ニ依リ人ノ族籍住所職業氏名年齢等ヲ官署ニ届出又ハ帳簿ニ記載スヘキ義務アル者ニ對シ此等ノ事項ヲ詐稱シタル者
  - 七、賭博場ニ同席シタル者
  - 八、住所氏名ノ詳カナラサル者ノ依頼ヲ受ケ若ハ物品ノ處分權ヲ有スル者ナルコトヲ確認セシメ物品ノ買入賣

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 却交換等ノ周旋ヲ爲シタル者
- 九、營業者ノ承諾ナクシテ無錢ニテ遊興、飲食又ハ投宿シタル者
  - 十、濫ニ他人ノ雇傭ニ係ル勞務者ヲ誘出シ又ハ誘出セントシタル者
  - 十一、故ナク他人ノ屋内ヲ觀見シ又ハ人家ノ軒下ニ佇立シタル者
  - 十二、風火水災其ノ他ノ事變ニ際シ日常生活ニ必要ナル物資ノ代價ヲ故ラニ昂騰セシメ又ハ不正ノ手段ニ依リ暴利ヲ圖リタル者
  - 十三、故ナク人ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者
  - 十四、諸興行場、遊覽所ヘ科金ヲ支拂ハスシテ入場シタル者
  - 十五、祭祀婚禮等一般ニ認容セラル、場合ノ外人ノ安眠ヲ妨害スヘキ場所ニ於テ夜間十二時後歌舞音曲其他喧噪ニ涉ル行為ヲ爲シタル者
  - 十六、渡船橋梁其ノ他通行錢ヲ支拂フヘキ場所ニ於テ其ノ料金ヲ出サスシテ通行シタル者
  - 十七、社員會員若ハ寄附金品ノ募集合力喜捨ノ要請物品入場券等ノ配布ニ應セシムル爲メ承諾ナキ他人ノ名義ヲ用ヒタル者
  - 十八、人ノ驚怖若ハ嫌忌スヘキ所爲ヲ爲シタル者
  - 十九、開牛開犬又ハ開鷄ヲ爲シタル者
  - 二十、賭博又ハ富籤ニ類スル行為ヲ爲シタル者
  - 二十一、私ニ神祠佛堂ヲ設ケ衆庶ノ參拜ニ供シタル者
  - 二十二、慈善救濟等ニ名ヲ藉リ物品ノ購買ヲ求メタル者
  - 二十三、家屋其ノ他ノ建造物又ハ引火若ハ燃焼シ易キ物ノ近傍ニ濫ニ火氣アル物ヲ置キ又ハ之ヲ投棄シタル者
  - 二十四、精米ニ白土其ノ他ノ異種物ヲ混入シ又ハ糖卷ヲ爲シ若ハ濕氣ヲ含マシメテ販賣シ又ハ販賣セントシタル者

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

- 一、交通ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ夜間燈火ヲクシテ牛馬ヲ牽引シ又ハ騎行シタル者











依り遺傳ニ付スルコトヲ得

第三條 被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ押送スルモノハ左ノ例ニ依り取扱フヘシ

一 物品ハ押送者ニ託シテ之ヲ押送ス但シ危険ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス

二 貨幣ハ押送者ニ託セス保管金寄託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但シ五圓未満ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ互

ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得

第四條 前條ニ依り送致中ノ貨幣物品ハ押送者ニ託スル場合ニ於テハ押送者ニ爲ス各官署ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セ

サル場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第五條 押送者ノ旅費並ニ囚人及刑事被告人ノ押送費用ハ押送者ニ爲ス各官署ノ區別ニ從ヒ各其ノ經費ヲ以テ支辨ス

但シ他廳府縣ヨリ囚人ノ送還ヲ求メタル場合ニ於テハ其ノ押送費用ハ送還ヲ求メタル廳府縣ノ經費ヨリ支辨ス

集治監ニ於テ執行スヘキ刑ノ確定判決ヲ受ケタル囚人ニ係ル押送費用ハ〔在府縣獄囚徒費〕ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 被押送者ノ宿泊費額ハ警察署又ハ警察分署ニ於テハ留置人ノ例ニ依リ其ノ他ニ宿泊セシムル場合ニ於テハ

内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條 刑事被告人遺傳押送ノ場合ニ於テ警察署長若ハ警察分署長ハ監獄ノ規程ニ從ヒ押送途中ニ必要ナル物品又

ハ飲食物ニ限り自費ヲ以テ之ヲ購求スルコトヲ許シ又親屬故舊ニ之カ差入ヲ許スコトヲ得

第八條 押送途中被押送者死亡シ二十四時間内ニ遺骸ヲ引取人ナキトキハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ假埋葬ヲ

爲スヘシ

假埋葬ノ費用ハ第五條ノ區別ニ從ヒ支辨スヘシ

第九條 本則ハ軍衙間ニ於ケル囚人及刑事被告人ノ押送ニ適用セス

附 則

第十條 本則ヲ施行スル爲必要ナル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

前項ノ細則ニ規定シタルモノノ外押送ニ關シ必要ナル指揮ハ廳府縣長官 警視總監ハ 之ヲ爲スヘシ

第十一條 本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第十二條 明治十五年太政官達第十號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

### ●囚人及刑事被告人押送細則

明治三十年十二月二十七日  
内務省令第三十七號

囚人及刑事被告人押送細則左ノ通り相定ム

囚人及刑事被告人押送細則

第一條 囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ發送官署ニ於テ別記雛形ノ様式ニ從ヒ押送狀ヲ作り被押送者ノ身上ニ

關スル書類其他必要ノ書類ヲ添ヘ被押送者ト共ニ押送官吏ニ交付スヘシ

前項押送ノ場合ニ於テハ押送前若クハ押送ト同時ニ最後ニ交付ヲ受クヘキ官署ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二條 疾病者妊娠者又ハ分娩後一箇月ヲ經過セサル婦女ハ醫師ニ於テ差支ナシト認ムルニ非レハ押送スルコトヲ

得ス

刑事被告人ニシテ醫師ニ於テ押送ニ堪ヘサル者ト認ムルトキハ當該裁判所ニ通知スヘシ

第三條 押送ハ汽車汽船ニ依ルモノ若クハ特別ノ事由アルトキノ外日出前日没後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 押送ヲ爲ス警察署又ハ警察分署ニ於テハ別記雛形ノ押送帳簿ヲ備ヘ押送ニ關スル要項ヲ記載スヘシ

第五條 被押送者ハ汽車又ハ汽船中ニ在ル場合ノ外警察署又ハ警察分署ニ宿泊セシムヘシ

囚人及拘留狀ニ依リ拘留スヘキ刑事被告人ハ監獄署所在地ニ於テハ監獄署ニ宿泊セシムルコトヲ得

前二項ノ場所ニ宿泊セシメ難キ事由アルトキハ其ノ地ノ警察官又ハ市町村長ニ協議シ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第六條 被押送者ヲ警察署又ハ警察分署以外ニ宿泊セシメ又ハ飲食セシムル場合ニ於テハ其ノ費用ハ總テ實費額ニ

依ル但臥具點燈料等宿泊ノ費用ハ一夜金拾錢食費ハ一回金拾錢ヲ超ユルヲ得ス

第七條 刑事被告人押送途中ニ於テ自費ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ警察署長警察分署長ハ必要ノ有

無及其ノ他ノ關係ヲ取糺シ之ヲ許セスヘシ

拘留狀ニ依リ拘留スヘキ刑事被告人ニ對シ前項ノ購求ヲ必要ト認ムルトキハ發送官署ハ豫メ領置金支出方ニ付當

該裁判官ノ允許ヲ受ケ其ノ旨ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第八條 前條ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ其ノ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ認證書ヲ徴スヘシ

第九條 押送中ノ刑事被告人ニ對シ物品又ハ飲食物ノ差入ヲ請フ者アルトキハ第七條ニ準シ之ヲ許セスヘシ



第十條 押送中 被押送者發病シタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ  
 前項ノ場合ニ於テ押送官吏ハ最寄警察官憲兵又ハ市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得又已ムヲ得サル事由アルト  
 キハ被押送者ヲ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スルコトヲ得  
 第十一條 押送中 被押送者死亡シタルトキハ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ  
 汽車汽船中ニ在テ死亡シタルトキハ最初ノ著船地又ハ停車地ノ警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ但已ムヲ得サル  
 場合ニ於テハ其ノ他ノ著船地又ハ停車地ノ警察署警察分署ニ交付スルコトヲ得  
 交付ヲ受ケタル警察署又ハ警察分署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徵シ死亡ノ年月日時場所及病名ヲ本籍市町村長(外國人  
 ナラハ領事)發送官署及最後ノ送付ヲ受ケヘキ官署ニ通知シ尙遺骸ノ下附又ハ假埋葬ノ手續ヲ爲シ第一條記載ノ  
 書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ  
 第十二條 押送中 逃走者アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ其ノ地ノ警察官憲兵及附近ノ各警察署又ハ警察分署ニ通報シ押送  
 官署ハ尙發送官署及最後ニ送付ヲ受ケヘキ官署ニ之ヲ通知シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ  
 第十三條 被押送者ニシテ傳染病流行地ヲ經由シタルトキハ離隔消毒法ヲ行フヘシ  
 附則  
 第十四條 本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス  
 (別記)

押送狀雛形

組番號	押送狀	原籍、族籍
文	耳	寄留地
體格	髭鬚	身分及職業(藝名紳名アルトキハ記入)
髮眉	顔	氏名
目	顔色	年齢
鼻	語訛	罪質、刑名刑期
口	異徴	(刑事被告人ナルトキハ被告事件)
相商		

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

本人ハ、、、(事由ヲ記ス)ニ依リ、、、(地名、官署名)ニ交付スルカ爲押送セシ  
 メ候條可然御取計相成度候也  
 年月日  
 發送官署

發送押送官署名 及主任官吏認印	發送到著日時	押送ノ方法及注 意ス可キ事項	被押送者ノ 身體ノ狀況	押送中ノ行狀	備考
發到	發到				本欄ニハ當該裁判官ノ物品購 求ニ關スル允許其他逃走死亡 等アルニ際シ其旨ヲ記載ス可シ
組番號	送致金品目錄	携有物	保管スル物品	各發送押送官署ノ印	
貨	幣	何々	何々		
出金額	何々購求	何々	何箇		
計金	何々ニ使用	計 何點	計 何點		

記載例

一 數人同時ニ押送ヲ爲ストキハ被押送者ノ員數ト等シキ組番號ヲ付シ其ノ内順次ニ數ヲ付スルモノ  
 トス例ヘハ八人ノ被押送者ニ對シテハ八號ノ一八號ノ二トナスカ如シ押送帳簿ニ於ケル組番號モ  
 亦此例ニ依ル  
 一 發送押送官署名及主任官吏認印ノ欄ニ於テハ典獄支署長警察署長分署長及憲兵隊長屯所長之カ認  
 印ヲ押捺スルモノトス







- 一 老人虚弱者其ノ他歩行ニ耐ヘサル者
  - 二 逃走暴行又ハ劫奪セラル、虞アル者
  - 三 至急押送ヲ要スル者
  - 四 土地ノ状況其ノ他ニ已ムテ得サル事情アル者
- 第八條 共犯ノ刑事被告人ニシテ通謀ノ虞アル場合ハ各別ニ押送スヘシ但シ已ムテ得サル場合ニ於テ同時ニ押送スルトキハ戒護ヲ嚴シシ通謀ノ弊ナカラシムヘシ其ノ宿泊セシムル場合ニ於テモ亦同シ
- 第九條 押送途中ノ休憩ハ豫テ其ノ場所ヲ定メ置キ成ルヘク豫定以外ノ場所ニ休憩セシムヘカラス其ノ飲食用便等ヲ爲ス場合ニ於テモ亦同シ
- 第十條 被押送者ノ戒具ハ手錠又ハ腰繩トス其ノ戒具ヲ用キタルトキハ成ルヘク外形ニ露出セサル様注意スヘシ但シ拘留換刑禁錮ノ囚人又ハ脱離脱管ノ軍人軍屬ハ戒具ヲ用フル限ニ在ラス
- 第十一條 囚人刑事被告人押送途中ニ於テ疾病ニ罹リ押送スル能ハサルトキハ全瘉マテ最寄留置場ニ於テ醫療ヲ加ヘ其ノ旨發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ通知スヘシ
- 傳染病ニ罹リタル者ハ其ノ發見地ニ於テ適法ノ豫防消毒隔離法ヲ施行スヘシ
- 第十二條 押送途中ハ嚴肅ヲ旨トシ無用ノ談話ヲ禁スヘシ
- 第十三條 押送途中ハ面會ヲ許シ又ハ自家親戚其ノ他ノ家宅ニ立寄ラシムヘカラス
- 第十四條 押送者ハ何レノ場合ニ於テモ歩行中押送者ノ左側ニ一步ヲ隔テ付添フヘシ
- 押送者二人以上ナルトキハ被押送者ニ分屬スヘシ
- 第十五條 押送中露谷險路橋梁河海岸等ノ通過又ハ舟車上下ノ際若クハ飲食用便其ノ他自由ヲ望ムトキハ逃走ヲ謀ルノ虞アルモノニ付押送者ハ概ネ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 間道其ノ他逃走ヲ容易ニスヘキ地ヲ通行セサルコト
  - 二 汽車ニ頼ルトキハ鐵道係員ニ告ケ成ルヘク公衆ト前後シテ乗車スルコト
  - 三 乗船ノトキハ船長ニ告ケ成ルヘク乗客ノ雜踏セサル場所ニ座席ヲ占ムルコト
  - 四 歩行ノ際ハ被押送者ヲ道端ニシテ押送者ハ危險ナキ一方ニ附添フコト

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 第十六條 押送中市街ヲ通行スルトキハ成ルヘク衆人雜踏ノ地ヲ避クヘシ
- 第十七條 被押送者ト同時ニ送ルヘキ金品ハ各押送官署ニ於テ現金及物品會計ニ關スル諸規定ニ從ヒ帳簿ニ之ヲ記入シ其ノ授受ハ保管轉換ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十八條 被押送者死亡シタルトキハ細則第十一條第二項ノ手續ヲ爲スノ外死者ノ遺族ニ通知シ二十四時間ヲ過クルモ遺骸ノ下附ヲ申出テサルトキハ其地ノ共葬墓地ニ假埋葬ノ手續ヲ爲スヘシ
- 假埋葬費額ノ制限ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第十九條 押送規則並ニ細則及此ノ取扱手續ハ〔懲治人〕別房留置人ニ對シテモ之ヲ準用スルモノトス

### ● 囚人及刑事被告人ノ押送其他ニ關スル件

明治四十二年八月二十八日  
内務大臣官房丙第六三四號

囚人刑事被告人ノ押送要觀察人及犯罪嫌疑者ノ尾行追跡ニ就キ警部巡查ヲ韓國及關東州租借地ニ出張セシムル場合ハ認可ヲ經ルヲ要セス貴官限リ命令相成可然コトニ決定相成候條依命此段及通牒候也

### ● 刑事被告人移送ニ關スル件

明治四十三年十二月十四日  
警保收第六三四五號保安課長通牒

刑事被告人移送ノ取扱手續ニ關シ司法省監獄局長ヨリ左記寫ノ通り通牒有之候ニ付御了知相成度候也  
左記寫(明治四十三年十二月七日司法省監丙第一三九五號)

刑事被告人ヲ甲監獄ヨリ乙監獄ニ移送スル場合ニ於テ令狀ノ謄本添付方ノ件ニ付明治三十二年六月獄發第二七號ヲ以テ及通牒置候處爾今該謄本ノ添付ハ便宜省略スルモ差支ナキ旨檢事へ御通牒置候條御了知相成度爲念此段及通牒候也

警保發第一四一號(明治四十四年十一月十四日保安課長依命通牒)

兼ニ警視廳各警察管轄區域改正セラレ候ニ付囚人護送引繼ニ關シ照會致候處當分ノ間從來ノ通り愛宕警察署ニ於テ取扱フ趣回答有之候條右御了知相成度候也



### ●軍衙間囚人及刑事被告人押送規則

明治三十二年十月十六日  
勅令第四百五號

陸軍衙間囚人及刑事被告人押送規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍衙間囚人及刑事被告人押送規則

第一條 囚人及刑事被告人ノ押送ハ陸軍ニ於テハ陸軍兵員海軍ニ於テハ海軍兵員憲兵若ハ海軍警査ヲシテ之ヲ爲サシム但シ被押送者在監人ナルトキハ陸軍監獄若ハ海軍監獄看守長看守ヲシテ押送セシムルコトヲ得

第二條 囚人及刑事被告人ヲ押送セントスルトキハ發送官衙ニ於テ押送狀ヲ作り被押送者ニ關スル必要ナル書類ヲ添へ被押送者ト共ニ押送者ニ交付スヘシ  
押送狀ニハ被押送者ノ本籍住所所屬身分氏名年齢、刑名刑期又ハ被告事件人相並著用被服所持品送致貨幣物品書類ノ目錄等ヲ記載スヘシ

押送者ハ押送経路、宿泊、被押送者ノ傷痍疾病暴行其ノ他押送中ニ生シタル重要ナル事項ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第三條 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ハ醫師ニ於テ差支ナシト認ムルニ非サレハ之ヲ押送スルコトヲ得ス

第四條 被押送者ノ所持スル貨幣物品ヲ被押送者ト同時ニ送致スルトキハ左ノ手續ニ依ルヘシ  
一 物品ハ押送者ニ託シテ送致ス但シ危險ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス  
二 貨幣ハ押送者ニ託セス保管金寄託替ノ手續ニ依リ送致ス但シ五圓未満ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亘ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得

前項ニ依リ送致スル貨幣物品ハ押送者ニ託スル場合ニ於テハ押送官衙ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セサル場合ニ於テハ發送官衙ノ保管ニ屬ス

第五條 押送ハ汽車汽船ニ依ルモノ若ハ特別ノ事由アルトキノ外日出前日没後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 押送中宿泊ヲ要スルトキハ被押送者ヲ陸軍監獄若ハ海軍監獄ニ付託シテ宿泊セシメ陸軍監獄若ハ海軍監獄ナキ地ニ於テハ警察署若ハ警察分署ニ付託シテ宿泊セシムヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

前項ノ官署ナキ地ニ於テハ適宜被押送者ノ宿泊ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ憲兵警察官吏及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第七條 押送中傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ押送者ハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ憲兵警察官吏及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第八條 押送中逃走ヲ謀リ又ハ暴行ヲ爲サムトシ其ノ他押送ヲ全クスルコトヲ得サル虞アルトキハ押送者ハ憲兵及警察官吏ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第九條 押送中傷痍疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ押送ヲ停止ヲ要スルトキハ押送者ハ一時被押送者ヲ陸軍監獄若ハ海軍監獄ニ付託シ陸軍監獄若ハ海軍監獄ナキ地ニ於テハ警察署若ハ警察分署ニ付託スルコトヲ得

押送ヲ停止シタルトキハ其ノ旨ヲ押送官衙ニ通知シ指揮ヲ待ツヘシ

第十條 押送中死亡シタルトキハ押送者ハ速ニ其ノ旨ヲ本人所屬ノ官衙發送押送受送ノ各官衙本籍市町村長及近地所在ノ親族ニ通知シ醫師ヨリ死亡證書ヲ發シ死亡後二十四時ヲ經死體引取人ナキトキハ其ノ地ニ於テ假埋葬ヲ爲スヘシ但シ死體引渡及埋葬ニ付本人所屬ノ官衙若ハ押送官衙ヨリ別段ノ指示アリタルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ

前項ノ處分ヲ爲スニ付テハ憲兵警察官吏及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

死體ニ關スル處分ハ之ヲ本人所屬ノ官衙押送官衙及本籍市町村長ニ通知スヘシ此ノ通知ニハ死亡證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第十一條 被押送者ニ屬スル食料其ノ他ノ費用ハ押送官衙ノ負擔トス

第十二條 押送中逃走シタルトキハ押送者ハ直ニ其ノ旨ヲ最寄ノ憲兵屯所警察署警察分署巡査派出所若ハ巡査駐在所ニ急報シ且速ニ發送押送受送ノ各官衙ニ通知シ第二條及第四條ニ記載シタル書類貨幣及物品ヲ押送官衙ニ返付スヘシ

第十三條 被押送者傳染病流行地ヲ經過シタルトキハ離隔消毒法ヲ行フヘシ

第十四條 本令ニ於テ押送官衙ト稱スルハ押送者ノ屬スル官衙ヲ謂フ



● 檢證ノ爲メ囚人護送ノ件

明治十五年六月十三日  
司法省達丁第三十三號

大森院 裁判所

審理ノ都合ニ依リ檢證ノ爲メ囚人召連他所出張候節ハ其地ノ警察官へ護送引致方通知可致尤右護送ニ屬スル費用ハ  
澤テ警察費ヨリ支辨ノ答ニ候條此旨相達候事

● 檢事ニ於テ囚人及刑事被告人ヲ遞傳押送ニ附スル場  
合ノ取扱方ノ件

明治三十四年九月三日  
內務省司法省監丙第五九四號

檢事ニ於テ囚人及刑事被告人ヲ遞傳押送ニ附スル場合ノ取扱方ニ關シ岩手縣ヨリ甲號ノ通り照會有之乙號ノ通り及  
回答置候ニ付右様御取扱相成度此段及通牒候也

(甲號)

收第四九五號(明治三十四年八月十日岩手縣知事照會)

檢事ニ於テ囚人及刑事被告人ヲ遞傳押送ニ附スル場合ハ明治三十一年二月司法省訓令第一號ニ據リ其ノ發送スヘキ  
官署ニ對シ押送方ヲ指揮スル規定ニ有之押送官署ニ於テハ關係書類中必スシモ該檢事ノ指揮書ヲ添付シ來ルヲ必要  
トセス又押送狀中押送ノ事由トシテハ檢事ノ指揮アル旨ヲ明記シアラサルモノト雖モ押送規則並ニ同細則ノ形式ニ  
於テ缺クル所ナキ限リハ之ヲ遞傳押送シ來リ候處甲縣ニ於テハ檢事ノ指揮書其ノモノヲ添付セサルノ理由ヲ以テ遞  
傳ヲ拒絕シ乙縣ニ於テハ檢事ノ指揮書其ノモノニアラサルモ其際本ヲ添付シ若クハ檢事ノ指揮アリタル旨ヲ押送狀  
中ニ記載セサルハ之ヲ拒絕シ丙縣ニ於テハ前記ノ添付又ハ記載ナキモ典獄ハ責任ヲ以テ押送セシムルニ於テハ差支  
ナシトシテ引繼押送スル向モ有之甲乙丙各縣ヲ通過シ來リタルモノニシテ丁縣ニ至リ初メテ遞傳ヲ拒絕セラレル爲  
メ非常ノ差支ヲ生スル事往々有之候條何レヲ以テ適當ノ取扱ト認メ可然哉御意見承知致度右ニ付テハ各縣同一ノ取  
扱ニ出ツル様關係官署へ何分ノ御通牒相煩度併テ及照會候也

(乙號)

司法省監丙第五九四號(明治三十四年九月三日內務省警保局長、司法省監獄局長回答)

(神奈川警)

(神奈川警)

檢事ニ於テ囚人及刑事被告人ヲ遞傳押送ニ附スル場合ノ取扱方ニ關スル件八月十日付收第四九五號ヲ以テ御照會  
ノ趣了承囚人及刑事被告人押送規則第一條ニ規定セル書類中ニハ無論檢事ノ指揮書若クハ其ノ際本ヲ包含スル義ニ  
候得共縱令之レカ添付ナシト雖押送ヲ拒絕スルコト能ハサル義ニ候條右様御承知相成度此段及回答候也  
追テ本文ノ趣ハ各府縣長官集治監典獄へ及通牒置候條御含置相成度此段申添候也

● 受刑者及刑事被告人ヲ臺灣朝鮮關東州及樺太ニ護送  
スル場合ノ取扱方ニ關スル件

明治四十五年六月十二日  
承令第四一號

受刑者及刑事被告人ヲ内地ヨリ臺灣其ノ他へ護送ニ關シ左記ノ通り訓令有之候ニ付左様心得ヘシ  
明治四十年十二月示令第九九號ハ之ヲ廢止ス

(左記)

內務省訓令第一七五號(明治四十五年五月七日)  
內務大臣訓令

明治四十四年勅令第二百六十八號ニ依リ受刑者及刑事被告人ヲ内地ヨリ臺灣、朝鮮、關東州及樺太ニ護送スルニ  
囚人及刑事被告人押送規則ニ依リ之ヲ行ヒ臺灣、朝鮮及關東州ニ護送スヘキ者ハ門司又ハ長崎ニ送致シ福岡縣又ハ  
長崎縣ニ於テハ海路直ニ之ヲ基隆、釜山又ハ大連ニ押送シ樺太ニ押送スヘキ者ハ函館ニ送致シ北海道廳ハ小樽ヨリ  
海路之ヲ大泊ニ著シ結氷ノ爲メ交通不能ノ場合ハ眞岡ニ之ヲ押送スヘシ  
右訓令ス

● 囚人刑事被告人及被疑者押送線路豫定ニ關スル件

大正十三年七月十五日  
十三刑收第八〇四九號

警視廳刑事部長ヨリ首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通照會有之候條御了知相成度依命此段及通牒候也



(別紙)

囚人刑事被告人及被疑者押送線路豫定ニ關スル件 大正十三年七月十一日刑鑑發第二五二號 警視廳刑事部長ヨリ警察部長宛

當廳管内ヨリ他府縣ニ及他府縣ヨリ當廳管内又ハ當廳管内ヲ經テ他府縣ニ傳遞スヘキ囚人刑事被告人及被疑者ノ押送ニ關シ事務簡捷ヲ期スル爲メ今般左記ノ通り改正方管下各警察官署長ニ傳達致置候ニ就テハ當廳管内ニ接壤セル貴縣警察官署ハ右押送ノ接受ニ付影響スル處モ可有之被存候條本文ノ趣旨貴官ヨリ御通達相成候様致度及照會候也

左記

(大正十三年六月二日刑鑑發第二五號長井刑事部長)

囚人及刑事被告人押送手續第二條ノ押送線ハ明治三十一年三月通達第二十二號第一部長通達ニ示サレタル凡例ニヨリ豫定スル様相成居候處今般該通達ヲ廢止シ左記ノ通り相定メ候條自今之ニ則リ迂回セサル方針ノ下ニ押送線路ヲ豫定相成度此段及通達候也

第一、他府縣官署ニ送致スヘキ囚人刑事被告人及被疑者ノ押送ヲ開始スル警察官署ハ其ノ目的地ニ通スル鐵道線最寄ノ停車場所在警察署ニ押送シ其ノ押送ヲ受ケタル警察官署ハ汽車ニテ府下ニ最モ接近セル他縣ノ警察官署ニ押送スルコト

第二、警視廳管下所在ノ官署ニ送致スヘキモノヲ他府縣官署ヨリ受繼キタル警察官署ハ途中警察官署ヲ經由セスシテ直ニ目的官署ニ押送スルコト

第三、警視廳管下所在ノ官署相互間ノ押送ハ直送スルコト

第四、他府縣ヨリ他府縣ニ互ル押送ニシテ遞傳ニ付セラレタルモノヲ受ケ繼キタル警察官署ハ第一項ニ準シ押送スルコト

第五、護送自動車巡回規則ニ依リ押送スル場合ハ前各號ニ依ラサルコト

### ●受刑者及刑事被告人ヲ内地臺灣朝鮮關東州樺太及南洋群島間ニ護送ノ件

大正十四年二月二日 十四刑收第一四二五號刑事課長

首題ノ件ニ關シ大正十四年一月二十八日付内務省訓第三七號ヲ以テ別紙ノ通り訓令相成候條此段及通達候也

[神奈川警]

[神奈川警]

(前紙)

内務省訓第三七號

廳府縣

明治四十四年勅令第二百六十八號ニ依ル受刑者及刑事被告人ヲ内地、臺灣、朝鮮、關東州樺太及南洋群島間ニ護送ノ件自今左記ニ準據シ囚人及刑事被告人押送規則ニ依リ措置スヘシ

一、臺灣關東州南洋群島ニ護送スルモノハ門司ニ押送シ福岡縣ニ於テ臺灣ニ在リテハ基隆關東州ニ在リテハ大連南洋群島ニ在リテハ「サイパン」島ニ押送スヘシ

二、朝鮮ニ護送スルモノハ下ノ關ニ押送シ山口縣ニ於テ之レヲ釜山ニ押送スヘシ

三、樺太ニ護送スルモノハ函館ニ押送シ北海道廳ニ於テ稚内ヨリ之ヲ大泊ニ押送シ結氷ノ爲メ交通不能ノ場合ハ眞岡ニ押送スヘシ

四、臺灣關東州ヨリ護送アリタルモノハ門司ニ於テ之レヲ受ケ福岡縣ニ於テ規定ニ從ヒ押送手續キテ爲スヘシ

五、朝鮮ヨリ護送アリタルモノハ下關ニ於テ之レヲ受ケ山口縣ニ於テ規定ニ從ヒ押送ノ手續ヲ爲スヘシ

六、樺太ヨリ護送アリタルモノハ稚内ニ於テ之ヲ受ケ北海道廳ニ於テ規定ニ從ヒ押送ノ手續ヲ爲スヘシ

七、南洋群島ヨリ護送アリタルモノハ樺濱ニ於テ之ヲ受ケ神奈川縣ニ於テ規定ニ從ヒ押送ノ手續キテ爲スヘシ

大正十四年一月二十八日 内務大臣 若槻禮次郎

### ●囚人及刑事被告人引渡場所變更ニ關スル件

大正十四年九月二十九日 十四警收第九〇二四號刑事課長

壽 加賀町 松田警察署長宛

首題ノ件豫テ警視廳刑事部トノ間ニ於テ協議中ノ處本月二十八日附テ以テ從來ノ引渡場所ヲ東京市芝區高輪警察署ニ變更相成候條關係警察署ヘモ示達済ノ旨警視廳ヨリ回答有之候條左様御了知相成度 追テ本件ハ本通牒到着後即日ヨリ實施相成度

第二編 保安 第九章 司法



### ● 刑事被告人ニ冠物ヲ使用セシムル件

大正十一年四月  
戊警刑收第二一八七號

別紙ノ通り内務省警保局長ヨリ通牒有之候條相當御配慮相成度依命此段及通牒候也  
(別紙)

刑事被告人ニ冠物ヲ使用セシムル件通牒 (大正十一年四月十一日  
内務省祕第二四四號警保局長通牒)

警察官署附屬留置場ニ拘禁スル刑事被告人ニ對シ裁判所其ノ他ノ出入ニ冠物ヲ使用セシメサル向有之哉ニ候處監獄ニ於テハ從來刑事被告人ニ對シ裁判所ニ押送スル場合ニハ勿論監房外ニ出ツル場合ニ於テモ他人ト接觸スル機會ヲ防キ且ツ本人ヲ保護スル爲冠物ヲ使用セシメ居リ候ニ付警察官署附屬留置場ニ拘禁スル刑事被告人ニ對シテモ右ノ趣旨御參酌ノ上相當御措置相成様致度候

### ● 傳染病ニ罹リタル囚人及刑事被告人取扱ノ件通牒

大正四年三月二十三日  
卯警保收第一四四六號

別紙寫ノ通り通牒有之候條右御了知ノ上可然御取扱相成度依命此段及通牒候也  
(別紙寫)

傳染病ニ罹リタル囚人及刑事被告人取扱ノ件通牒 (大正四年三月十六日  
警發第二三號)

本件ニ關シ曩ニ別紙寫ノ通り司法省監獄局長ヨリ回答有之候條爲御參考及通牒候也  
(別紙)

監丙第九九五號 (大正三年十月二十八日  
監獄局長警保局長宛)

警察署留置場ニ拘禁又ハ留置中ノ在監者傳染病ニ罹リ病院へ移送ノ際取扱ノ件ニ付御照會ノ趣了承監獄法執行規則第四百十四條ハ普通平時ニ處スル取扱方ヲ規定セシモノニシテ防疫上寸時モ猶豫シ難キ場合ニハ電報ヲ以テ指揮ヲ仰

(神奈川警)

(神奈川警)

キ又ハ事後追認ヲ求メラレモ妨ケ無之事ト存候此段及回答候也

### ● 警察署分署附屬留置場設置標準

明治三十二年八月十二日  
内務大臣訓第七六一號

- 一 留置場ハ警察署ニ在テハ三房以上警察分署ニ在テハ二房以上ヲ設置スヘシ
- 二 留置場ノ位置ハ警察署警察分署構内ニシテ隣地ヨリノ交通及觀望ヲ遮斷シ且事務所、尋問所、小使部屋、人民控所等ニ於ケル普通ノ音聲ヲ聽取ル能ハサラシムヘキ位置構造ヲ選ムヲ要ス
- 三 女ハ男ト嚴重別異シ幼年者ト成年者トハ可成別異シ得ルノ設備アルヲ要ス
- 四 留置場ノ前面ナル廊下ノ幅ハ六尺以上タルヲ要ス
- 五 留置場ハ可成南位ニ向ハシムルヲ要ス
- 六 留置場ノ分房ハ三疊以上トシ雜居房ヲ設ケルトキハ四疊半以上八疊以下トス
- 七 留置場ノ地盤ハ石疊又ハ漆喰敷ヲ以テ地平面ヨリ高ク築造シ其ノ地盤面ト床トノ間ニハ凡ソ五寸以上一尺以下ノ空虚ヲ置キ空氣ノ流通ヲ良クスヘキ裝置ヲナスヘシ
- 八 留置場ノ天井ハ床上ヨリ一丈以上トシ内面ハ柱ヲ露サス板壁ペンキ塗トシ床ハ板張ト爲スヘシ
- 九 留置場ノ塙壁ハ通聲ヲ防遏スルノ構造ト爲スヘシ
- 十 留置場ノ房戸ハ高サ五尺乃至六尺幅凡二尺五寸ノ外開戸ニシテ錠ヲ付スヘシ
- 十一 留置場ノ鍵ハ各房共通シ得ルモノナルヲ要ス
- 十二 留置場ニハ床ヨリ六尺以上ニ於テ窓ヲ設ケヘシ
- 十三 前項ノ窓ハ縦及横ノ鐵棒格子トシ鐵棒相互ノ間ハ三寸五分以下トシ格子ノ外部ニハ開閉自在ニ硝子障子ヲ付スヘシ其ノ硝子ハ不透明ノモノトス
- 十四 空氣孔ハ適當ノ位置ニ設ケ常ニ空氣ヲ流通交換セシムルヲ要ス
- 十五 留置場ノ視察孔ハ漏斗形ニシテ孔蓋ハ同轉自在ノ圓板ヲ付シ又ハ横開トナシ分房ハ一個雜居房ハ二個ヲ設ケ



- 房内全部ヲ觀望シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ
- 十六 留置場房内側面ノ壁ニハ幅一尺以内ノ腰掛ヲ取付クヘシ
- 十七 危險ノ虞ナキ裝置ヲ以テ房内ヲ照スヘキ點燈器ヲ備フルヲ要ス
- 十八 留置場ニハ便所ヲ設クス別ニ便器ヲ用ユヘキモノトス
- 十九 便器ハ金屬若クハ磁製等不淨物ヲ吸收セサル物質ナルヲ要ス
- 二十 極寒ノ季節必要ナルトキハ暖房ノ設備ヲナシ又ハ湯タンボノ類ヲ用ユヘシ
- 二十一 必要ノ地ニ於テハ留置場ノ外泥酔者其ノ他一時ノ保護ヲ要スルモノノ爲メニ成ルヘク別室ヲ設クヘシ

●警察官署ノ留置場ヲ海軍監獄ニ代用スル場合ニ關スル件

明治四十一年十月一日 内務省警甲第二三號ノ内務省警保局長達

知事宛

今同勅令第二百三十五號ヲ以テ海軍監獄令公布セラレ其ノ第五條ニ於テ警察官署ノ留置場ヲ海軍監獄ニ代用シ得ルコト、相成候處右ハ萬止ムヲ得サル場合ノ外之ヲ使用セサル義ニ有之且留置ノ費用ハ全部海軍ニ於テ負擔スルコトニ相成居候條御了知相成度依命此段及通牒候也

●警察留置場ヲ海軍監獄ニ代用スル場合ニ關スル件

明治四十一年十二月十七日 内務省警甲第三九號ノ内務省警保局長通牒

警察留置場ヲ海軍監獄ニ代用スル場合ニ關シテハ本年十月一日附警甲第二三號ノ内ヲ以テ及通牒置候處尙左記ノ事項御承知相成度依命此段及通牒候也

- 一、警察留置場ニハ押送前ノ一時ノ留置ニ係ル場合ノ外ハ其ノ刑名ノ何タルヲ問ハス海軍監獄ニ押送途中又ハ押送後間モナク其ノ刑期ノ終了スルモノ若クハ身體ノ狀況ニ依リ監獄ニ押送シ得サル者ニ限り拘禁シ他ハ總テ監獄ニ送致執行スルコト

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 二、右留置費額ハ明治三十五年司法省令第四號ニ準シ一人一日ニ付金十五錢ノ割合トシ留置日數ノ計算ハ初日ハ一日ニ計算シ出獄ノ日ハ之ニ算入セサルコト
- 三、右留置ノ費用ハ當該警察官署ヨリ令狀又ハ刑ノ執行ニ關スル文書ヲ發シタル海軍軍法會議ヲ管轄スル長官ノ下ニ屬スル海軍省經理局又ハ海軍經理部ニ要求スルコト

●警察留置場ヲ海軍監獄ニ代用スル場合ニ於ケル留置費用請求方ノ件

明治四十二年一月二十六日 警保收第四五七號保安課長通牒

別紙ノ通り警保局長ヨリ通牒有之候條御了知相成度候  
〔別紙〕(明治四十二年一月十九日警山第八四號ノ内)  
警察留置場ヲ海軍監獄ニ代用スル場合ニ於ケル留置ノ費用ハ當該警察官署ヨリ海軍當局ニ向ヒ要求スヘキコトハ豫テ通牒置候處右費用ハ各地方ノ都合ニ依リ一ヶ月分ツツ取纏メ各地方廳ヨリ要求候モ差支無之コトニ相成候條爲念此段及通牒候也

●廢朝中服役特免等ニ關スル件

大正元年七月三十日 勅令第二號

朕廢朝中服役特免等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
廢朝中ハ囚人ノ服役ヲ特免シ死刑及管刑ノ執行並歌舞音曲ヲ停止ス

附則

本令ハ大正元年七月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

●留置場看守規則

明治三十一年七月十五日 廳訓第百二十一號

警察署警察分署所屬留置場看守規則左ノ通之ヲ定ム

警察署 警察分署



右訓令ス

留置場看守規則

- 第一條 警察署警察分署所屬ノ留置場ニ留置スル刑事被告人又ハ(換刑禁錮)十日以下ノ者及拘留囚ノ看守ハ此ノ規則ニ依ルヘシ但シ監獄署所在地ニ在リテハ(換刑禁錮)及拘留囚人ハ成ルヘク監獄署ニ送致スヘシ
- 第二條 留置場ノ看守擔當員ハ在署巡查ノ内ヨリ署長之ヲ命スヘシ
- 第三條 新ニ入場者アリタルトキハ署長又ハ主任立會ノ上身體被服及所持金品ヲ検査シ刑事被告人ニ在テハ第一號樣式ニ換刑及拘留囚ニ在テハ第二號樣式ニ前三者ノ所持金ハ第三號樣式ニ依リ記入捺印セシメ且金品ハ會計法規ニ依リ管理シ其ノ出場ニ當リ押送ニ附スル者ニ在テハ該規則ニ依リ取扱ヒ裁判所ニ送致シ放還スル者ニ在テハ之ヲ本人ニ下渡シ署名捺印セシムヘシ
- 第四條 留置場ニ於テハ拘留囚及禁錮囚ト刑事被告人竝ニ男女又ハ共犯ヲ區別スヘシ
- 第五條 留置場入口ニハ在場者ノ氏名ヲ記シタル票札ヲ掲グヘシ但シ要犯疑獄其他共犯アルトキハ番號票ヲ以テ區別スヘシ
- 第六條 留置場ノ看守人員ハ在場者ノ多寡所犯ノ輕重ニ因リ適宜増減スヘシ
- 第七條 在場者ニハ左ニ掲グルモノ、外著用又ハ携帯セシムヘカラス
  - 一 衣類
  - 二 三尺帶
  - 三 紐付足袋
  - 四 手巾
  - 五 紙

- 第八條 左ニ掲グル物品ハ在場者ニ貸與スルモノトス但シ布圍敷帳ニシテ其差入ヲ許シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
  - 一 布圍
  - 二 敷帳

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

三 木枕

第九條 留置場ノ看守者ハ一時間一回以上巡視スヘシ

看守者交代ノトキハ在場人員留置場鎖鑰其他ノ器具竝ニ房內異狀ノ有無ヲ點檢スルハ勿論特ニ注意スヘキ事項ハ詳細引繼ヲ爲スヘシ

- 第十條 所屬署長又ハ其ノ代理者ハ一日二回以上留置場ヲ巡視シ其内一回ハ必ス房內ヲ検査スヘシ
- 第十一條 署長又ハ主任ノ指揮アルニアラサレハ在場者ヲ出入セシムルコトヲ得ス
- 第十二條 四十八時間以上在場スル者ハ成ルヘク毎日一時間以内留置場外ニ於テ運動セシムヘシ
- 第十三條 入場者ヲ使用又ハ運動ノ爲メ出場セシムルトキハ看守者ハ必ス附添フヘシ
- 第十四條 留置場ニハ左ノ事項ヲ揭示シ入場者ニハ之ヲ讀聞セ置クヘシ
  - 一 同房者ハ互ニ和順ヲ主トシ謹慎スルコト
  - 二 起居ヲ端正ニシ晝間臥床スヘカラサルコト
  - 三 毎日二回以上房室ヲ掃除スルコト
  - 四 窓壁又ハ其他ノ物件ヲ汚損セサルコト
  - 五 不淨器ノ外ヘハ痰唾ヲ爲スヘカラサルコト
  - 六 晝夜ニ拘ハラステ同房者ト談話又ハ放歌喧噪若クハ高聲ニ誦讀シ又ハ鄰室ト通聲交談ヲ爲サハルコト
  - 七 許可ヲ得サル物品ヲ所持シ或ハ勝負ヲ争ヒ又ハ他人ニ汚辱ヲ被ラシムル如キ所爲ヲ爲サハルコト
  - 八 同房ニ病人アルトキハ之ヲ看守者ニ申告シ交互切實ニ看護スルコト
- 第十五條 在場者ノ請求事項ハ署長又ハ主任ノ指揮ヲ受ケ看守者ニ於テ隨意ニ取捨スルヲ得ス
- 第十六條 在場者疾病ニ罹リタルトキハ署長ハ速ニ醫療ヲ加ヘ病勢ノ模様ニ由リテハ親族ニ通知シ又ハ之レニ引渡スコトヲ得
- 第十七條 在場者傳染病ニ罹リタルトキハ其豫防消毒隔離ハ適法ノ手續ニ依リ處置スヘシ
- 第十八條 刑事被告人ハ左ノ物品ニ限り差入ヲ許可スルコトヲ得但シ同時ニ同一ノ物品差入ヲ願出ル者數人アルトキハ一人一度一品ニ限ルヘシ



- 一 寢具衣服手拭ノ類
  - 二 修身ニ關スル書類
  - 三 用紙
  - 四 飲食物ニシテ酒類草ヲ除キ炊爨ヲ要セサル一人一食ノ量
- 第十九條 差入品ハ差入人ノ面前ニ於テ署長又ハ主任之ヲ検査シ異狀ナキヲ認メタル後ニアラサレハ場内ニ入ル、ヲ得ス
- 第二十條 在場者ノ信書ハ署長又ハ主任ニ於テ檢閲シタルモニアラサレハ授受セシムヘカラス
- 信書ヲ檢閲スルハ先ツ直行願讀シ次ニ斜讀又ハ横讀シ不正不良ノ文意ナキヤ否ヲ詳查スヘシ
- 第二十一條 在場者ニ接見ヲ請フ者アルトキハ事情已ムヲ得サルモノニ限り晝間ニ於テ三十分間以内之ヲ許スコトヲ得
- 接見ノ場合ハ主任又ハ命ヲ受ケタル看守者之レニ立會フヘシ
- 第二十二條 在場者ニ給與スル飲食物ハ其都度看守者ニ於テ検査シ署長ハ時々之ヲ検査スヘシ
- 第二十三條 在場者死亡シタルトキハ囚人ハ〔監獄則施行細則〕ニ據リ刑事被告人ハ押送ニ關スル規定ニ據リ取扱フヘシ
- 前項遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其請取人ヲシテ留置場名簿備考欄ニ署名捺印セシメ又ハ請書ヲ徴シ引渡スヘシ
- 第二十四條 變災ニ遭遇スルトキハ其狀況ニ由リ速ニ避災ノ措置ヲ爲スヘシ其變災甚シク押送ノ途ナキ場合ハ一時解放スルコトヲ得
- 第二十五條 留置場ノ鎖鑰ハ一定ノ場所ニ置キ看守者之ヲ管守スヘシ

第一號様式

刑事被告人名簿用紙			
番 號	罪 名	立會人	取調
		認 印	主任印

〔神奈川警〕

〔神奈川養〕

第二號様式

入 場	月日時	月日時	特 徴	人	鼻	耳	口	髮	背丈	肉	相 色
	朝 晝 夕	朝 晝 夕									
所 持 品	記										
處 分	考 備 果 分										
署 長	主 査										
入 監 年 月 日	入 監 年 月 日	入 監 年 月 日	入 監 年 月 日	入 監 年 月 日	入 監 年 月 日	入 監 年 月 日	入 監 年 月 日	入 監 年 月 日	入 監 年 月 日	入 監 年 月 日	入 監 年 月 日
犯 罪 地	犯 罪 地	犯 罪 地	犯 罪 地	犯 罪 地	犯 罪 地	犯 罪 地	犯 罪 地	犯 罪 地	犯 罪 地	犯 罪 地	犯 罪 地
最 後 住 居 地	最 後 住 居 地	最 後 住 居 地	最 後 住 居 地	最 後 住 居 地	最 後 住 居 地	最 後 住 居 地	最 後 住 居 地	最 後 住 居 地	最 後 住 居 地	最 後 住 居 地	最 後 住 居 地
本 職 業 名	本 職 業 名	本 職 業 名	本 職 業 名	本 職 業 名	本 職 業 名	本 職 業 名	本 職 業 名	本 職 業 名	本 職 業 名	本 職 業 名	本 職 業 名
前 科	前 科	前 科	前 科	前 科	前 科	前 科	前 科	前 科	前 科	前 科	前 科
宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日	宣 告 年 月 日
宣 告 月 日	宣 告 月 日	宣 告 月 日	宣 告 月 日	宣 告 月 日	宣 告 月 日	宣 告 月 日	宣 告 月 日	宣 告 月 日	宣 告 月 日	宣 告 月 日	宣 告 月 日
刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日	刑 期 起 算 日
相 親 及 期 日	相 親 及 期 日	相 親 及 期 日	相 親 及 期 日	相 親 及 期 日	相 親 及 期 日	相 親 及 期 日	相 親 及 期 日	相 親 及 期 日	相 親 及 期 日	相 親 及 期 日	相 親 及 期 日
父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡	父 母 兄 弟 存 亡
結 算 日	結 算 日	結 算 日	結 算 日	結 算 日	結 算 日	結 算 日	結 算 日	結 算 日	結 算 日	結 算 日	結 算 日
時 日	時 日	時 日	時 日	時 日	時 日	時 日	時 日	時 日	時 日	時 日	時 日
治 明	治 明	治 明	治 明	治 明	治 明	治 明	治 明	治 明	治 明	治 明	治 明
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
起 算 日	起 算 日	起 算 日	起 算 日	起 算 日	起 算 日	起 算 日	起 算 日	起 算 日	起 算 日	起 算 日	起 算 日
明 治	明 治	明 治	明 治	明 治	明 治	明 治	明 治	明 治	明 治	明 治	明 治
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
警 察 署	警 察 署	警 察 署	警 察 署	警 察 署	警 察 署	警 察 署	警 察 署	警 察 署	警 察 署	警 察 署	警 察 署
體ノ健康 狀	體ノ健康 狀	體ノ健康 狀	體ノ健康 狀	體ノ健康 狀	體ノ健康 狀	體ノ健康 狀	體ノ健康 狀	體ノ健康 狀	體ノ健康 狀	體ノ健康 狀	體ノ健康 狀







警察(分)署御中

受刑者釋放通知

指教番號	釋放ノ年月日	大正 年 月 日	本出生地
罪名	入監度數及	犯	氏歸出本
刑名刑期	度	度	年 住 生
身體ノ特徴			生 月 日
犯罪ノ常用			日 名 地 地 籍
手段			

記載例

- 一、前科欄ニハ前科ノ罪名及其ノ度數ヲ記載スヘシ  
例ヘハ窃盜三詐欺一トスルカ如シ
- 二、改悛ノ程度欄ニハ兇惡不良若ハ改悛ノ情ナシ又ハ改悛ノ情稍有ルモ適當ノ保護者ナク罪ヲ犯スノ危險アリ等ノ類ヲ記載スヘシ
- 三、犯罪ノ常用手段欄ニハ可成具體的ニ其ノ常用スル手段ヲ詳記スヘシ

刑務所ノ釋放者通知取扱方ノ件

大正十二年六月十八日  
十二刑收第五五四〇號

本件ニ關シ内務省警保局長ヨリ別紙寫ノ通り通牒有之候條爾今刑務所ヨリ當該釋放者ノ通報ヲ受ケシ場合ハ本趣旨ニ依リ視察保護ヲ加フルト共ニ相互ノ連絡ヲ確實ニシ刑事警察上ノ目的ヲ達成スルニ努メラレ度依命此段及通牒候也

追テ出獄者視察ニ關シテハ大正六年十二月二十四日付收第二〇〇一三號保安課長依命通牒ヲ御參照相成度申添候

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

別紙

刑務所ノ釋放者通知取扱方ノ件依命通牒

(大正十二年六月十三日  
内務省發警第六四號警保局長知事宛)

豫防警察上ノ參考ニ資スル目的ヲ以テ全國刑務所ニ於テ行刑ヲ終リ釋放セラレルニ當リ猶改悛ノ情認メ難キ者ニ關シ通報方司法省ニ交渉致居候處今般同省ヨリ別紙ノ通り回答有之候條釋放通知ヲ受ケタル者ニ對シテハ左記要項ニ基キ視察保護ヲ加フルト共ニ相互ニ聯絡ヲ確實ニシテ刑事警察上ノ目的ヲ達成スルコトニ努メラレ候條御配慮相煩度右申進候

左記

- 一、刑事要視察ノ釋放通知取扱方
  - (一) 刑務所ヨリ釋放通知書ヲ受ケタル警察官署ハ該通知書ヲ釋放者歸住地所轄警察官署ニ送付スルコト
  - (二) 釋放者歸住地所轄警察官署ハ刑事要視察人名簿ニ釋放通知書記載事項ヲ記入シタル上刑事要視察人トシテ視察保護ヲ加フルコト
  - (三) 第二項及四ノ場合ニ付亦同シ
  - (四) 釋放者歸住地ニ歸還セサルトキハ原籍地及關係者所在地所轄警察官署等ニ照會シ所在ヲ發見ニ努ムルコト
  - (五) 釋放者ノ所在ヲ發見シタルトキハ其ノ所在地所轄警察官署ニ該名簿ヲ送付スルコト
  - (六) 釋放者ノ所在不明ナルトキハ警察部ニ報告シ警察部ハ關係アル府縣ニ對シ搜查方ノ措置ヲ講スルコト
  - (七) 釋放者刑事要視察人名簿ニ記入後轉出シタルトキハ轉出先所轄警察官署ニ通報スルト共ニ其ノ名簿ノ寫ヲ送付スルコト
  - (八) 刑事要視察人ノ行動ニ付注意ヲ要スル事項ヲ發見シタル時ハ關係警察官署ト聯絡ヲ採リ適當ノ措置ヲ講スルコト
  - (九) 刑事要視察人ノ身分關係ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ再ヒ罪ヲ犯シ檢舉セラレタルトキハ其ノ旨ヲ關係警察官署ニ通報スルコト
  - (十) 刑事要視察人ノ視察方ニ關スル注意
- 二、釋放者中改悛ノ情認メ難キモノハ通例職業的犯人旅行的犯人タルヲ當トスルカ故ニ行刑當局ヨリ其ノ釋放ノ



通知ヲ受ケタルトキハ豫防警察上相當ノ視察ヲ爲スト共ニ之ニ對シ必要ナル保護ヲ加ヘ是等ノ者ヲ社會ニ同  
化シ得ル様指導誘掖ニ努ムルト共ニ若シ再ヒ社會ヲ侵害スル等ノ事實アルニ際シテハ其ノ害惡ノ未タ甚シカ  
ラサルニ先チ之ヲ防制スルコトニ努ムルコト

(二) 視察及保護方ニ就テハ別紙司法次官回答ノ二ノロ及大正六年十二月二十一日内務省司法第三號出獄者視察ニ  
關スル依命通牒ヲ參照スルノ外地方ニ於ケル免因保護事業者ト十分ノ連絡ヲ採ルコト

(三) 上級警察官吏ハ直接視察保護ノ任ニ當ル下級警察官ノ視察方ニ付十分ノ指揮ト監督トヲ加フルコト

受刑者釋放通知書送付ノ件回答

(大正十一年九月二十八日 司法省行刑局行甲第一四二四號司法次官内務次官宛)

大正十一年三月三十日内務省發警第二八號ヲ以テ御照會ニ係ル首題ノ件ハ左記ノ通り實施可致候

(イ) 釋放者中再ヒ罪ヲ犯ス危險性アリテ警察視察ヲ必要トスル者ニ限リ通知シ其ノ他ノ者ニ付テハ通知セサルコ  
ト但シ寫眞ハ目下撮影ノ設備整ハサルヲ以テ交付シ難シ

(ロ) 一般ニ釋放者ノ視察方法ニ付テハ從來往々遺憾ノ點有之例ハハ巡查力制服ニテ釋放者ノ所在ヲ訪問ヲ爲シ又  
ハ他人ノ前ニ於テ刑餘者タルヲ曝露スルコトアリ其ノ結果折角改悛正業ニ從事セルモノヲシテ自暴自棄ニ陷  
ラシムル事例アリ仍テ前項以外ノ釋放者ニ付テハ從來ノ警察ノ方針ヲ改メ本人ノ社會同化ヲ害セサル程度ニ  
於テ間接ニ視察ヲ爲スハ格別表面ヨリ前科者トシテ特別視察ヲ爲ササル様篤ト地方長官ニ對シ調達相成度キ  
コト

假出獄取締細則

明治四十一年九月十日 司法省令第二十五號

假出獄取締細則左ノ通相定ム

假出獄取締細則

第一條 假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ケ

第二條 假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ監獄ハ住居ノ地ニ到著スヘキ日ヲ定メ之ヲ證票ニ記載ス可シ

假出獄ヲ許サレタル者ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日ニ監督警察官署ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受ケ可シ若シ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

旅行數日ニ涉ルトキハ警察官署所在ノ地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ケ可シ

第三條 假出獄ヲ許サレタル者天災、疾病其他ノ事故ニ由リ前條ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其處アルトキ  
ハ遲滞ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ可シ

前項ノ證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ケ可シ

第四條 監獄ノ長證票ヲ交付シタルトキハ其旨ヲ假出獄ヲ許サレタル者ノ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、  
刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事及ヒ監督警察官署ニ通報ス可シ

第五條 假出獄ヲ許サレタル者三日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事由、行先地及ヒ  
旅行日數ヲ届出ツ可シ

第六條 假出獄ヲ許サレタル者住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日  
數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請フ可シ

住居ノ轉移又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ旅券ヲ交付ス可シ但監督警察官署ノ管轄區域  
内ニ住居ヲ轉移スル場合ハ此限ニ在ラス

第七條 住居ノ轉移ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監獄並ニ新ナル住居ノ地ヲ管轄スル  
地方裁判所ノ檢事及ヒ警察官署ニ通報ス可シ

前項ノ場合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察官署ニ送致ス可シ

第八條 假出獄ヲ許サレタル者帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ監督警察  
官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ請フ可シ

監獄警察官署及ヒ監獄ハ事實ヲ調査シ意見ヲ付ス可シ

第六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 假出獄ヲ許サレタル者帝國外ノ旅行ヲ許可セラレタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事ニ通報ス  
可シ

第十條 假出獄ヲ許サレタル者旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滞ナク監督警察官署ニ出  
頭シ旅券ヲ還納ス可シ

第十一條 假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滞ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ届出ツ可シ

假出獄ヲ許サレタル者ノ保護ヲ引受タル者アルトキハ前項ノ届出ニハ連署ヲ要ス



- 第十二條 假出獄ヲ許サレタル者ハ毎月一回監督警察官ニ出頭シテ前條ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ  
旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滞在スルトキハ滞在ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シテ前項ノ申述  
ヲ爲スコシ此場合ニ於テハ其警察官署ハ監督警察官署ニ申述ノ要旨ヲ通報スコシ
- 第十三條 監督警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保タシムル爲メ必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ  
之カ爲メ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得
- 第十四條 監督警察官署ハ六月毎ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及ヒ勉否、生活ノ狀況、親族  
トノ關係其他ノ事項ニ付調査書ヲ作リ之ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通  
報スコシ
- 第十五條 假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ證票ヲ交付シタル監獄ノ長ノ意見ヲ聽キ之ヲ託スルニ適當ナル親族、故  
舊、出獄人保護事業ニ從事スル者、神官、僧侶、教師又ハ德望アル者ニ委任スルコトヲ得
- 第十六條 檢事及ヒ警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲ刑罰法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知りタルトキハ意見ヲ具  
シ司法大臣ニ申報スコシ
- 第十七條 警察官署ノ爲ス申報ハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ヲ經由スコシ
- 第十八條 司法大臣假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所在ノ地若クハ住居ノ地ヲ管轄スル  
地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事又ハ其在監スル監獄ニ通報シテ其執行ヲ爲サシム
- 第十九條 假出獄ヲ取消サレタル者在監者ニ非サルトキハ檢事ハ刑事訴訟法第三百十九條第二項ニ依リ逮捕狀ヲ發  
ス可シ
- 第二十條 第十七條ノ執行ヲ爲シタル檢事又ハ監獄ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監  
獄ニ通報スコシ
- 第二十一條 假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督警察官署ハ之ヲ第四條ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ  
通報スコシ

附則

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

明治四十一年九月十八日  
司法省訓令第七號

改正 明治四十三年二月司法省訓令第四號、大正二二年六月第五號

監獄

- 假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續左ノ通相定ム
- 第一條 假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許スコキ者ノ住所、氏名、年齢、罪名、犯數、刑名、刑期、刑期ノ起算日ニ  
終了日、假出獄條件期間經過ノ日、假出獄ヲ許ス事由、出獄後ニ於ケル保護者ノ住所、氏名、職業、生活ノ狀態  
及ヒ保護者ト本人トノ關係ヲ記載スコシ
- 第二條 不定期刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ刑ノ短期、長期並ニ各其滿了ニ應當スル日ヲ記載スコシ
- 第三條 假出場ノ具申書ニハ假出場ヲ許スコキ者ノ住所、氏名、年齢、罪名、犯數、刑名、刑期若クハ金額、刑期  
ノ起算日及ヒ終了日、假出場ヲ許ス事由ヲ記載スコシ
- 第四條 監獄法施行規則第七十二條ニ依リ假出獄ノ具申書ニ添付スコキ行狀簿ハ身分帳簿乙號行狀簿最近一年六  
月分ノ寫ヲ以テ之ニ充テ、身上調査書類ハ身上票及ヒ公務所其他ノ回答書ニシテ特ニ參考ト爲ル可キモノノ寫ヲ  
以テ之ニ充ツ可シ
- 第五條 刑罰三分ノ一ヲ算出スルニハ左ノ例ニ依リ曆ニ從ヒ計算スコシ  
一 刑期三年以下ニシテ年ノミニ係ルトキハ年ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ  
計算ス
- 二 刑期三年以上ニシテ年ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ其商ヲ得、  
年ノ端數ハ之ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ月ノ商ヲ得、年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算  
ス
- 三 刑期三年以下ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先ツ年ヲ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘテ其和ヲ三分シ因テ得タ  
ル商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス



四 刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ年ノ商ヲ得、年ノ端數ハ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘ其和ヲ三分シテ月ノ商ヲ得、月ノ端數ハ次ノ方法ニ依リ計算ス

(イ) 先ツ刑期起算日ヨリ年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ曆ニ從ヒ計算シ其期間ノ最終日ヲ定ム  
(ロ) 次ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ月ノ端數ヲ曆ニ從ヒ計算シ其期間ニ相當スル日數ヲ算出ス

(ハ) (ロ)號ニ依リ算出シタル日數ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、更ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ日ノ商ニ相當スル期間ヲ計算シ其最終日ヲ定ム但日ノ端數ヲ生スルトキハ商チ一日繰上クルモノトス

五 年ト月ト日トニ跨リ其儘三分スルコト能ハサルトキハ四號(イ)(ロ)ノ例ニ準シ日數ヲ算出シ其算出シタル日數ニ刑期ノ日ヲ加ヘ之ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、四號(ハ)ノ例ニ依リ計算ス

六 月ト日トニ跨リ又ハ日ノミニ保ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ前號ノ例ニ準シ計算ス

七 刑期ニ算入ス可キ日數アルトキハ先ツ全刑期ノ最終日ヨリ過テ算入ス可キ日數ヲ控除シ其殘期ノ三分ノ一ヲ計算ス

第五條 假出獄ノ證票ハ別記第一號書式及ヒ第二號書式ニ依リ之ヲ作成シ假出場ノ證票ハ別記第三號書式ニ依リ之ヲ作成ス可シ

第六條 假出獄又ハ假出場ニ因リ釋放シタルトキハ許可書到達ノ年月日時及ヒ釋放シタル年月日時ヲ司法大臣ニ申報スヘシ

少年法第十一條ノ適用ヲ受ク可キ者ニ付テハ前項ノ外尙ホ同條ニ依リ刑ノ執行終ル可キ日ヲ申報ス可シ

附則 本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十九年司法省訓令第二號假出獄證票ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

(面) 表)

認 察 及 記 査 官 警 事 印	
假出獄證票	府縣郡市區町村審地 (本籍地或ニ假出 獄後住居ノ地)
氏 名	年 月 日 生
罪 名	
刑 名 刑 期	〔明治〕年 月 日ヨリ執行 〔明治〕年 月 日刑期終了
假出獄期間	年 月 日 自〔明治〕年 月 日 〔明治〕年 月 日ニ住居ノ地
ニ 到 著 ス 可 シ	
假出獄ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス	
〔明治〕年 月 日	某監獄 典 獄 氏 名 印

(第一號樣式) (用紙厚紙、紙質適宜)



(面裏)

假出獄者心得事項

- 一 監獄ヨリ指定セラレタル日限ニ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シ此證票ニ認印ヲ受ケ可シ若シ旅行數日ニ涉ルトキハ警察官署所在地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ケ可シ
- 二 天災、疾病其他ノ事故ニヨリ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其虞アルトキハ遲滞ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ可シ此證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ケ可シ
- 三 正義ニ就キ善行ヲ保ツ可シ
- 四 假出獄中ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ケ其指揮命令ニ從フ可シ
- 五 遲滞ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ届出ツ可シ保護者アルトキハ遲滞ヲ要ス
- 六 毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ前項ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ旅行ノ許可ヲ得テ同一ノ場所ニ一月以上滞在スルトキハ滞在ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ對シ此申述ヲ爲スコシ
- 七 三日以上十日未満ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ届出ツ可シ
- 八 住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請ヒ旅券ヲ受ケ可シ第一第二ノ規定ハ此場合ニ之ヲ準用ス
- 九 帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ請フ可シ第八ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス
- 十 旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滞ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納ス可シ
- 右假出獄者心得事項ニ違背シタルトキ又ハ左ニ掲グル事由アルトキハ假出獄ノ處分ヲ取消サルコトアル可シ
- 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ
- 假出獄ノ處分ヲ取消サレタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサルモノトス

〔臺紙三聯〕

〔臺紙三聯〕

(面裏)

少年假釋放證票

府縣那市區町村番地(本籍地並ニ假出) 獄後住居ノ地)

氏名

大正 年 月 日生

刑名 罪名

刑名 刑期

「短期」  
「長期」

大正 年 月 日ヨリ執行

大正 年 月 日 至 大正 年 月 日

假釋放期間 年 月 日

大正 年 月 日ニ住居ノ地ニ到着ス可シ

假釋放ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス

大正 年 月 日

何刑務所長 氏 名

認印

記事及少年保護司又ハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ

(第二聯書式)

(用紙厚紙、紙質適宜)

六寸五分



少年假釋放者心得

- 一、表面に記載セラレタル住居ノ地ニ到着ノ後連帶ナク證券ヲ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ呈示シテ認印ヲ受ケ可シ
- 二、天災、疾病其他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ従フコト能ハサルトキ又ハ其處アルトキハ速ニ其事由ヲ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ開示シテ證券ニ認印ヲ受ケ可シ
- 三、正業ニ就キ善行ヲ保ツ可シ
- 四、假釋放中ハ住居ノ地ノ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ觀察ヲ受ケ其指揮命令ニ従フ可シ
- 五、住居ヲ變更シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ明カニシテ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ許可ヲ受ケ可シ
- 六、外國ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ少年裁判所、少年裁判所ノ管轄區域外ニ於テハ住居ノ地ノ少年刑務所、少年刑務所ナキ地ニ在リテハ住居ノ地ノ普通刑務所ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ受ケ可シ
- 七、旅行地ヨリ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ速ニ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ届出ツ可シ

右心得事項ニ違反シタルトキ又ハ左ニ掲クル事由アルトキハ假釋放處分ヲ取消サルコトアル可シ

- 一、假釋放中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二、假釋放前ニ犯シタル他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三、假釋放中他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

假釋放ノ處分ヲ取消セラレタルトキハ釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサルモノトス

假釋放ヲ許サレタル後其處分ヲ取消サルコトナクシテ表記ノ假釋放期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行終リタルモノトス

〔圖三三三〕

〔圖三三三續〕

(第三號書式) (用紙厚紙、紙質適宜)

罪名 拘留又ハ勞務揚置期間 (明治) 年 月 日ヨリ執行 (明治) 年 月 日滿期 假出場期間 年 月 日自(明治) 年 月 日 假出場ヲ許サレタルヲ以テ此證券ヲ附與ス (明治) 年 月 日 某監獄 典獄 氏 名印	假出場證券 府縣都市區町村審地(本籍地並ニ假出 場後住居ノ地) 氏 名 年 月 日生
--	--

寸 八

寸 五 五

●假出獄取締細則ニ依リ交附スヘキ旅券及證明書雛形

明治四十一年九月三十日  
内務省訓令第九號

東京府  
府縣  
ヲ除ク







第三雜形(帝國外旅行者ニ交附スルモノ) 用紙寸法同上

假出獄者旅券(本旅券ノ效力ハ帝國内ニ限ルモノトス)

府縣郡市區町村番地(本籍地並ニ假出獄後住居ノ地) 族 籍 氏 名 年月日生

刑名刑期

假出獄期間 年 月 日 自(明治) 年 月 日 至(明治) 年 月 日

旅行許可 年 月 日

渡航先 年 月 日

出發港 年 月 日

出發港 年 月 日

(明治) 年 月 日迄ニ(出發港)ニ到着スヘシ

假出獄取締規則第八條ニ依リ此旅券ヲ交附ス

警察署(分署)長 官 氏 名 印

注意事項

一 旅行途中宿泊セントスルトキハ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ケヘシ

一 途中天災疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ虞アルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受テ出發港ニ歸著シタルトキハ警察官署ニ提出スヘシ

一 旅行中同一場所ニ一月以上滞在スルトキハ其ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭スヘシ

一 旅行ヲ止メ又ハ出發港ニ歸著シタルトキハ遲滞ナク此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地警察官署ニ出頭具申スヘシ

〔神奈川県警〕

(面 裏)

認印表	警察署(分署)	同	同	同
	(明治)年月日			
	府縣郡市區町村番地某方ニ宿泊印			

第四雜形

用紙寸法適宜

〔神奈川県警〕

假出獄者滞在證明書

府縣郡市區町村番地(本籍地並ニ假出獄後住居ノ地) 族 籍 氏 名 年月日生

一 滞在此ノ事由

一 滞在此ノ場所

一 滞在此ニ到着シタル 年 月 日

一 滞在期間

假出獄取締規則第三條ニ依リ此ノ證明書ヲ交附ス

年月日

警察署(分署)長 官 氏 名 印

名 印

●假出獄少年取締規則

大正十一年十二月十八日 司法省令第三十二號

假出獄少年取締規則左ノ通相定ム

假出獄少年取締規則

第一條 少年ノ假出獄ニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル

第二條 假出獄ノ許可アリタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第三條 假出獄少年ヲ釋放スル場合ニ於テハ其ノ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司又ハ保護ヲ引受ケタル者ニ本人ヲ引渡スヘシ

第四條 假出獄少年ハ證據ニ記載セラレタル住居ノ地ニ到着ノ日ニ於テ證據ヲ少年保護司ニ呈示シテ認印ヲ受ケヘシ

天災疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサリシトキハ其ノ事由ヲ開示スヘシ

少年保護司前項ノ開示ヲ正當ナリト認メタルトキハ之ヲ證據ニ記載シテ認印ヲ爲スヘシ

第五條 少年保護司假出獄少年ニ付少年法第六條第二項ノ規定ニ依リ保護處分ヲ爲ス必要アリト思料スルトキハ其



- ノ事由ヲ少年審判所ニ申述スヘシ
- 第六條 假出獄少年住居ヲ變更シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行ノ日數ヲ明ニシ少年保護司ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 假出獄少年外國ニ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シ少年審判所ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 少年審判所ハ事實ヲ調査シ意見ヲ附スヘシ
- 第八條 假出獄少年旅行地ヨリ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ速ニ少年保護司ニ届出ツヘシ
- 第九條 假出獄ノ取消アリタルトキハ其ノ執行ヲ爲シタル刑務所ノ長ハ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スヘシ
- 第十條 假出獄少年死亡シタルトキハ少年審判所ハ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報シ且證票ヲ交付シタル刑務所ニ通知スヘシ

附則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
少年審判所ノ管轄區域外ニ於テハ本令ニ定ムル少年審判所又ハ少年保護司ノ事務ハ刑務所又ハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

●假出獄少年取締規則附則第二項ニ依ル保護團體指定

大正十二年二月二十二日  
司法省告示第六號

- 改正 大正十三年一月司法省告示第一號、一四年七月第二七號
- 假出獄少年取締規則附則第二項ニ依リ左記ノ保護團體ヲ指定ス
- 埼玉自警會
- 千葉縣歸性會
- 栃木縣聯合保護會
- 靜岡縣聯合保護會
- 川越就實團
- 茨城縣聯合保護會
- 群馬縣佛教聯合保護會
- 山梨慈善保護會

〔神奈川警〕

- 北郡留慈惠會
- 助成協會
- 奈良縣聯合保護會
- 端正會
- 德島縣助成協會
- 高知慈善協會
- 愛知自啓會
- 岐阜縣保護會
- 富山養得團
- 山口縣聯合保護會
- 鳥取縣給産會
- 鳥根縣授産會
- 長崎縣佛教聯合保護會
- 福岡縣聯合保護會
- 肥後慈惠會
- 鹿兒島縣保護協會
- 沖繩自警會
- 宮城縣佛教治濟會
- 刈田佛教廣濟會
- 山形縣保護聯合會
- 岩手縣聯合保護會
- 青森縣佛教慈惠會
- 札幌大化院
- 長野縣佛教聯合會
- 新潟縣聯合保護會
- 滋賀縣聯合保護協會
- 精華會
- 讚岐修齊會
- 海南救濟會
- 三重縣保護會
- 福井縣福田會
- 廣島縣聯合保護會
- 岡山縣保護聯合會
- 和光會
- 愛媛保護會
- 佐賀縣恒産會
- 大分縣保護會
- 熊本自警協會
- 日州保護會
- 宮城縣聯合保護會
- 能仁會
- 福島縣聯合保護會
- 米澤自警會
- 秋田至仁會
- 北海道授産場
- 函館助成會

〔神奈川警〕



精進慈惠院  
鋼路慈惠會

十勝自警會  
樺太保護會

假出獄少年取締規則附則第二項ニ依リ左記ノ保護團體ヲ指定ス  
旭川保護會

大正十二年七月五日  
司法省告示第十二號

大正十四年七月九日  
司法省告示第二十七號

大正十二年司法省告示第六號中加能慈惠保護場ヲ削除ス  
假出獄少年取締規則附則第二項ニ依リ左記ノ保護團體ヲ指定ス  
石川更新會

### ●海軍監獄ニ在リテ假出獄ヲ許サレタル軍人軍屬等ニシテ其ノ身分ヲ失ヒタル者ニ對スル取締細則

明治四十一年十月一日  
海軍省令第十二號

海軍監獄ニ於テ假出獄ヲ許サレタル軍人軍屬等ニシテ其ノ身分ヲ失ヒタル者ニ對スル取締細則左ノ通定ム  
第一條 海軍監獄令第五十五條第一項ニ記載シタル者ハ其ノ住所地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ケ  
第二條 證票ヲ交付シタル海軍監獄長ハ前條ニ記載シタル者ノ住所地ニ到著スヘキ日ヲ定メ豫メ之ヲ證票ニ記載ス  
本人ハ前項ノ到達日ニ監督警察官署ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受ケヘシ  
旅行日ニ涉リ宿泊ヲ爲スノ必要アルトキハ警察官署所在地ニ宿泊シ其ノ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ケヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第三條 天災疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前條第二項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケヘシ

前項ノ證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ケヘシ

第四條 證票ヲ交付シタル海軍監獄長ハ裁判書及假出獄許可書ノ寫ヲ添ヘ本人ノ假出獄中ナル旨及住所地ニ到達スヘキ日ヲ其ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所檢察事及監督警察官署ニ通報スヘシ

第五條 三日以上十日未満ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ届出ツヘシ

第六條 住所ヲ移轉シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ願書ニ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ニ差出シ許可ヲ請フヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ旅券ノ下附ヲ受ケヘシ但シ監督警察官署ノ管轄區域内ニ住所ヲ移轉スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ願書ニ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シ監督警察官署、證票ヲ交付シタル海軍監獄長及其ノ所管長官ヲ經由シテ海軍大臣ノ許可ヲ請フヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ監督警察官署ニ旅券ノ下附ヲ請フヘシ

第八條 第二條及第三條ノ規定ハ前二條ノ許可ヲ得タル者ニ之ヲ準用ス

第九條 旅行ヲ爲シタル者住所地ニ歸著シタルトキハ遲滞ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納スヘシ

第十條 第一條ニ記載シタル者ハ遲滞ナク職業其ノ他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ監督警察官署ニ届出ツヘシ但シ保護ヲ引受ケタル者アルトキハ其ノ連署ヲ要ス

第十一條 前條ノ事項ニ付テハ毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ其ノ結果ノ申述ヲ爲スヘシ  
旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滞在スルトキハ滞在地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シテ前項ノ申述ヲ爲スヘシ

第十二條 正業ニ就キ善行ヲ保ツ爲メ必要ナル訓示又ハ命令ヲ監督警察官署ヨリ受ケタルトキハ之ニ服従スヘシ

第十三條 假出獄處分ノ取消ヲ受ケタルトキハ證票ヲ交付シタル海軍監獄長ヨリ其ノ旨及取消ノ原因ヲ本人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所檢察事及監督警察官署ニ通報スヘシ

第十四條 假出獄處分ノ取消ヲ受ケタル者普通監獄ニ在監中ナルトキハ證票ヲ交付シタル海軍監獄長ヨリ裁判書及



假出獄取消書ノ寫ヲ其ノ普通監獄ニ送付スヘシ若シ在監セサルトキハ裁判ヲ爲シタル軍法會議ノ海軍檢察官ニ必要ノ書類ヲ送付スヘシ

第十五條 海軍檢察官前條ニ依リ書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ執行ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 假出獄處分ノ取消ヲ受ケタル者ハ證票ヲ還納スヘシ

第十七條 證票ヲ交付シタル海軍監獄長ニ於テ監督警察官署ヨリ本人死亡シタル旨ノ通報ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ具申スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●陸軍監獄ニ在リテ假出獄ヲ許サレタル軍人軍屬等ニシテ其ノ身分喪失者ノ取締ニ關スル件

明治四十一年九月三十日  
陸軍省令第十八號

陸軍監獄ニ在リテ假出獄ヲ許サレタル軍人軍屬等ニシテ其ノ身分ヲ失ヒタル者ノ取締ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 陸軍監獄ニ於テ假出獄ヲ許サレ陸軍監獄令第二條ニ記載シタル身分ヲ失ヒタル者ハ其ノ住所地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ケ

第二條 證票ヲ交付シタル陸軍監獄長ハ前條ニ記載シタル者ノ住所地ニ到着スヘキ日ヲ定メテ豫メ之ヲ證票ニ記載スヘシ

本人ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日ニ監督警察官署ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受ケヘシ若シ旅行日數ニ涉リ宿泊ヲ爲スノ必要アルトキハ警察官署所在ノ地ニ宿泊シ其ノ警察官署ニ出頭シテ認印ヲ受ケヘシ

第三條 天災、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ前條第二項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其ノ處アルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケヘシ

前項ノ證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ケヘシ

第四條 證票ヲ交付シタル陸軍監獄長ハ裁判宣告書及假出獄許可書ノ寫ヲ添ヘ本人ノ假出獄中ナル旨及住所地ニ到

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

著スヘキ日ヲ其ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所檢察事及監督警察官署ニ通報スヘシ

第五條 三日以上十日未満ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ監督警察官署ニ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ届出ツヘシ

第六條 住所ヲ移轉シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ願書ニ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ニ差出シ許可ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ併セテ旅券ノ下付ヲ請フヘシ但シ監督警察官署ノ管轄區域内ニ住所ヲ移轉スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 帝國外ニ旅行ヲ爲サムトスルトキハ願書ニ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シ監督警察官署、證票ヲ交付シタル陸軍監獄長及其ノ所管長官ヲ經由シテ陸軍大臣ノ許可ヲ請フヘシ

前項ノ許可ヲ得タル者ハ監督警察官署ニ旅券ノ下付ヲ請フヘシ

第八條 第二條第二項及第三條ノ規定ハ前二條ノ許可ヲ得タル者ニ之ヲ準用ス

第九條 旅行ヲ爲シタル者ノ住所地ニ歸著シタルトキハ遲滞ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納スヘシ

第十條 第一條ニ記載シタル者ハ遲滞ナク職業其ノ他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ監督警察官署ニ届出ツヘシ但シ保護ヲ引受ケタル者アルトキハ其ノ連署ヲ要ス

第十一條 前條ノ事項ニ付テハ毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ其ノ結果ヲ申述スヘシ

旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滞在スルトキハ滞在在地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シテ前項ノ申述ヲ爲スヘシ

第十二條 正業ニ就キ善行ヲ保ツ爲必要ナル訓示又ハ命令ヲ監督警察官署ヨリ受ケタルトキハ之ニ服従スヘシ

第十三條 假出獄處分ノ取消アリタルトキハ證票ヲ交付シタル陸軍監獄長ヨリ其ノ旨及取消ノ原因ヲ本人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所檢察事及監督警察官署ニ通報スヘシ

第十四條 假出獄處分ノ取消ヲ受ケタル者普通監獄ニ在監中ナルトキハ證票ヲ交付シタル陸軍監獄長ヨリ裁判宣告書及假出獄取消書ノ寫ヲ其ノ普通監獄ニ送付スヘシ若シ在監セサルトキハ裁判宣告書ヲ爲シタル軍法會議ノ理事ニ必要ノ書類ヲ送付スヘシ

第十五條 理事前條ニ依リ書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ逮捕ノ手續ヲ爲スヘシ



捕ニ就キタルトキハ理事ハ關係書類ヲ添ヘ本人ヲ其ノ地ノ陸軍監獄ニ送付スヘシ  
 監獄長其ノ送付ヲ受ケタルトキハ關係書類ヲ添ヘ本人ヲ最近ノ普通監獄ニ送付スヘシ  
 第十六條 假出獄處分ノ取消ヲ受ケタル者ハ證據ヲ還納スヘシ  
 第十七條 證據ヲ交付シタル陸軍監獄長ニ於テ監督警察官署ヨリ本人死亡シタル旨ノ通報ヲ受ケタルトキハ其ノ旨  
 ナ所管長官ヲ經テ陸軍大臣ニ申報スヘシ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸海軍監獄ニ於テ假出獄ヲ許サレタル軍人軍屬等ニ  
 シテ其ノ身分喪失者ノ取締ニ關スル取扱手續

明治四十一年十月十三日  
訓第二〇八號

陸海軍監獄ニ於テ假出獄ヲ許サレ陸軍監獄令第二條又ハ海軍監獄令第二條ニ記載シタル身分ヲ失ヒタル者ノ取締ニ  
 關スル取扱手續左ノ通り之ヲ定ム

- 第一條 陸海軍監獄ニ於テ假出獄ヲ許サレ陸軍監獄令第二條又ハ海軍監獄令第二條ニ記載シタル身分ヲ失ヒタル者  
 ハ其ノ住所地方管轄スル警察官署ニ於テ之ヲ監督スヘシ
- 第二條 監督警察官署ニ於テ住所ノ移轉又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ旅券ヲ交付スヘシ  
 但シ其ノ警察官署區域内ニ於ケル移轉ノ場合ハ此ノ限リニ在ラス
- 第三條 監督警察官署ニ於テ旅券ヲ交付シタルトキハ移轉又ハ旅行ヲ許可シタルコトヲ證據ヲ交付シタル陸海  
 軍ノ監獄長、所轄地方裁判所檢察事及移轉地方管轄スル地方裁判所檢察事ニ通報スヘシ
- 前項移轉ノ場合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察官署ニ送致スヘシ
- 第四條 帝國外ニ旅行ノ許可ヲ請フ者アルトキハ監督警察官署ニ於テ事實ヲ調査シ意見ヲ付シ證據ヲ交付シタル陸

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

海軍人ノ監獄長ニ申請書ヲ回付スヘシ

第五條 監督警察官署ノ管轄地外ニ在ル者ニ對シテハ所在地ノ警察官署ニ於テ注意シ取締上必要ノ事項ハ之ヲ監督  
 警察官署ニ通報スヘシ

第六條 監督警察官署ハ本人ノ申請ニ依リ證據ニ認印シ又ハ證明書ヲ交付スヘシ  
 前項證據ハ本人ノ申請ニ依リ證據ニ認印シ又ハ證明書ヲ交付スヘシ  
 コトヲ得

第七條 監督警察官署ハ六月毎ニ本人ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及勉否、生活ノ狀況、親族トノ關係其ノ他ノ事項  
 ニ付調査書ヲ作り之ヲ證據ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長及管轄地方裁判所檢察事ニ通報スヘシ

第八條 監督警察官署ニ於テハ本人ノ監督ヲ適當ナル親族、故舊、出獄人保護事業ニ從事スル者、神官、僧侶、教  
 師又ハ徳望アル者ニ委任スルコトヲ得

第九條 警察官署ニ於テ本人刑法第二十九條第一項ニ該當スルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ所轄地方裁判所檢  
 事及證據ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長ヲ經由シテ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ申報スヘシ

第十條 本人死亡シタルトキハ監督警察官署ハ證據ヲ交付シタル陸海軍ノ監獄長及所轄地方裁判所檢察事ニ通報スヘ  
 シ

第十一條 本規定ニ依リ交付スヘキ旅券及證明書ハ明治四十一年九月内務省訓令第九號假出獄取扱細則ニ依リ交付  
 スヘキ旅券及證明書ノ雛形ニ準スヘシ

第十二條 證據ヲ交付シタル監獄長ハ海軍ニ在リテハ證據ニ關スル記載ヲ爲シタル監獄長トス

●假出獄人取締方ノ件

明治四十一年十月二十三日、  
示令第八〇號

假出獄人取締方ニ付テハ本年九月司法省令第二十五號假出獄取締細則同年十月本縣訓第二百八號陸海軍監獄ニ於テ  
 假出獄ヲ許サレタル者ノ取締ニ關スル取扱手續ヲ以テ規定セラレタル處右ハ舊取締方ノ如ク酒宴遊興ノ席ニ會シ又  
 ハ群集ノ場所ニ參會スルノ禁ヲ設ケス其ノ旅行移轉又ハ警察官署ニ出頭スヘキ處數等ニ對シテモ大ニ之ヲ制限テ寬







明治四十二年一月二十二日  
檢發第一六五號

假出獄處分ノ取消ニ付テハ刑期終了前ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルハ勿論ノ義ニ有之從テ其ノ申報ヲ爲スニ當リテモ可成速ニ之レカ取計ヲ爲スヘキ筈ニ候處往々其ノ前申報ヲ爲スノ餘地アルニモ不拘刑期切迫ノ際ニ至リテ其ノ申報ヲ爲シ遂ニ取消處分ノ終了前ニ於テ刑期終了前ニ於テ刑期終了スル爲メ取消ヲ爲スノ途ナキニ至ラシムル向モ有之趣ヲ以テ其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之如斯ハ取扱上不都合ノ儀ニ付キ警察官署ニ於テモ右様ノ儀無之様前以テ十分注意相成度此段及照會候也

### ● 出獄人保護規程

大正元年九月三十日  
訓令第十號

郡役所 市役所 警察署 同分署 町村役場

出獄人保護規程左ノ通定ム

出獄人保護規程

- 第一條 警察官署長又ハ市町村長ニ於テ監獄法施行規則第六十九條ノ規定ニ依リ通報ヲ受ケタルトキ若ハ出獄人中保護ノ必要アリト認ムルモノアルトキハ本規程ニ依リ之ヲ保護スヘシ
- 第二條 市町村長ハ出獄人ノ父兄、親戚、故舊ヲ指定シ若ハ各種救濟事業、矯風團體、青年會、寺院、教會、教育家、其ノ他篤志者等ニ囑託シ出獄人保護教導ノ任ニ當ラシムルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ保護者ヲシテ隔月一回被保護者ノ生活狀態及改悔情況等ニ關スル通告ヲ爲サシムヘシ
- 第三條 市町村長ハ常ニ被保護者ノ行狀生活狀態ニ注意シ若シ必要アル場合ハ之ニ戒飭ヲ加フルハ勿論、居所周旋、生業扶助、職業紹介等ニ關シテハ特ニ相當ノ便宜ヲ計ルヘシ
- 第四條 警察官署長ハ市町村長ニ於テ第二條及第三條ノ規定ニ依リ保護戒飭紹介等ヲ爲ス場合ニハ之ニ助力スヘシ
- 第五條 市町村長又ハ保護監督ノ囑託ヲ受ケタル者ハ被保護者ニシテ作業賞與金又ハ領置金ヲ有スル者アルトキハ必要ナル支出ヲ除ク外之ヲ貯金セシメ以テ濫費ヲ制スルコトニ努ムヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 前項ノ貯金通帳ハ本人ノ同意ヲ得テ市町村長又ハ保護者ニ於テ之ヲ保管スヘシ
- 第六條 市町村長又ハ保護者ハ被保護者ヨリ前條ノ貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ其ノ用途ヲ取調ヘ已ムヲ得サルモノト認ムルニアラサレハ其ノ請求ニ應スルコトヲ得ス
- 第七條 警察官署長及市町村長ハ被保護者ノ身上ニ關シ必要ト認メタル事項ハ互ニ之ヲ通報スヘシ
- 第八條 市町村長ハ被保護者名簿ヲ調製シ保護ニ關スル事項ヲ記入スヘシ
- 第九條 市町村長ハ被保護者中將來保護ヲ要セスト認ムルニ至リタル者ニ對シテハ警察官署長ト協議ノ上其ノ保護ヲ解止スルコトヲ得
- 第十條 市町村長ハ被保護者ニシテ他ノ市町村ニ轉住シタルモノアルトキハ保護名簿ノ謄本及第五條第二項ニヨル保管ノ貯金通帳ヲ轉住地ノ市町村長ニ送付スヘシ
- 第十一條 被保護者中行狀不良ニシテ改悔ノ實ナキ者アルトキハ之ヲ典獄ニ通報シ改過遷善ニツキ其ノ援助ヲ求ムヘシ
- 第十二條 郡長ハ出獄人ノ保護ニ關シ町村長ヲ監督スヘシ
- 第十三條 市町村長ハ出獄人保護成績ニ關シ毎年六月十二月末日調査ヲ以テ翌月十五日迄ニ其ノ成績ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第十四條 他府縣ヨリ轉入シタル出獄人ニ關シテハ本規程ヲ準用ス

### ● 出獄人保護成績報告ノ件

大正三年十二月二十五日  
訓令第五十四號

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

大正元年九月神奈川縣訓令第十號出獄人保護規程第十三條ニ依ル報告様式ハ左ノ通之ヲ定ム

出獄人保護成績報告

〔何年何月末日調〕

(用紙美濃紙形)  
市、町、村 名



備考	出獄後ノ生活、状態	入獄前ノ生活、状態	罪		犯		業職		所住		出獄年月日		年	家	族	被保護者氏名	
			刑罰	犯數	罪名	犯地	出獄後	入獄前	出獄後	入獄前	出獄後	入獄前	出獄後	入獄前	出獄後	戸主トノ續柄	家族數
履	學事	他其	性	入	出	行	狀	指名又ハ囑託ノ保護者氏名	氏助	氏力	保	保	保	保	保	保	保

●要視察人取扱規程

明治四十一年十月六日  
内訓第六號

改正 明治四十四年三月内訓第三號

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第一條 本規程ニ於テ要視察人ト稱スルハ左ニ列記スルモノヲ謂フ

- 一 假出獄者及刑ノ執行猶豫者
  - 二 禁錮又ハ懲役ノ刑ヲ受ケタル者
  - 三 犯罪常習者
  - 四 微罪不檢舉ニ付シタル者
  - 五 感化院ヨリ退院シタル者及適當ノ親權者アリタル爲メ感化院ニ入院セシメサル者
  - 六 舉動不審者
  - 七 無産無職者
  - 八 其ノ他惡評アリ視察ヲ要スト認ムル者
- 第二條 要視察人ハ毎月二回以上各管區巡查ヲシテ視察セシメ左記様式ノ名簿ヲ調製シ一ハ各管區巡查之ヲ保存シ一ハ臺帳トシテ警察官署ニ備ヘ置キ視察上異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度訂正スヘシ
- 第三條 要視察人ハ概ネ左ノ各號ニ準據シ視察セシメ名簿事項ノ記入訂正ヲナスヘシ
- 一 出生及成育別(嫡出子、庶子、私生兒、實父母、繼父母、又ハ他人ノ子ニ育チタルモノノ別)
  - 二 教育ノ程度若ハ有無
  - 三 性質及行狀
  - 四 資産ノ概要若ハ有無
  - 五 現在職業ノ有無及其職業ヲ誠實ニ勉勵セルヤ否ヤ又ハ過去ニ於ケル職業ノ廢止變更ノ事由
  - 六 生活ノ方法及狀態
  - 七 平素ノ嗜好特ニ酒量及酒癖ノ有無
  - 八 通稱綽號藝名及綽號ノ原因
  - 九 幼時家庭ノ狀況
  - 十 現時家庭一般狀況
  - 十一 精神病及系統病ノ有無



十二 本人ノ稱揚スヘキ行為ノ有無

第四條 參考トシテ視察記入スヘキ事項ハ概テ左ノ各號ニ準據セシムヘシ

一 不就學又ハ中途退學ノ事由

二 健康ノ狀態

三 兵役(入營)ノ有無及入營中罪ヲ犯シタルコトナキヤ否)

四 本人ノ父兄其他親族ニ對スル平素ノ行為及父兄ノ本人ニ對スル待遇

五 血族者犯罪ノ有無

六 交際ノ狀況

七 友人ノ行狀及犯罪ノ有無

八 其他參考トナルヘキ事項特ニ賭博者ニアリテハ左ノ事項ヲモ記入セシムヘシ

一 賭博者トシテノ地位(親分乾分ノ區別)

二 乾分ノ數

三 繩張ノ區域

四 常習ノ事實(例之賭博ヨリ得タル金錢ノ使途親分トノ利益分配ノ方法)

第五條 要視察人轉居シタルトキハ管ノ内外ヲ問ハス其ノ名簿ヲ轉居先警察官署ニ送致シ管區巡查保存ノ分ハ之ヲ

察帳ノ附屬簿トシテ保存スヘシ其轉居先不明又ハ逃亡ニ係ル者其ノ他相當ノ事由アリテ視察ノ必要ナキニ至リタ

ル者ハ其ノ年月日事由ヲ名簿欄外ニ記入シ附屬簿ニ編綴保存シ死亡ノ際ハ察帳ヨリ削除スヘシ

第六條 要視察人ヲ刑事訴訟ニ附シタル場合ハ警察署長(分署長故障アルトキハ代理官)ハ司法警察官ノ資格ニ於テ

其ノ名簿ノ記載ヲ材料トシ別紙様式ノ素行調査ヲ作成シ一件記録ニ添付シ其ノ名簿ノ欄外ニ送致ノ年月日罪名裁

判ノ結果ヲ記入シ附屬簿ニ編綴保存シ置クヘシ所轄外ニ住スルモノヲ送致スル場合ハ要視察人ナルヤ否ヤ並ニ刑

ノ量定ニ關シ必要ナル事項ヲ送致セシ檢事局ヘ通知チナサシムル様照會ヲ發シ置クヘシ

第七條 管區巡查要視察人ノ視察ハ現行戸口調査規則丙種者ノ調査方法ニ準據シ尙一層周密ナラシムヘシ

第八條 本名簿ヲ來ル十二月中完成シ同月末日第一條各號別ニ其ノ數ヲ警察部長ニ報告シ爾後六月十二月ノ末日現

在數其ノ他ヲ左記報告様式ニ依リ翌月十日迄ニ警察部長ニ報告スヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第九條 要視察人察帳ハ各管區巡查保存ノ名簿ト三ヶ月毎ニ對照シ交互異同ナキコトヲ期スヘシ  
名簿様式 (用紙半紙)

視察ニ付シタル理由	所職業氏名年齢
略歴	家
性	精神病者有無
品	統病ノ有無
業	生活ノ有無
政治思想ノ有無	嗜好
前科者假出獄及刑ノ執行猶豫者ノ罪名刑期	通稱、綽號、藝名
徵罪處分アラハ其罪名感化院ヨリ退院シタル者及適當ノ親權者アリタル爲メ感化院ニ入院セシメサル者	墮落ノ原因
	家族同居者ノ數
	其ノ續柄關係職
	業ヲ別ニスル者
	アレハ續柄氏名
	職業

報告様式 (用紙半紙半裁)



番 號 要視察人統計表 (年月日現在) 何警察署警察分署 數

種別	第一條ノ各號別	本 期 末 現 在 數	本 期 行 衛 不 明 逃 異 動 數			
			訴 追	行 衛 不 明	逃	亡 改 殺 削 除
第 一 號	第 一 號					
第 二 號	第 二 號					
第 三 號	第 三 號					
第 四 號	第 四 號					
第 五 號	第 五 號					
第 六 號	第 六 號					
第 七 號	第 七 號					
第 八 號	第 八 號					
計						

●要視察人取扱規程發布ニ關スル件

明治四十一年十月六日 内示第九號警察署同分署

今回内訓第六號ヲ以テ要視察人取扱規程發布相成候處右ハ改正刑法實施後ニ於テハ刑ノ量定上犯人ノ品性平素ノ行狀家庭ノ狀況等ハ有力ナル根據ト相成ルヘク從テ當時ニ於テ是等ノ狀態ヲ知悉シ置クハ尤モ緊要ニシテ犯罪常習ノ虞アル者其ノ他平素視察ヲ要スル者ニ對シテハ警察官署ニ一定ノ臺帳ヲ備ヘシメ可出來丈詳細ナル資料ノ蒐集ニ努メ取締上ノ便ニ供スルハ勿論刑ノ量定ニ資スルノ措置ヲ講シ置クヘキ旨其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之旁右發布セラレタル義ニ有之依テ名簿記入事項ハ散漫ナル文字ヲ以テ概括セス能フ限リ其ノ要ヲ悉シ刑訴追ニ付スル場合ニ於テ刑ノ量定上尤モ具體的ナル資料ヲ提供スヘク又犯人ノ性質罪狀ノ如何其他周圍ノ關係事情等ノ一様ナラサル結果名簿記入事項モ亦租密厚薄ノ度一律ナル能ハス從テ記載欄ノ廣狹ニ拘束セラレル場合ハ附箋又ハ別紙ヲ以テ之ヲ補足スル等ノ方法ニヨリ執法官ヲシテ満足ニ希望ヲ達セシムル様周ク部下ニ訓諭シ其ノ視察ヲ周密ナラシメ時々之ヲ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

監査シ規程發布ノ要旨ニ副フコトニ深ク注意セラレヘシ

●要視察人取扱ニ關スル件

明治四十二年三月十九日 警保收第一六五七號保安課長通牒

明治四十一年内訓第六號要視察人取扱規程第五條ニ依リ要視察人轉居ノ際ハ其ノ名簿ヲ轉居先警察官署ニ送致ノ規定ニ有之候處臺灣ニ移住又ハ旅行ヲシタル者ハ同總督府警察本署へ通報方其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之自今要視察人ニシテ同島へ移住ノ場合ハ名簿ヲ送付シ旅行ヲナシタル者アルトキハ視察ヲ要スル事項ヲ通報相成度候

第四節 雜

●執達吏ヨリ立會要求アリタル場合ノ件

明治二十五年三月 令第六四號

民事訴訟法第五百三十七條ニ依リ執達吏ヨリ立會ノ要求ヲ駐在所派出所巡査ニ爲シタルトキハ直ニ之ニ應スヘキ旨豫メ訓示シ置カルヘシ

●民事及商事ノ非訟事件ニ關シ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ過料事件認知ノ場合ニ於ケル措置方ノ件

明治四十五年五月十四日 内務省警第二一八三號ノ内務保局長依命通牒

非訟事件手續法第二百六條ニ依リ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ過料事件通知方ニ關シ左記ノ通り司法大臣ヨリ照會有之候條相當御措置相成度依命此段及通牒候也

(左記)

司法省民事第五八五號(明治四十五年五月二日司法大臣ヨリ内務大臣宛)  
從來民事及商事ノ非訟事件ニ關シ過料ニ處スヘキ事件續發シツツアルヘシト信スヘキ理由アルニ關セス裁判所ニ請



東若クハ通知ヲ爲ササルカ爲實際適當ノ處理ヲ施スニ由ナク遺憾ナカラ此種規定ヲ空文死法トシテ埋了シ來リタル現況ニシテ斯ノ如キハ過料規定ヲ設クタル本旨ヲ全然没却スルハ勿論延テ一般法規ノ威信ヲ減損スルノ傾向隨件スルノ虞ナキニアラス就テハ將來貴省及貴省所管ノ官廳ニ於テ官吏カ其ノ職務上民事及商事ノ非訟事件ニ關シ非訟事件手續法第二百六條ノ規定ニ依リテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ過料事件アルコトヲ認知シタルトキハ其ノ都度管轄地方裁判所長ヘ通知セシメラレ候様御取計相成度右ハ全國地方裁判所長ノ建議ノ次第モ有之候ニ付此段及照會候也

追テ通知ニ依リ過料事件ヲ認知シタルハトテ固ヨリ必罰主義ヲ主張セムトニハアラス諸多ノ關係ヲ商量斟酌シ取捨加減實際ノ必要ニ適應スル處分ヲ爲スヘキ趣旨ニ有之候爲念此段申添候也  
(參照)

非訟事件手續法

第二百六條、民法第八十四條、第一千七百七條及民法施行法第二十、條及商法第十八條第二項、第二百六十一條、第二百六十二條、第五百三十六條及商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條、第九十五條第三項ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラレヘキ者ノ住所ノ地方裁判所ノ管轄トス

● 事故發生通牒方ノ件依頼

大正五年九月十九日  
橫憲兵警第七〇八號橫濱憲兵分隊

各警察官署長宛

爾今左記事項發生ノ場合ハ御面倒乍ラ其概要通牒方及御依頼候也

左記

- 一、現役軍人ノ變死傷(警察電話ニ依リ横須賀警察署宛)
- 二、現役軍人ノ逮捕(通牒セラレ度)
- 三、在郷軍人ノ犯罪ニシテ裁判所ニ送致セラレ場合 在郷將校ノ場合ヲ除ク外概要ニテ宜シク候

● 家出人搜索方ニ關スル件

大正十年一月二十六日  
西警刑收第三二五號

家出人ノ搜索方ニ關シテハ出來得ル丈搜索ヲ遂クヘキハ勿論ナルモ就中精神異狀者自殺ノ虞レアル者兵役關係者要

(神奈川警)

(神奈川警)

保護老幼婦女又ハ老幼ヲ置キ去リセル男女ニ對シテハ最モ嚴重ナル搜索ヲ遂クル爲メ單ニ管區巡查ニ對シ告達ヲナスニ止マラス戸口調査ニ依リ被搜索人ノ發見ニ勉ムルノ外男女年齡ノ關係ニ徴シ左記各項ニ就キ適當ト認ムル個所ノ調査ヲ遂行シ一層其ノ實効ヲ奏スル様御督勵相成度依命此段及通牒候也

左記

- 一、宿泊人下宿人名簿其他ノ調査
- 二、人事周旋業者帳簿其他ノ調査
- 三、人夫請負業者帳簿其他ノ調査
- 四、諸會社詰工場職工名簿其他ノ調査
- 五、其ノ他多數人往來個所ノ調査

● 司法事務ニ關係アル廳府縣令發布ノ都度報告ノ件

大正十三年六月二十六日  
司法省訓令第四號

本文(一編二章二節統計、報告ニ輯ム)

● 荷馬車牽子及同營業者調査ノ件

大正十四年六月  
十四刑發第四〇號刑事課長依命通牒

犯罪捜査ノ資料ニ供シ度候條貴管内ニ居住セル馬力牽營業者竝ニ馬力牽子ニ關シ左記各欄ノ事實調査ノ上至急御回報相成度依命此段及通牒候也  
追テ調査書ハ貴署ヘ一部當課ニ一部宛備ヘ度候條之カ對要用紙ハ御申出次第御送附可致候

氏名	年	明治	年	月	日
通稱	職	業			
本地					
現住地					



前科及犯罪手続特刑務所	姓名	人相嗜好	神奈川縣
		習癖嗜好	
經歷概要(右起訴訟豫徴罪處分アラハ記入ノト)		親族所知	神奈川縣
		年氏ノ親族所知	

●送致事件結果調査ニ關スル件

大正十四年六月一日  
十四刑發第三九號刑事課長

從來各警察署ヨリ關係檢事局ヘ送致サレタル事件ノ結果ニ就テハ各警察署ノ司法係巡查カ隨時檢事局ヘ出頭シテ調査スル例トナリ居リシカ斯クテハ事務處理上多大ノ手數ヲ要シ被處分者ノ釋放後ニ於ケル行動視察上遺憾ノ點有之

(神奈川警)

(神奈川警)

裁ニ認メラルルヲ以テ本年六月一日以後ニ於ケル其結果調査ニ關シテハ當課ニ於テ之ヲ行ヒ關係各警察署ニ通報スルコトニ相成候條御承知被致度依命此段及通牒候也

前案實施ノ必要上當課員ハ各警察署ヨリ送局サルル事件ノ多寡ニ從ヒ隨時縣下各檢事局ニ出張シ左欄記載ノ事項ニ關スル調査ヲ遂クルモノトス

左欄

罪名	刑期	處分ノ結果	原籍又ハ(本籍)	住	所	氏名	送致警察署名
						生年月日	



# 第十章 工場

## ●工場法

明治四十四年三月二十九日  
法律第四十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工場法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

### 工場法

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

- 一 常時十五人以上ノ職工ヲ使用スルモノ
- 二 事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

第二條 工業主ハ十二歳未満ノ者ヲシテ工場ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ本法施行ノ際十歳以上ノ者ヲ引續キ就業セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ輕易ナル業務ニ付就業ニ關スル條件ヲ附シテ十歳以上ノ者ノ就業ヲ許可スルコトヲ得

第三條 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

第四條 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ適用セス但シ本法施行十五年後ハ十四歳未満ノ者及二

- 一 十歳未満ノ女子ヲシテ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス
- 一 一時ニ作業ヲ爲スコトヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ就カシムルトキ
- 二 夜間ノ作業ヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ就カシムルトキ
- 三 晝夜連續作業ヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキ

前項ニ掲ケタル業務ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス



**第六條** 職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後十五年間第四條ノ規定ヲ適用セス  
**第七條** 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、職工ヲ二組ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合及第五條第一項第二號ニ該當スル場合ニ於テハ少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ又一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設ケヘシ  
 職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

**第八條** 天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限リ第三條乃至第五條及前條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得

避ケヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ期間ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條及第五條ノ規定ニ拘ラス職工ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得  
 臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ行政官廳ニ届出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限リ就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間内ハ前項ノ規定ヲ適用セス

**第九條** 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ掃除、注油、検査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調整、調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危險ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

**第十條** 工業主ハ十五歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害物品又ハ爆發性發火性若ハ引火性ノ物品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危險又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

**第十一條** 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十五歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

**第十二條** 主務大臣ハ病者又ハ産婦ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

**第十三條** 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設物並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

**第十四條** 當該官吏ハ工場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

**第十五條** 職工自己ノ重大ナル過失ニ依ラスシテ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ヲ扶助スヘシ

**第十六條** 職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍吏ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

**第十七條** 職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十八條** 工業主ハ工場ニ付一切ノ権限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得

工業主本法施行區域内ニ居住セザルトキハ工場管理人ヲ選任スルコトヲ要ス  
 工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第十九條** 前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

**第二十條** 第二條乃至第五條、第七條、第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタル者及第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ從ハサル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス



第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ若ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲ササル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工場ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齢ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 本法ニ依ル行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用アルモノニ付テハ第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ外官立又ハ公立ノ工場ニ之ヲ適用ス

官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正五年一月勅令第八號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行ノ旨定メラレタルも同年五月勅令第五十六號ヲ以テ六月一日ヲ九月一日ニ改メラル)

●工場法中改正ノ件

大正十二年三月三十日 法律第三十三號

工場法中左ノ通改正ス

第一條中「十五人」ヲ「十人」ニ改ム

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第二條 削除

第三條中「十五歳」ヲ「十六歳」ニ、「十二時間」ヲ「十一時間」ニ改ム

第四條中「十五歳」ヲ「十六歳」ニ、「午前四時」ヲ「午前五時」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

第五條 削除

第六條 削除

第七條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間方六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設ケヘシ

前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設ケル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條中「第三條乃至第五條」ヲ「第三條、第四條」ニ、「及第五條ノ規定ニ拘ラス職工」ヲ「ノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ急速ニ腐敗シ又ハ變質スル虞アル原料又ハ材料ノ損失ヲ防ク爲必要ナル場合ニ於テハ繼續四日以上ニ亙ラス且一月ニ付七日ヲ超エサル限り行政官廳ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セス

第九條乃至第十一條中「十五歳」ヲ「十六歳」ニ改ム

第十二條中「産婦」ヲ「産前産後、若ハ生兒、哺育中ノ女子」ニ改ム

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトヲ得

第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建築物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十五條 工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ



第十六條中「戶籍吏」ヲ「戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者」ニ改ム

第二十條 工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條中「本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違背スル所爲ヲ爲シタルトキハ」ヲ「本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法中十六歳トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後三年間ハ第四條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ規定ニ依リ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

●工場法施行令

大正五年八月三日  
勅令第百九十三號

改正 大正一一年一月勅令第四七一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ工場法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工場法施行令

第一章 通則

第一條 左ニ掲クル事業ノミテ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ内務大臣ノ定ムル原動機ヲ用ケルモノハ此ノ限ニ在ラス

菓子、飴又ハ麵麩ノ製造

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ麩ノ製造

清酒、濁酒、白酒、味淋、焼酎、酢、醬油又ハ味噌ノ製造

行李、簾、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、籐、竹、篾、經木、蓆、蓆又ハ藁ノ手工品ノ製造

經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製

「アタン」、「バナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽子其ノ他ノモノノ編製

扇子、團扇、和傘又ハ提燈ノ製造

紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造

形紙、紙函、元結又ハ水引ノ製造

被服、足袋其ノ他ノ布帛類ノ裁縫

手工ニ依ル組紐ノ編製

刺繡、「レース」、「パテンレース」又ハ「ドロインウオーケ」ノ業

第二條 鐵業法ノ適用ヲ受クル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス

第三條 左ニ掲クル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項第二號ニ該當スルモノトス

毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造

動物ノ剝製

金屬ノ熔融又ハ精煉

水銀ヲ用ケル計器ノ製造

機寸ノ製造

火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱

塗料又ハ顔料ノ製造

「エーテル」ノ製造

溶濟ヲ用井ル護謨製品ノ製造

脂肪油ノ精製



溶濟チ用井ル油脂ノ採取  
 「ボイル」油ノ製造  
 礦油ノ蒸溜又ハ精製  
 乾燥油又ハ溶濟チ用井ル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造  
 亞硫酸瓦斯、鹽素瓦斯又ハ水素瓦斯チ用井ル事業  
 金屬、骨、角又ハ貝殼ノ乾燥研磨  
 硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉碎  
 織物又ハ編物ノ起毛  
 製棉  
 麻ノ梳解  
 其ノ他内務大臣ノ命令チ以テ指定シタル事業

第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

第四條 職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ當該職工ノ重大ナル過失ニ因ルコトヲ證明シタル場合ヲ除クノ外本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

第五條 前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外職工ノ解雇ニ因リテ變更セラレルコトナシ

第六條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第七條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金二分ノ一以上ノ扶助料ヲ支給スヘシ但シ其ノ支給引續キ三月以上ニ涉リタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ賃金三分ノ一迄ニ減スルコトヲ得

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

賃金百七十日分以上

二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ  
 賃金百五十日分以上

三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ  
 賃金百日分以上

四 身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ  
 賃金三十日分以上

第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族ニ賃金百七十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ十圓以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第十條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス  
 配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一 職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス  
 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス  
 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス  
 四 前二號ニ掲ケル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲ケル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲ケル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一 職工ノ家督相續人又ハ戸主  
 二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者  
 三 職工ノ親族又ハ職工ト同一ノ家ニ在ル者ニシテ職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第十三條 第六條ノ規定ニ依リ扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ第五條ノ規定ニ依リ費用ヲ本人ニ支給スル場合亦同シ



第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケル職工療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ工業主ハ賃金百七十日分以上ノ扶助料ヲ支給シ以後本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲ササルコトヲ得

- 一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ
- 二 扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十六條 第六條乃至第八條及第十四條ノ規定ニ依リ扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

- 一 一定額ニ依リ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ其ノ賃金ノ額
- 二 稼高又ハ就業時間ニ依リ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前就業三十日分ノ賃金ノ平均額但シ就業三十日ニ滿タサルトキハ其ノ賃金ノ平均額トス
- 三 前二號ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ニ於テ定ムル金額但シ扶助規則ニ定ナキトキハ地方長官之ヲ定ム

第十七條 前條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ金額ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ支給スルトキハ其ノ價額ハ之ヲ金額中ニ加算ス

第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、第七條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

第十九條 工業主ハ扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十條 官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

〔神奈川誓〕

〔神奈川誓〕

第三章 職工ノ雇入、解雇及周旋

第二十一條 工業主ハ職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ

職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂フヘシ

第二十三條 工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ内務大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遅滞ナク賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ積立金、信託金其ノ他何等ノ名義ヲ用井ルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滞ナク之ヲ返還スヘシ

第二十四條 工業主ハ職工ノ雇入ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受ケヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得但シ左ノ事項ニ付豫メ方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシメ又ハ職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲スコト

二 職工カ雇入契約ニ違反シ其ノ他職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セラレル場合ニ於テ職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セザルコト

第二十五條 職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主ハ豫メ確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル場合ニ於テハ工業主ハ就學ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケル職工若ハ第七條第一號第二號ニ該當スル職工解雇セラレ解雇ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スヘシ第十四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ廢止セラレタル者廢止ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合亦同シ

第十八條ノ規定ハ前項ノ旅費ニ關シ之ヲ準用ス

第四章 徒弟

第二十八條 工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第二編 保安 第十章 工場

二二九



- 一 一定ノ職業ニ必要ナル智識技能ヲ習得スルノ目的ヲ以テ業務ニ就クコト
- 二 一定ノ指導者指揮監督ノ下ニ教習ヲ受ケルコト
- 三 品性ノ修養ニ關シ常時一定ノ監督ヲ受ケルコト
- 四 地方長官ノ認可ヲ受ケタル規程ニ依リ收容セララルコト

第二十九條 工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

- 一 徒弟ノ員數
- 二 徒弟ノ年齡
- 三 指導者ノ資格
- 四 教習ノ事項及期間
- 五 就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間
- 六 休日及休憩ニ關スル事項
- 七 品性修養ニ關スル監督ノ方法
- 八 給與ノ方法
- 九 第三十條ノ規定ニ依リ設ケル規程
- 十 徒弟契約ノ條項

第三十條 徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十五歳未滿ノ者又ハ女子ニ關スル工場法ノ規定ニ準據シテ危險ヲ避ケ及衛生上ノ害ヲ防クノ方法ヲ定ムヘシ

第二十六條及之ニ關スル罰則ハ徒弟ノ收容ニ之ヲ準用ス

第三十一條 地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ違ハス又ハ徒弟教習ノ目的ヲ完クスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ矯正スル爲ニ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 第二十八條ノ條件ヲ具備セザル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名義ヲ用井ルニ拘ラス職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス第二十八條第四號ノ認可ヲ取消サレタルトキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ

第五章 罰則

第三十三條 工業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 一 地方長官ノ爲シタル扶助規則變更ノ命令ニ違反シタルトキ
  - 二 職工ノ雇入ニ付詐術ヲ用井タルトキ
  - 三 第二十四條ニ違反シ又ハ同條但書ノ規定ニ依リ許可ノ條件ニ違反シタルトキ
  - 四 不正ニ扶助義務ノ全部若ハ一部ヲ免レ又ハ免レムトスルノ所爲ヲ爲シタルトキ
  - 五 不正ニ賃金支拂ノ義務、職工ノ貯蓄金返還ノ義務又ハ第二十七條第一項ノ規定ニ依ル義務ノ全部又ハ一部ヲ免レ又ハ免レムトスルノ所爲ヲ爲シタルトキ
  - 六 第二十五條ノ認可ヲ受ケス又ハ認可ヲ受ケタル方法ニ依ラスシテ職工ノ貯蓄金ヲ管理シタルトキ
  - 七 第二十六條ノ認可ヲ受ケスシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇備シタルトキ
  - 八 第二十八條第四號ノ規程又ハ第三十一條ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令ニ違反シタルトキ
- 工業主ノ爲ニスル職工ノ雇入ニ付詐術ヲ用井タル者又ハ工業主チシテ不正ニ前項第四號若ハ第五號ニ掲ケル義務ノ全部若ハ一部ヲ免レシメ若ハ免レシメムトスルノ所爲ヲ爲シタル者ハ前項同シ但シ其ノ者ノ所爲ニ付工場法第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ之ニ代ル者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十四條 職工ノ周旋ニ付詐術ヲ用井タル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十五條 工業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 一 職工名簿ノ調製又ハ備付ヲ怠リタルトキ
  - 二 扶助規則ノ作成若ハ届出ヲ怠リタルトキ
  - 三 通貨ニ非サルモノヲ以テ賃金ヲ支拂ヒタルトキ
- 第三十六條 本令ニ規定スル所爲カ同時ニ刑法其ノ他ノ法令ノ罰則ノ規定ニ觸レル爲其ノ所爲ヲ爲シタル工業主又ハ之ニ代ル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニ對シ刑法其ノ他ノ法令ヲ適用スル場合ニ於テモ工業主又ハ之ニ代ル者ニ對シ本令ヲ適用スルコトヲ妨ケス

附則

第三十七條 本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間本令施行前ノ契約ニ之ヲ適用セス



賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ工業主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後三年內其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 本令施行ノ際工場法ノ適用ヲ受ケル工場ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月內ハ第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行ノ際職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭シ若ハ徒弟トシテ收容スル工業主前項ノ期間內ニ第二十五條、第二十六條又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第二項ノ許可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第四十條 現行ノ命令ハ工場法又ハ本令ニ牴觸セサル限り本令施行ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラレルコトナシ

第四十一條 本令ニ定ムルモノノ外主務大臣及地方長官ハ職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締其ノ他本令施行ノ爲必要ナル事項ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得

第四十二條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

工場法施行規則

大正五年八月三日 農商務省令第十九號

工場法施行規則左ノ通定ム

工場法施行規則

第一條 工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸汽機關、蒸汽タービン、瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ベルト水車及電動機トス

第二條 工場法第二條第二項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ

第三條 器械生絲製造ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出絹織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ工場法施行後五年間ハ十四時間迄其ノ後十年間ハ十三時間迄延長スルコトヲ得 織物及絹物ノ業務ニ付テハ工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ工場法施行後二年間ハ十四時間迄

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

延長スルコトヲ得

第四條 工場法第五條第一項ニ掲ケル業務ノ種類左ノ如シ

- 一 魚介ノ罐詰、罐詰、鹽藏、燻製、煮乾其ノ他腐敗又ハ變質ヲ防止スルニ必要ナル業務
- 二 果實ノ罐詰又ハ果實酒ノ醸造ニ關スル業務
- 三 新聞紙ノ印刷ニ關スル業務

第五條 工場法第九條ニ掲ケル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪、曲柄、連桿、接桿、聯桿器、唧子桿、クランク、コンネクティングロッド、クローズド、フレイム、ピストン、ロッドナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務
- 二 危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ又ハ取外シテ爲ス業務
- 三 汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ閉閉又ハ安全弁ノ取扱
- 四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接続
- 五 鋸機ニ木材ヲ送給スル業務
- 六 危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調帶、調索ニシテ完全ナル構圍其ノ他危害豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務
- 七 完全ナル構圍其ノ他ノ危害豫防裝置ナキ車軌道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第六條 工場法第十條ニ掲ケル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃磷、硫化磷、チアン水素酸、「チアンカリウム」、「フルオール水素酸」、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトリウム、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取扱フ業務
- 二 「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」石油ベンゼン、「アルコホル」、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務
- 三 火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務
- 四 金屬、鐵物、土石、骨、角、糞糞、獸毛、棉、麻、藁等ノ塵埃、粉末ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務
- 五 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオール」、「アニリン」、「クロム」若ハ「クロール」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯又ハ酸性瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務



- 六 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、鑛物、土石類ノ熔融若ハ假燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務
- 第七條 工場法第十條ノ規定ハ前條第五號及第六號ニ掲ケル業務ニ關シ十五歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用ス
- 第八條 工業主ハ左ニ掲ケル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲ケル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
  - 一 精神病
  - 二 癩、肺結核、喉頭結核
  - 三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髄膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病
  - 四 瘧毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
  - 五 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病
- 工業主ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、髓鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス
- 工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 工業主ハ産後五週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後三週日ヲ經過シタル後醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 地方長官ハ前二條ニ掲ケル場合ノ外工業主ニ對シ病者又ハ産婦ノ就業ノ制限又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得
- 第十一條 工場法第十四條ノ規定ニ依ル證票ハ様式第一號ニ依ル
- 第十二條 工業主ハ就業時間、休憩及休日ニ關スル事項ヲ工場内ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ
- 第十三條 工業主ハ扶助ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ
- 第十四條 職工就業中又ハ工場及附屬建物内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ遅滞ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ
- 第十五條 工場法施行令第十六條第一號ノ定額又ハ第十七條ノ給與ノ算出方法ニ關シ契約又ハ慣習ナキ場合ニ於テ年ヲ以テ定メタルトキハ三百六十分シ月ヲ以テ定メタルトキハ三十分シ日ノ賃金又ハ給與ヲ定ム
- 第十六條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ
- 第十七條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 第十八條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付雇入又ハ解雇アリタルモノト看做ス
- 第十九條 職工ノ雇入及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ  
前項ノ雇入ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ
- 第二十條 工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ
  - 一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ
  - 二 職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ
  - 三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合
- 第二十一條 工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ
- 第二十二條 工業主ハ左ノ場合ニ於テハ遅滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ
  - 一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ
  - 二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ
  - 三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存スヘキ書類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ
- 第二十三條 工業主扶助規則ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事項ヲ一月前ニ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第二十四條 當時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ於ケル職工ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ付テハ工業主ハ様式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第二十五條 第八條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第十七條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタル者、第十條ノ規定ニ依ル處分ニ從ハサル者及職工名簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第二十六條 第二十二條乃至第二十四條ノ届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第二十七條 本則ニ規定スル所爲カ同時ニ刑法其ノ他ノ法令ノ罰則ノ規定ニ觸レル爲其ノ所爲ヲ爲シタル工業主又ハ之ニ代ル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ニ對シ刑法其ノ他ノ法令ヲ適用スル場合ニ於テモ工業主又ハ之ニ代ル者ニ對シ本則ヲ適用スルコトヲ妨グス











第二編 保安 第十章 工場

- 一 就業セシムヘキ職工ノ定員數
  - 二 業務ノ種類
  - 三 一日ノ就業時間但シ始業及終業ノ時ヲ明記スヘシ
  - 四 休憩時間但シ其ノ回数並始時及終時ヲ明記スヘシ
  - 五 一月ノ休日ノ回数及方法
- 前項各號ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 工場法第八條第二項又ハ第三項ニ依リ差出スヘキ書類ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 申請又ハ届出ノ目的タル事項
  - 二 臨時就業ヲ必要トスル事由
  - 三 臨時就業スヘキ業務ノ種類
  - 四 期間
- 前項ノ規定ハ工場法第八條第四項ニ依リ差出スヘキ書類ニ之ヲ準用ス

- 第五條 工場管理人選任ノ認可申請書ニハ履歴書ノ外工業主及工場管理人タラムトスル者ノ連署シタル選任契約書寫ヲ添付スヘシ
- 選任契約書ニハ工場法第十八條及第十九條ノ規定ニ依リ工業主ハ工場管理人ニ對シ工場ノ管理ニ關スル一切ノ權限ヲ與ヘ工場管理人ハ工業主ニ代リテ工場法規ニ規定スル全般ノ責任ヲ負フヘキコトヲ承諾スル旨ヲ明記スヘシ
- 前二項ノ規定ハ工場法第十八條第三項但書及施行規則第二十二條第一號ノ規定ニ依ル工場管理人選任ノ届出ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第六條 前條第一項ノ場合ニ於テ工場管理人タラムトスル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ選任ニ付認可ヲ與ヘサルコトアルヘシ
- 一 工場ノ管理ニ付實權ヲ附與セサルモノト認ムルトキ
  - 二 未成年者、復權セサル家資分散者及破産者、禁治産者、準禁治産者並第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ取消サレタル

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 日ヨリ二年ヲ經過セサル者ナルトキ
  - 三 禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル日ヨリ二年ヲ經過セサル者ナルトキ
  - 四 其ノ他工場管理人タルニ適セスト認ムルトキ
- 第七條 左ノ場合ニ於テハ工場管理人選任ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ
- 一 虚偽ノ事實ニ基キ認可ヲ受ケタルトキ
  - 二 破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ禁治産若ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
  - 三 禁錮又ハ懲役ノ刑ヲ言渡サレタルトキ
  - 四 其ノ他工場管理人タルニ適セスト認ムヘキ事由生シタルトキ
- 第八條 工場法施行規則第二十條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ
- 一 職工カ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキ
  - 二 職工カ出産ノ費用ニ充ツルトキ
  - 三 其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキ
- 第九條 業務上ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ基クト否トニ拘ラス職工又ハ遺族ニ對シ扶助ヲ爲シタルトキハ工業主ハ様式第一號ニ依リ毎月取繕メ翌月二十日迄ニ知事ニ之ヲ届出ツヘシ
- 扶助金額ヨリ損害賠償額ヲ控除シ又ハ扶助金額ヲ超エテ損害賠償ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ賠償ニ關スル事項ヲ前項ノ届書ニ附記スヘシ
- 第十條 前條ノ届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ科料ニ處ス
- 第十一條 工場法及同法ニ基キ發スル命令ノ規定ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

附 則

本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
様式第一號







- 二 仕様書
- 三 圖面
- 四 工場他人所有ノ土地建造物ニ係ルトキハ其ノ承諾書  
前項ノ外知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ他ノ書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ
- 第三條 摘要書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
  - 一 工場ノ名稱
  - 二 工業主ノ原籍、住所、族稱、氏名及生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記シ且定款ヲ添附スヘシ
  - 三 工場ノ位置
  - 四 工場敷地ノ總坪數並各建物ノ名稱及坪數
  - 五 事業ノ種類
  - 六 原料、製品及製造又ハ作業ノ方法ノ概要
  - 七 使用機械ノ名稱及箇數
  - 八 原動機ノ種類、馬力及箇數
  - 九 防火及避難設備並有害物ノ排除方法
  - 十 竣工期日
  - 十一 一年ノ生産見込高
  - 十二 男女別、就業者數及寄宿舍收容人員數
  - 十三 就業時間但シ始業及終業ノ時ヲ明記スヘシ
  - 十四 男女別、年齢別又ハ業務別等ニ依リ就業時間ヲ異ニスルトキハ各其ノ就業時間ヲ明記スヘシ
  - 十五 晝夜連続作業ヲ爲ス場合ニ於テハ職工交替ノ有無及其ノ方法
  - 十六 休憩時間但シ職工ヲ二組以上ニ分テ交替ニ休憩セシムルトキハ各組毎ニ其ノ休憩時間ヲ明記スヘシ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 十七 賃金ノ計算方法及支給期
- 十八 賃金ノ外食事其ノ他ノ給與ヲ爲ストキハ其ノ給與ノ種類、金額及支給期
- 前項第十三號乃至第十八號ニ掲クル事項ハ工場ノ使用認可申請ニ至ル迄ニ於テ之ヲ追補スルコトヲ得
- 第四條 仕様書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
  - 一 建造物ノ概要
  - 二 圖面ニ表示シ難キ構造方法
  - 三 原動機、機械等ノ基礎構造方法
  - 四 煙筒、火爐、竈其ノ他設備ノ構造方法
- 第五條 圖面ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
  - 一 敷地周圍六十間以内ノ地形ノ見取圖
  - 二 敷地内建造物ノ配置圖(相互間ノ距離ヲ記入スルヲ要ス)及排水設備圖
  - 三 建造物ノ各階平面圖、側面圖、小屋伏圖、正面圖又ハ背面圖及斷面圖
  - 四 平面圖ニハ原動機、機械、火爐、竈其ノ他ノ設備ノ位置ヲ表示スルコトヲ要ス
  - 五 作業場ノ建物總坪數三十坪ニ滿タサルトキハ小屋伏圖、正面圖、背面圖、側面圖及斷面圖ヲ缺クコトヲ得
  - 六 特別ノ法令ニ依リ營業ノ免許ヲ必要トスル事業ヲ營マムトスルトキハ當該營業免許證書寫ヲ添附スヘシ但シ知事ニ於テ免許ヲ與フヘキモノナルトキハ營業免許申請書ヲ同時ニ添附シテ提出スルヲ妨ケス
  - 七 第三條第三號乃至第十號ニ掲クル事項ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ建造物又ハ原動機、火爐、竈其ノ他重要ナル設備ノ改造又ハ大修繕ヲ爲サムトスルトキハ亦前項ニ同シ
  - 八 第二條第二項、第三項、第三條乃至第六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
  - 九 工場ハ知事ノ認可ヲ受クルニ非レハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
  - 十 改造又ハ大修繕ヲ爲シタル建造物、原動機、火爐、竈其ノ他重要ナル設備ヲ使用セムトスルトキハ亦前項ニ同シ
  - 十一 引續キ七日以上午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於ケル作業ヲ爲サムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ



第十條 工場ノ事業ノ一部ヲ承繼セムトスルトキハ承繼者ハ其ノ事業ノ種類及範圍並住所、族稱、氏名及生年月日  
法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記シ定款ヲ添附シ前權利者ノ連署ヲ以テ知事ノ認可ヲ  
受クヘシ

第十一條 工業主ハ左ノ事項ヲ遅滞ナク知事ニ届出ツヘシ之ヲ變更又ハ廢止シタルトキ亦同シ

- 一 工場管理ニ任スヘキ者ヲ定メタルトキハ其ノ住所及氏名
- 二 就業者又ハ其ノ遺族ノ扶助ニ關スル規則ヲ定メタルトキハ其ノ規則
- 三 就業者ノ寄宿及賄ニ關スル規則アルトキハ其ノ規則
- 四 就業者ノ賞罰ニ關スル規則アルトキハ其ノ規則
- 五 就業者ノ積立金、信託金其ノ他貯蓄金ニ關スル規則アルトキハ其ノ規則
- 六 就業者雇入契約ノ書式アルトキハ其ノ書式
- 七 就業者ノ負傷、疾病又ハ死亡ノ檢診ヲ爲サシムル醫師ヲ定メタルトキハ其ノ氏名

第十二條 左ノ場合ニ於テハ工業主ハ遅滞ナク知事ニ届出ツヘシ

- 一 第三條第一號第二號及第十一號乃至第十八號ニ掲ケル事項ノ變更
- 二 工業主ノ死亡又ハ解散
- 三 事業ノ廢止又ハ休止
- 四 他人所有ノ土地建造物ニ係ルトキハ其ノ所有者ノ變更
- 五 工業主ニ變更アリタルトキハ第十一條ノ場合ヲ除クノ外事業ノ承繼者ハ其ノ原籍、住所、族稱、氏名及生年月日  
法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記シ定款ヲ添附シ前權利者ノ連署ヲ以テ届出ツヘシ但  
シ前權利者連署シ能ハサルトキハ其ノ事情ヲ具スヘシ
- 六 工業主ノ死亡ニ付テハ戸籍法上ノ義務者ニ於テ之ヲ届出ツヘシ
- 七 第十三條 危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スル虞アル工場ニ在リテハ豫メ適當ナル豫防裝置ヲ爲スヘシ
- 八 工場並設備方危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防若ハ除害ノ爲必要ナル事

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

項ヲ命シ又ハ工場ノ使用ヲ停止シ又ハ許可若ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

- 一 許可ヲ受ケタル日ヨリ六月以内ニ工事ニ著手セザルトキ
- 二 竣工期日ヲ經過スルモ工事落成セザルトキ
- 三 作業全部ノ休止三年以上ニ涉リタルトキ
- 四 本則又ハ本則ニヨリ發スル命令ニ違反シタルトキ
- 五 許可ノ條件又ハ制限ニ違反シタルトキ

第十五條 工場ト離宮、御殿地、御用邸、社寺、公園、學校其ノ他ノ營造物トノ間ニ相當ノ距離ヲ有セザルトキ又ハ  
人家稠密ノ場所ニシテ支障アリト認ムルトキハ工場ノ設置ヲ許可セザルコトアルヘシ

第十六條 工場ノ附近ニ火藥其ノ他ノ爆發物又ハ發火性若ハ引火性料品ノ貯藏所又ハ製造所アルトキ亦前項ニ同シ

第十七條 鑄物、鍛冶其ノ他屋外ニ火粉ヲ飛散スル虞アル工場ニ在リテハ暴風ノ際ハ臨時休業スヘシ

第十八條 工場ハ清潔ニシ出來得ル限リ採光及換氣ヲ充分ナラシムヘシ

第十九條 一所ニ收容スヘキ就業者ノ員數ハ其ノ健康ヲ害シ又ハ之ニ危険ヲ及ホス程度ニ至ラシムルコトヲ得ス

第二十條 工場ニ使用スル飲料水ニシテ衛生上有害ナリト認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止シ又ハ適當ナル裝置ヲ命ス  
ルコトアルヘシ

第二十一條 工業主ハ就業者ノ數ニ應ジ相當ノ便所ヲ設クヘシ

第二十二條 作業ノ性質不潔ナルモノ又ハ有毒性料品ヲ取扱フモノニ在リテハ適當ナル洗滌裝置ヲ設クヘシ

第二十三條 當該官吏ハ必要ト認ムルトキハ工場ニ臨檢スルコトヲ得

第二十四條 本則ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十五條 工場ニ關シ他ノ法令中別段ノ規定アルトキハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條 工業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 第二條第一項、第七條第一項、第二項、第八條第二項、第三項又ハ第九條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル  
トキ